

No 23046/22

倒産法目次

第一章 緒言

第一節 倒産法ノ目的

第二節 倒産法ト他法トノ關係

第三節 倒産法略史

第二章 倒産者

第三章 倒産行爲

第四章 受理命令

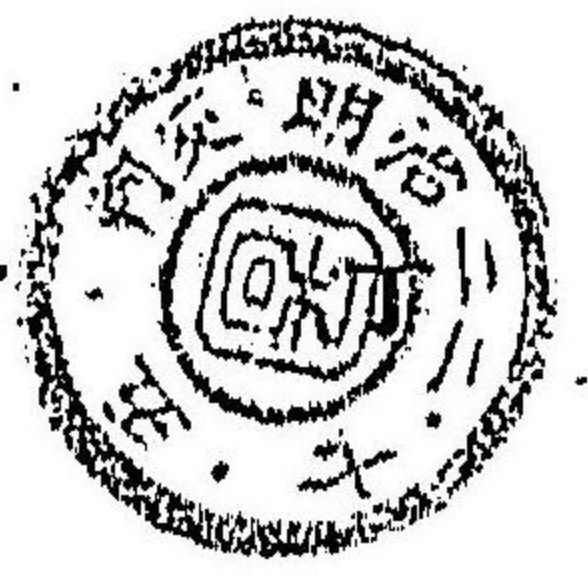
第五章 和解

第六章 倒産申渡

第七章 負債證明

第八章 管財人

一 全 一
六 丁
九 丁
一 四 丁
一 九 丁
三 九 丁
六 六 丁
七 六 丁
九 二 丁
一 〇 六 丁



倒産法目次

第九章	商務局債主集會及管督委員會	一一九丁
第十章	倒産者ノ權利義務	一二二丁
第十一章	小額負債處分	一三四丁
第十二章	組合ノ倒産	一三七丁
第十三章	倒産裁判所	一四七丁

倒産法目次 畢

倒産法 (Law of bankruptcy)

中橋徳五郎 講義

第一回

第一章 緒言 (Introduction)

第六節 倒産法ノ目的



緒言
倒産
目的

凡如何ナル部類ノ法律ト雖モ其法律ヲ研究スルニ當テ第一ニ吾人ノ心裡ニ顯出スルキモノハ其法律ハ如何ナル目的ヲ以テ規定シ如何ナル場合ニ適用スヘキモノナルヤノ問題ナリトスサレハ今倒産法ヲ研究スルニ當テモ須ラク此問題ヲ研究シ倒産法ノ目的ハ果シテ那邊ニ存スルヤヲ知ラサルヘカラス予ハ今例ヲ掲テ以テ此問題ニ答エントス茲ニ甲者アリ乙者ヨリ金千圓ヲ借り之ヲ資本トナシ或商業ニ從事シタルニ不幸ニシテ商機ヲ誤リ失敗シテ其財産ノ過半ヲ失ヒ僅ニ三百圓ヲ剩セリ然ルニ負債ノ期限到達シタルヲ以テ甲者ハ乙者ヨリ督促ヲ受ケ有金三百圓ヲ乙者ニ支拂ヒタレトモ殘餘七百圓ハ之ヲ辨償スルノ途ナキニ至リタリトセハ普通民法ハ此場合ニ於テ債主ニ如何ナル救濟法ヲ與フルヤ諸君ハ如

倒産法

何ニ民法ヲ細キ千思万考スルモ此場合ニ對スル債主ノ救濟法ヲ發見スルニ苦
ナルヘシ併シナカラ遣ハ唯一人ノ債主ニ對スル場合ヲ假定シタルモノナレハ該
債主ニシテ之ヲ承諾シ債主ノ義務ヲ免除セハ先ツ其迄ノ事ナリト雖モ今場合
ヲ轉シ甲者十人ノ債主ヨリ各百圓宛テ借用シ商業ニ從事シタルニ前ト均シク失
敗シテ七百圓ヲ失ヒ僅々三百圓ヲ殘シタリト假定セハ普通民法ハ此場合ニ於テ
如何ナル救濟ヲ債主ニ與フルヤ民法ハ負債主ニ對スル訴訟ハ必ス同時ニ提起ス
ヘシトモ規定セサレハ債主ハ各自別個ニ負債主ヲ訴フルコトアルヘシ又負債主
モ如何ナル債主ニハ負債主ヲ任拂フヘカラスト法律上拘束セラレタルニアラサレ
ハ負債主ハ隨意ニ先ツ自分ノ親シキ債主ニ負債主ヲ辨償スヘシ又或ハ單ニ期限ノ
先キナル負債主ヲ辨償スルコトモアルヘシ然ルニ現金ハ僅々三百圓ナレハ若シ十
人ノ債主ニシテ日附ノ順序ニ依リ出訴スルトセハ最初ニ訴ヘタル三人ノ債主ハ
該三百圓ヲ分配シ殘餘七人ノ債主ハ一文モ得ルコト能ハサルニ至ルヘシ若シ又
十人ノ債主同時ニ訴訟ヲ提起シタリトセハ右三百圓ノ金額ハ何人ニ付與シテ可
ナルヤ普通民法ニ於テハ是等ノ場合ニ對シ一モ規定セサレハ從テ之カ處分法ヲ

知ルニ由ナカルヘシ然リト雖モ此ノ如キ場合ハ今日吾人社會ニ於テ日常起ル所
ノ事柄ナルヲ以テ苟モ政府ニ於テ司法ノ制ヲ設ケ人民ノ紛爭ヲ裁斷スル以上ハ
是等ノ場合ニ關スル救濟法ヲ定メ債主ノ權利ヲ保護セサル可ラス是倒産法ノ制
定ナカラサル可ラサル所以ナリ故ニ倒産法ノ目的ハ一言以テ之ヲ蔽エハ民法ニ
規定ナキ場合ニ於テ債主負債主ノ間ニ成立スル所ノ權利義務ヲ規定シ成ル可ク
公平的ナル救濟ヲ與フルニ在リ語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ民法上ニ於テ救濟ヲ與フ
ルノ途ナキ場合ニ於テ其法律ノ缺點ヲ補フ爲メニ布告シタルモノナリ
以上ハ其大略ヲ説明シタルニ止ルモノナルカ詳細ニ此目的ヲ分析スレハ孰レノ
國ヲ問ハス倒産法制定スルニ當テハ其立法者ノ眼中ニ於テ常ニ左ノ四箇ノ目的
ヲ有セサルヘカラス

第一、債主ノ債權ヲ保護スルコト

債主ノ權利ヲ保護シテ成ル可ク十分ナル救濟ヲ與ヘ損失ナカラシメントスルニ
アリ

第二、負債主ノ權利ヲ保護スルコト

負債主意外ノ損失又ハ其他ノ事情ヨリ負債ヲ辨償シ能ハサル場合ニ於テ普通民法上ノ救済法ニ一任スルトキハ無資力ナル負債主ニ對シ多數ノ債主ヨリ訴訟ヲ提起シ其結果負債主ノ敗北ニ歸シ從テ負債主ハ訴訟入費等ヲ負擔セサル可ラサルニ至リ借金ノ上ニ借金ヲ重ヌルノ理ナレハ須シ法律ハ此等ノ弊ヲ防キ負債主ノ權利ヲ保護セサル可ラス且吾人ノ負債ヲ履スヤ大概自己ノ怠慢ヨリ生スルモノナリト雖モ又往々然ラサル場合モアレハ此場合ニハ又負債主ヲ保護スルノ必要ヲ生スルモノトス然レトモ這ハ隨分議論ノ存スル点ナレハ尙ホ後章負債主免除ノ章ニ於テ詳述スヘシ

第三社會ノ權利ヲ保護スルコト換言スレハ社會ノ信用ヲ維持スルコト社會ノ安寧ヲ維持スルノ必要ナルコト論ヲ俟タズ然ルニ他人ヨリ借金ヲ爲シ安リニ之ヲ返金セサルカ如キコトアラハ實ニ社會ノ經濟上ニ大影響ヲ及ホス而已ナラス從テ商業上ノ信用ヲ害シ百般ノ取引ヲ澁滞セシムルヤ明カナリ故ニ立法者ハ之ヲ防グノ目的ヲ以テ法律ヲ規定セサル可ラス

第四債主相互ノ權利ヲ保護スルコト

前已ニ述ヘタルカ如ク債主唯一人ナル場合ニ於テハ債主相互ノ權利ヲ保護スルノ必要ナシト雖モ若シ債主多數ナル時ハ往々負債主ノ財産ニ付キ各債主間互ニ相爭フノ弊ヲ生スルノミナラス先取スル者ノミ獨リ僥倖ヲ得ルノ不公平ヲ生スヘキヲ以テ法律ハ又債主相互間ノ利益ヲ公平ニ保護セサル可ラス

以上講述シタル處ハ倒産法規定ニ關シ必要ナル點ニシテ英國倒産法規定ニ於テハ右四箇ノ目的ヲ達スルカ爲メ第一ニハ負債主支拂能力ヲ失シタル場合ニ當リ其財産ヲ可成の輕便ニ可成の容易ニ可成の公平ニ債主ニ分配スルヲ眼目トシ第二ニハ若シ負債主支拂能力ヲ失シタル場合ニ當リ負債主惡意ヲ抱クコトナリ自巳所有ノ財産ヲ悉皆差出スニ於テハ負債主ニ係ル一切ノ債權ヲ消滅セシム言葉ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ此ノ如キ場合ニハ負債主ヲシ負債ノ義務ヲ免レシムルナリ之ヲ英法ニ於テ免除ト云フ是免除ナルモノハ一方ニ於テハ大利益アルカ爲メニ又一方ニ於テハ弊害ヲ生シ易キモノニシテ之ヲ設クルト否トニ就テハ大ニ議論ノ存スル所ニシテ他國ノ倒産法ト其趣ヲ異ニスル點ナリトス

上來講述シタル所ハ倒産法ノ大眼目即チ目的トスルモノナレハ以下講述セント

六
スル所ノ倒産法ヲ十分了解セントセハ當ニ是四個ノ目的ヲ眼中ニ存セサルヘカ
ラス

倒産法ト
他法トノ
關係

第二節 倒産法ト他法トノ關係

歐洲大陸中獨リ獨逸國ヲ除クノ外伊太利佛蘭西白耳義等ノ諸國悉ク皆テ倒産法
ヲ以テ商法ノ一部トシテ之ヲ規定シ英國ノ如キモ千八百六十一年ニ至ル迄ハ同一
ノ排置法ニ依リ均シク商法ノ一部トシテ規定シタリシカ同年ノ條例ヲ以テ之ヲ
變更シタルカ爲メ今日ニ在テハ獨逸英吉利亞米利加ノ諸國ニ於テハ倒産法ヲ以
テ獨リ商人而已ナラス通常人ニモ適用スルコトハナレリ是ニ於テカ學者ノ說二
派ニ分レ一ハ商人而已ニ適用スルヲ是トシ一ハ一般人ニ適用スルモノナリト主
張セリ然レトモ第一項ニ吾人支拂能力ヲ失スルト掲載シタルハ獨リ商人タル位
置ニアル時而已ニ限ラサルコトハ今日我邦ニ於テ商人タルト官吏タルトヲ問ハス
平人タルト僧侶タルトヲ論セス身代限ノ所爲ヲ爲スヲ以テ見ルモ明ニシテ身代限
ナルモノハ假令吾人カ如何ナル職業ニ從事スルモ或場合ニ於テハ免ル可ラサル
ノモノナレハ倒産法ヲ以テ獨リ商人ノミヲ支配スルノ法律トナサハ別ニ又非商

三

人ノ倒産處分ニ關スル規則ヲ制定セサル可ラサルヘシ是則チ千八百六十一年ニ
至ル迄ノ英國ノ情態ト同一ニシテ又佛國等ニ於テモ今日之ト同一ノ有様ナルヤ
疑ナク實ニ不便極ルモノト云フヘシ

三

今倒産法ヲ以テ商人ニ限り適用スヘキモノトナス論據ノ一二ヲ掲クルモ又無益
ニ非サルヘシト信スルカ故左ニ其大概ヲ掲クヘシ

一 商人ナルモノハ畢竟金錢ヲ利用シテ商業ヲ營ムモノナレハ借金ヲ爲スコトハ
商人ニ取リテハ通常ナリト雖モ官吏平人僧侶ノ如キ通常人民ニ取リテハ例外
ナリ

二 斯クノ如クナルカ故ニ商人ノ場合ニ於テハ債主多數ナルモ之ニ反シ通常人ノ
場合ニ於テハ債主ノ數僅少ナリ

三 商業上ノ取引ハ頗ル迅速ヲ貴ヒ秒時ヲ爭フモノナレハ果シテ商人ノ支拂能力
ヲ失フタルヤ否ヤヲ調査スルノ暇ナキヲ以テ商業上ニ於テハ支拂停止ヲ以テ
破産ト認定スルニ足レリトスルモ之ニ反シ非商人ノ取引ハ斯クノ如ク急速ヲ
要セサルヲ以テ金錢ノ支拂ヲ爲サルモ直ニ之ヲ以テ破産ト認メス果シテ能

カチ失フタルモノナルヤ否ヤチ調査スルノ猶豫ヲ與フルモ可ナリ
 四商人ハ一地方ニ於テ取引ヲ爲スノミナラス又多クハ遠隔地ノ人民ト取引ヲナ
 スモノナレハ從テ債主ノ多數ハ四方ニ散亂スルモ之ニ反シ通常人ハ近隣ノ者
 ヨリ借金ヲ爲スチ以テ其債主モ近隣ニアリ
 五今日ノ如ク商業上ノ取引頻繁ナル社會ニ在リテハ非商人ノ取引ハ大概現金ナ
 ルモ之ニ反シ商人ハ斯ノ如キ迂遠ナル取引ニ由ラスシテ便利ナル爲替手形等
 チ融通セリ

以上述フルカ如ク商人ト非商人トノ取引ハ其差異甚シクレハ之チ同一ノ法律ヲ
 以テ支配セントスルハ其不便甚シカルヘシ故ニ商人ニ對スル通常人ニ對スル倒
 産法ト通常人ニ對スル倒産法トハ其間之カ區別ヲ立テサル可ラスト云フニ在リ
 然レトモ之チ一方ヨリ觀察スレハ必スシモ斯ノ如キ差異ナキモノトハ云フ可ラ
 サルモ今日ノ如ク社會進歩シ取引頻繁ナル世ノ中ニハ商人ノ債主必スシモ數多
 ト云フヘカラス又往々半商半俗ノ人民モ擧ナカラスシテ通常人ニテモ爲替等ヲ
 取扱フモノアレハ昔時未開ノ時代ニ於テハイサ知ラス今日開明ノ社會ニ於テハ

論者ノ述フルカ如ク商人ト非商人トノ間ニ於テ嚴然倒産法ノ區別ヲ立ツルノ必
 用ナキモノ、如シ

第三節 倒産法略史

抑モ倒産法ノ一箇獨立ノ法律トシテ發達シタルハ極メテ近代ノ事柄ナリトス故
 ニ各國ニ於テ之ニ關スル法律ヲ制定發布シタルモ亦當世紀ニ多クシテ前世紀ニ
 於テハ殆ト其痕跡ヲ見スト云フモ過言ニ非ラサルナリ前世紀ニ在テハ何レノ國
 ニ於テモ唯普通ノ手續ニ依リ債權ノ救濟ヲ與ヘタルヲ以テ其救濟タルヤ甚々不
 十分ナリシカ前世紀ノ中頃ヨリ世界ノ經濟上ノ有様ニ一大變動ヲ來シ動産不
 動産ニ代リ世界財產ノ大部ヲ占メ從テ金錢上ノ貸借頻繁ヲ極メ其價額モ亦増加
 セシチ以テ若シ多額ノ負債主ニシテ一朝破産ヲ破ルコトアラシ乎獨リ債主ノ迷惑
 チ來スノミナラス其國ノ經濟上ニ波瀾ヲ生スルコト甚シカリキ即チ彼ノ銀行會
 社ノ如キ者破産セハ其影響ノ及ホス所皆ニ其債主而已ニ止ラス全社會ノ經濟ヲ
 破リ從テ金錢上ノ融通ヲ閉塞シ商業ノ澁滯ヲ來スチ以テ之チ不動産ヲ以テ財產
 ノ多數ヲ占メタル時代即チ金錢貸借ノ甚々稀ナル社會ニ比スレハ產ヲ破ル者多

キノミナラス之カ爲メ害ヲ蒙ル者モ亦甚ク多カリキ是ヲ以テ各國共ニ普通民法ヨリ特別ニ法律ヲ規定シ之ヲ支配スルノ必要ヲ感シ倒産法ヲ制定シタルハ則當世紀ノ始メナリトス今參考ノ爲メ各國倒産法發布ノ年代ヲ掲ケンニ

佛國ハ歐洲大陸中最モ早ク倒産法ヲ發布シタル國ニシテ千八百七年彼ノ有名ナル商法ノ一部トシテ始メテ之ヲ發布シタリ然ルニ該法タルヤ弊害多キヲ以テ其後千八百三十五年ニ至リ之ヲ改正シタリ之レ佛國現行倒産法ナリ

之ニ亞キ西班牙ハ千八百三十年ニ於テ倒産法ヲ發布シ和蘭ハ千八百三十八年ニ於テ普魯西ハ千八百五十五年ニ於テ墺太利ハ千八百六十八年ニ於テ之ヲ發布セリ是ヨリ先キ伊太利ハ千八百六十五年ニ於テ之ヲ發布セリ而シテ其最モ近代ナルハ千八百七十七年獨逸帝國ニ於テ發布シタル倒産條例ナリトス之レ歐洲大陸ニ於ケル倒産法發布ノ年代ナリ

以上ハ所謂大陸派ノ倒産法ナルカ之ニ反シ英國派ノ倒産法ハ英國及其屬地并ニ亞米利加ニ於テ行ハル、モノニシテ諸君ノ知ル如ク英米ニ於テハ民法商法ノ制定ナク法律ノ過半ハ慣習法ニ一任セリ而シテ元來倒産法ナルモノハ普通法ニ

其

其

對スル特別法ナルヲ以テ普通ノ民法商法ト同一ノ法理ヲ以テ推ス可ラサル性質ノモノナリ是ヲ以テ倒産法ナルモノハ條令ヲ以テ此特別ナル性質ノ法律ヲ發布セサル以上ハ決シテ成立セサルモノナリ故ニ英米ニ於テハ倒産法ニ關スル法律ノ制定ナキ以前ニ於テハ只普通法ノ一般ノ原則ヲ以テ債權ヲ救済セシカ爲メ從テ其救済ハ極メテ不完全ナリシ然ルニ此二國モ亦大陸諸國ト同シク商業社會ニ於テ倒産法ノ必要ヲ感セシヨリ遂ニ之ヲ發布スルニ至レリ今右二國ノ倒産法沿革ノ概略ヲ掲クレハ左ノ如シ

諸君モ知ル如ク米國ハ聯邦ニシテ或種類ノ法律ハ國會ニ於テ之ヲ議定シ合衆國全体ニ施行スルコトヲ得ルモ又或種類ノ法律ハ各州ノ自治ニ任シ中央政府ハ之ニ干渉セサルナリ而シテ其中央政府ノ制定ニ屬スルモノト然ラサルモノトノ區別ハ憲法ニ記載スル所ニシテ倒産處分ニ關スル權限ノ如キハ憲法上中央政府ニ委任シクル一ケ條ナリトス故ニ合衆國政府ハ今世紀ニ於テ憲法ニ基キ倒産法ヲ發布シタリ今其變遷ヲ分テ三段落トス即チ第一ハ千八百百年始メテ倒産法ヲ發布シタルニ在リ然レトモ反對說續々出テタルヲ以テ千八百三年ニ至リ之ヲ廢止セリ其

第二段ハ千八百四十一年ニ發布シタル倒産法ナルモ前條例ト均シク論難攻撃甚クシカリシヲ以テ之ヲ永続スルコト能ハス終始三年ニテ之ヲ廢止セリ其第三段則チ最後ニ發布セラレタルモノハ千八百七十八年ノ條例ニシテ漸次之ニ改正ヲ加ヘタルモノ即チ現行ノ米國倒産法律ナリトス以上米國倒産法沿革ノ大畧ヲ説明シタレハ以下進ンテ英國倒産法ノ沿革ヲ述ヘントス

英國ニ於テ始メテ今日ノ所謂身代限ノ所爲アル者即チ負債ノ支拂能力ヲ失シテル者ニ對シ法律ヲ發シタルハ「ヘンリー」八世(Henry VIII)ノ時代ヲ以テ權輿トス併シ其當時ノ法律ハ唯詐僞ノ所爲ヨリ破産ヲ爲シタル者ニ制裁ヲ加フルヲ目的トシ彼ノ刑法ニ所謂詐僞取財ト同一ノ目的ヲ以テ規定シタルモノニシテ特別ニ倒産法ヲ制定スルノ目的ニハ非サリシガ世運漸ク進歩シ動産物財産ノ多分ヲ占メ商業大ニ隆盛ヲ極メ從テ金錢ノ流通頻繁ニ至リタルヲ以テエリサベス(Elizabeth)女皇ノ時代ニ至リ又倒産法ニ關スル法律ヲ制定シ倒産事件ニ關スル一切ノ裁判ノ管轄ヲ大法官(Lord Chancellor)ニ委任シタリ之ヲ英國ニ於テ外國貿易ノ盛大ニ赴キ商業ノ隆興シタルハエリサベス女皇ノ時代ニ始マリシ事實ニ照セハ實際上

ノ必要ニ迫ラレ遂ニ倒産法ヲ制定シタルノ事實照々トシテ明カナリ夫レ斯クノ如ク倒産法ヲ制定シ該裁判權ヲ大法官ニ委任シタリシモ漸次倒産事件ノ増加シ從テ困難ナル事件ノ頻起セシヨリ倒産法ニ練達シタル者ヲ衆ケテ專ラ此種ノ裁判ニ從事セシメタルヘカテサルノ必要ヲ感シ遂ニ千八百三十一年ニ於テ特ニ倒産法裁判所ヲ設置シ以テ倒産處分ニ關スル事件ヲ裁判セシメタリ然レトモ未ク十分ニ債權ヲ救済スル能ハカリシヲ以テ其後千八百四十九年ニ至リ甚々完全ナル倒産條例ヲ發布セリ蓋英國ニ於テ此迄倒産法ヲ發布シタルハ單ニ商業ノ隆盛ニ赴キタルヨリ實際ノ必要ニ迫ラレ不得止シテ制定シタルモノナレハ唯直接ニ商業ニ關係アル商人ノミニ適用シ一般非商人ニ付テハ毫モ之ヲ適用スルコトナカリシカ千八百六十一年ニ於テ此區別ヲ廢シ漸ニ條例ヲ發布シ商人ト非商人トヲ間ハス均ク之ヲ適用スルコトトナセリ是英國倒産法ニ於ケル一大變化ナリトス其後未ク幾ナラスシテ又其弊害ヲ矯正スルカ爲メ千八百六十九年ニ至リ之ヲ改正シ終ニ千八百八十三年ニ至リ從來ノ法律ヲ改訂増補シテ發布シタル者則チ英國現行改訂倒産條例ナリトス

以上ヲ歐米各國ニ於ケル倒産條例制定發布ノ沿革ノ概略トス

倒産者

第二回

第二章 倒産者 (Bankrupt)

余ハ既ニ倒産法ノ緒言ヲ陳述シ終リシレハ本日ヨリ倒産條例ノ本体ニ入り講述セントス而シテ之ヲ講述スルニ當テハ先ツ第一ニ倒産處分ヲ受クヘキ者ハ何人ナルヤヲ明ニセサル可ラス即チ契約法ヲ講述スルニ當テハ結約能力ヲ有スル者ハ何人ナルヤヲ觀察スルト同シク倒産法ニ於テモ須ラク先ツ此點ヲ觀察セサル可ラス余ハ之ニ答フルニ凡ソ何人ト雖モ法律上結約能力ヲ有スルモノハ皆テ倒産法ノ處分ヲ受ケシムルヲ得ルモノナリトノ簡單ナル語ヲ以テセントス蓋此原則タルヤ獨リ英國倒産法ノミナラス荷モ倒産法ニシテ存在スル以上ハ何レノ國ノ倒産法ト雖モナカラサル可ラサルモノナリ故ニ此點ニ關シテハ別ニ茲ニ説明セサルモ諸君ハ既ニ學得セラレタル契約法ニ於テ有効ナル契約ヲ結ビ得ヘキモノハ何人ナリヤヲ觀察セラレナハ明瞭ナルヘシト信スレハ本章ニ於テハ唯結約能力ヲ有セサル者即チ倒産處分ヲ受ケサルモノニ付キ講述セントス

第一 既婚婦 (Married Women) 千八百八十二年英國ニ於テ既婚婦財產條例 (Married

Women's Property Act) ナルモノヲ發布セリ蓋獨婦ナルモノハ丁年以上ニ達シタル

トキハ法律上通常人ト同一ニ見做シ同一ノ規定ニ依ルト雖モ既ニ結婚シタル以上ハ從テ之カ規定ヲ異ニセサルヘカラス而シテ此場合ヲ規定スルモノ即チ此既婚婦財產條例ナリトス扱テ男子ニ付テハ結婚者ト獨居スル者トノ結約能力ニ付キ別ニ其間ニ差異ナシト雖モ婦女ニ付テハ然ラス其結約能力ニ關シ婚姻ノ前後ニ於テ大ナル差異アリトス則チ未婚ノ婦人ハ其結約能力男子ト相異ナルコトナシト雖モ既婚婦ハ之ナキヲ原則トス此ノ如ク結約能力ナキカ故ニ隨テ倒産處分ヲ享クシムルコト能ハサル者ナリシト雖モ或場合ニ於テハ法律上既婚婦ヲ獨婦ト見做シ結約能力ヲ有セシメシカ故ニ隨テ倒産處分ヲ受クルコトヲ得シナリ今其場合ヲ舉クレハ妻ノ夫ヨリ別居シタルカ若クハ夫カ外國ニ行キ永ク歸國ノ音信ナキカ若クハ夫カ重罪ノ刑ニ處セラレタル時等ノ如シ而シテ該條例發布以前ニ在テハ既婚婦ハ其別有産ヲ以テ自由ニ商業ヲ營ミ金錢ヲ貸借スルコトヲ得シモ其負債ニ付キ倒産處分ヲ受クヘキモノニ非ストノ規定ナリシカ該條例發布後

ハ既婚婦ハ其別有産ニ付キ商業ニ從事シ其支拂能力ヲ失フタル場合ニ限りテハ倒産處分ヲ受クルコト、ナレリ

第二夫 (Husband) 英法ニ於テハ以前ハ夫タルモノハ自己ノ負債ニ付テハ勿論其妻ノ結婚前ニ爲シタル負債ヲ支拂ハサルトキハ夫ニ於テ倒産所分ヲ受ケサル可カラサルノ規定ナリシ然ルニ千八百八十二年ニ發布セラレタル既婚婦財産條例ニ依リ斯クノ如キ負債ニ付テハ夫ハ唯婚姻ノ際其妻ノ持來リタル財産ニ限り之ヲ支拂フノ義務ヲ負擔シ其他ハ倒産所分ヲ受クルノ義務ナキコト、ナレリ

右ハ結婚前ニ妻ノ負フタル負債ニ對シ夫ノ責任ヲ述ヘタルモノナルカ之ニ反シ若シ妻ニシテ既ニ結婚シタル後借金ヲ爲シタルトキハ夫ハ如何ナル責任ヲ有スルヤト云フニ此場合ニ於テハ夫ノ命ジタルモノヲ除クノ外妻ノ勝手ニ起シタル負債ニ對シテハ夫ハ倒産處分ヲ受クルノ責ナキモノトス尤モ必要品ニ關シ妻ノ負フタル負債ハ此限ニ非サルナリ何トナレハ代理法上必要品ニ付テハ妻ヲ以テ夫ノ代理人ト推測スレハナリ

第三幼者 (Infants) 幼者ニ就テハ契約法ニモアルカ如ク千八百七十年ノ幼者救

護條令 (The Infant Relief Act) ニ依リ凡テ幼者ノ結ビタル契約ハ後日ニ至リ幼者之ヲ承認スルモ全ク無効トナシ大ニ幼者ヲ保護シタルカ故ニ幼者ハ倒産處分ヲ受クルコトナキチ原則トス但シ必要品ニ關スル契約ハ取除ナリトス

第四狂者 (Lunatics) 狂者モ亦契約法ノ規則ニ依リ其狂癪時間内ハ結約能力ナキヲ以テ從テ其時間内ニ起シタル負債ニ對シテハ縱令之ヲ支拂ハサルモ倒産處分ヲ受ケサルモノトス但時々知覺精神ノ恢復シタル際起シタル負債ニ對シ倒産行爲ヲナシタル時ハ此限ニ非サルナリ

又英國ニ於テハ各地方ニ於テ委員ヲ撰ヒ狂者ヲ管轄セシムルコトニシテ狂者ノ財産管轄ハ此委員ニ一任セリ故ニ該委員ニシテ若シ狂者ノ財産ヲ以テ商業其他ノ取引ヲ營ミ不幸ニシテ損失ヲ醸シ爲メニ支拂能力ヲ失シタルトキハ狂者之カ倒産處分ヲ受クルモノトス

第六外國人 (Foreigner) 這ハ倒産條令第六條第四項ノ規定スル所ニシテ該條令ニ依レハ外國人ニシテ英國内ニ住所ヲ有シ居ルモノニシテ倒産處分ノ請願アル以前一ケ年以内ニ英國ニ住居シタル者若クハ自己ノ住居又ハ營業所ヲ所有シタル

モノハ倒産處分ヲ受クヘキモノトス而シテ其負債ハ之ヲ英國ニ於テ起スモ又ハ外國ニ於テ起スモ敢テ制限ナケレハ何レノ國ニ於テ負債ヲ起スモ此點ニ關シテハ毫モ倒産法ノ間フ所ニ非サルナリ

第六組合 (Partnership) 組合ナルモノハ今日我國ノ訴答文例ニモアルカ如ク一ノ無形人ニ非スシテ連帶者ナリシヲ以テ英國ニ於テハ以前ハ組合總員連帶ノ名義ニ非レハ倒産處分ヲ受クルコトナカリシカ今日ノ條例ニテハ組合夫レ自身組合ノ名義ヲ以テ倒産處分ヲ受クルコトヲ得ルニ至レリ

第七會社 (Companies) 會社ニ關スル英國現行法律ハ千八百六十二年ノ會社條例ナリトス而シテ該條例ニ依リ認可ヲ得タル會社ニ就テハ別ニ會社ノ解散處分ニ付キ規定スル所アルヲ以テ這ハ倒産法ノ管轄外ニ屬スル無形人ナリトス故ニ毫モ倒産法ニハ關係ナキモノトス

第八負債主ノ死亡 (Death of Debtor) 負債主ノ死亡シタル場合ニ於テハ倒産處分ヲ受ケサルモノナリヤ否ヤト云フニ這ハ條例第百八條ニ規定スル所ニシテ縱令負債主死亡スト雖モ尙法律上生存スルモノト見做シ倒産處分ヲ受ケシムルモノ

ナリ
終リニ參考ノ爲ニ一言スヘシ前既ニ陳述シタル如ク英國ニ於テ倒産條例ヲ一般人民ニ及ホシタルハ實ニ千八百六十一年ナリトス故ニ今日ヨリ之ヲ觀レハ商人ニ非サル一般人民ハ千八百六十一年ニ至ル迄ハ倒産處分ヲ受ケサルノ既得權ヲ有シタルヲ以テ法律ハ既往ニ溯ラサルノ原則ニ依リ此條例以前ニ係ル負債ニ對シテハ倒産處分ヲ受ケサルモノトス但商人ハ之ニ反シ倒産處分ヲ受ケサルヘカラス何トナレハ商人ハ該條例發布以前ヨリ既ニ倒産處分ヲ受ケシモノナレハナリ

第三章 倒産行爲 (條例第四條) (Acts of Bankruptcy)

第一節 總論

抑モ負債主ニ對シ倒産處分ヲ行フハ元ト負債主ノ負債ヲ辨償ヒサルヨリ不得止行フノ處分ニシテ其負債ヲ辨償スル能ハサルコトヲ倒産法ノ語ニテ支拂能力ヲ失フコトモノト云フ然ルニ諸君モ知ラル、如ク支拂能力ヲ失シタル負債主ハ概テ債權ノ救正ヲ免レンカ爲メ或ハ財産ヲ隱匿シ或ハ身体ヲ潛匿シ或ハ財産ヲ書

倒産行爲 總論

換へ甚シキニ至リテハ失望ノ餘リ財産ヲ浪費スルニ至ルハ吾人ノ今日日常目撃
 スル所ナリ而シテ倒産法ノ目的ハ素ト負債ノ辨償ヲ受クルニ在ルヲ以テ之カ目
 的ヲ達セントセハ勢ヒ負債主ノ財産ヲ差押へ以テ負債ノ辨償ニ宛テサルヘカラ
 ス若シ然カセサルニ於テハ或ハ之ヲ隠匿シ或ハ之ヲ浪費シ或ハ之ヲ書換ユルノ
 結果ヲ生スルニ至ルヘシ是ヲ以テ倒産處分ヲ施スニ當テ第一着ニ必要ナル手續
 ハ負債主ノ財産ヲ差押ユルニ在リ然レトモ狼リニ之ヲ差押ユルニ於テハ人民ノ
 權利ヲ害シ社會ノ平和ヲ破ル甚シカルヘシ故ニ一方ノ負債主ノ權利ヲ保護セン
 トスルノ點ヨリ云へハ可成的之ヲ鄭重ニセサルヲ得ス又一方ノ債主ノ權利ヲ救
 正スルノ點ヨリ云へハ可成的速ニ財産ヲ差押ヘサルヘカラス而シテ速ニ財産ヲ
 差押ヘントセハ速ニ倒産處分ニ着手セサルヘカラス然レトモ倒産處分ナルモノ
 ハ元ト是レ人民ノ私權ニ關スルモノナルカ故ニ裁判所ヨリ干涉シ之ニ着手スヘ
 キニ非レハ或ハ負債主ヨリ倒産處分ヲ請願スルカ又ハ債主ヨリ請願スルカ二者
 一ノ請願ナカラサルヘカラス然ルニ此請願ト雖モ何時ニテモ許スヘキモノニ非
 ス必スヤ負債ヲ辨償セサリシ事實ノ證明ナカラサルヘカラス此證明アリタル後

始メテ債主ハ負債主ニ對シ倒産處分ヲ請願スルコトヲ得ルモノトス併シ之レト
 テモ亦之ヲ適當ニ爲サ、ルニ於テハ或ハ負債主ノ權利ヲ害シ或ハ反對ニ負債主
 ニ財産ヲ隠匿スルノ餘地ヲ與フルニ至ルヘシ而シテ此點ニ關スル法律ノ規定ニ
 付キ各國其趣キチ同フセス或ハ倒産處分ノ請願ヲ爲サシムルニハ負債ノ支拂ヲ
 停止スレハ可ナリト云ヒ或ハ支拂停止ノミニテハ未タ十分ナラス必スヤ實際支
 拂能力ヲ失シタルノ証憑ナカラサルヘカラスト云フモノアリ

第三回

前回ニ於テ倒産處分ニ着手スルニハ負債主ノ支拂ヲ停止シタル時ヲ以テスヘキ
 カ又ハ負債主ノ支拂能力ヲ喪失シタル時ヲ以テナスヘキヤチ陳述シタリシガ此
 支拂能力ヲ喪失スルト支拂ヲ停止スルトハ別ニ之ヲ説明セサルモ明カナルコト
 ニシテ支拂停止トハ實際負債ヲ償却スルノ資力ナキヨリ之ヲ支拂ハサルカ又ハ
 實際負債ヲ償却スルノ資力ナキニハ非ラサルモ故意ニ之ヲ支拂ハサルカ兎ニ角
 負債ヲ辨償セサル場合ヲ云ヒ之ニ反シ支拂能力ヲ喪失スルトハ實際負債ヲ償却
 スルノ資力ナキ場合ヲ云フ而シテ今日各國ノ法律ニ於テハ概テ支拂ヲ停止スル

ノ事實アレハ直ニ倒産處分ニ着手シテ可ナリト規定セリ蓋支拂ヲ停止スレハトテ直ニ之ヲ以テ必スシモ負債ヲ辨償スル能ハサルモノナリトハ云フヘカラサレトモ若シ夫レ支拂能力ヲ喪失シタル場合ニ於テ始メテ倒産處分ニ着手スルモノトセハ負債主ハ果シテ其支拂能力ヲ失シタルヤ否ヤヲ取調ヘサルヘカラス而シテ之ヲ取調フルニハ先ツ第一若ニ其事件ニ着手シ十分ニ之ヲ吟味セサレハ明瞭ニ之ヲ知ル可ラサルヲ以テ殆ント之ヲ目安トシテ倒産處分ニ着手スルコト能ハサルヘシ且十中八九ノ場合ニ於テハ一朝支拂ヲ停止スレハ之カ爲メ忽チ世人ノ信用ヲ失ヒ其結果支拂能力ヲ喪失スルニ至ルヲ以テ此場合ニ於テハ通常其負債ヲ償却セサルハ全ク之ヲ支拂フノ資力ナキモノナリト推測セサルヘカラス良シ萬一之ヲ支拂フノ資力ヲ有シナカラ故意ニ之ヲ支拂ハサレハ後日ニ至リ其處分ヲ取消スモ可ナルヘク况ンヤ倒産處分ナルモノハ前回既ニ陳述シタル如ク最モ迅速ニ之ニ着手スルニ非レハ負債主ニ於テ或ハ財産ヲ隱匿シ或ハ詐僞ノ讓與ヲナスノ恐アルヲ以テ負債主ノ支拂ヲ停止スルヤ否ヤ直ニ倒産處分ニ着手スルニ非レハ到底完全ノ救正ヲ與ヘ債權ノ満足ヲ得セシムルコト難カルヘシ左レハ各國共

ニ負債主ニ於テ負債ノ辨償ヲ爲サ、ルコトアレハ直ニ債主ハ之ヲ理由トシテ倒産處分ヲ請願シ得ルモノナリト規定セルカ如シ是蓋其當ヲ得タルモノナルヘシ然ルニ茲ニ又支拂停止ニ付キ其徵候アレハ直ニ倒産處分ニ着手スヘシト規定スル國ト之ニ反シ負債主ニ於テ債權ノ執行ヲ逃レントスルノ意志アルトキニ始メテ倒産處分ニ着手スヘシト規定スル國アリ是則チ英國倒産法ノ規定ニシテ該規定ニハ一々其場合ヲ列舉シ斯々ノ行爲アレハ債主ハ直ニ其行爲ヲ理由トシテ倒産處分ヲ請願スルコトヲ得ルモノトセリ然レトモ此行爲ヲ列舉スルノ得失ニ關シテハ議論ニ派ニ分レ其行爲ヲ列舉セサルヲ以テ可トスル者ハ曰ク單ニ支拂ヲ停止シタルコトノミヲ規定セハ足レルモノニシテ果シテ如何ナル場合如何ナル情況アレハ支拂停止ト認ムヘキヤハ一ニ裁判官ニ委任シテ可ナリ若シ一々之ヲ規定スルトキハ時ニ或ハ漏脱ヲ生シ之カ規定ヲ爲サ、ル場合アルヤモ知ルヘカシス即チ法律ノ規定外ノ場合モアルヘシ故ニ斯ル事柄ハ一ニ各事實ニ付練達ナル裁判官ノ判定ニ放任スル方寧ロ其當ヲ得ヘシト之ニ反シ其行爲ヲ列舉スヘシト主張スル者ハ曰ク若シ斯クノ如キ行爲ヲ規定セカレハ裁判官ノ權力廣漠ニ失

シ往々各裁判所ニ於テ認定權ヲ異ニシ甲裁判所ニ於テハ同一ノ情況ヲ以テ倒産處分ヲ爲スニ十分ナル行爲トナスモ乙裁判所ニ於テハ之ヲ以テ倒産處分ヲ申渡ニ不十分ナル行爲トナスコトアルニ至ルヘシ斯クノ如ク區々ナル結果ヲ生スルハ甚ク不公平ナルヲ以テ豫メ一定ノ規定ヲ定ムヘシト今日ノ英國倒産法及ヒ古昔ノ佛國倒産法ハ此説ト均シク其行爲ヲ列記スルモ今日ノ佛國倒産法及ヒ其他歐米諸國ノ倒産法ニ於テハ一々倒産行爲ヲ列記スルコトナシ英國倒産法ニ於テハ倒産行爲ヲ列記スルニ付之ヲ大別シテ三箇トセリ即チ左ノ如シ

- 第一 負債主ノ身体ニ關スルモノ
 - 第二 負債主ノ財産ニ關スルモノ
 - 第三 負債主ノ情況ニ關スルモノ
- 右三箇ノ倒産行爲ヲ規定スルニ就キ標準トナル所ノモノハ何モノナルヤト云フニ第一種ノ身体ニ關スル行爲ニ就テノ標準ハ債主ヨリシテ負債主ヲ捕ヘ債權ノ救正ヲ容易ニセントスル場合ニ當リ之ヲ妨害セントスル意志ヲ證明スルニ足ル

ヘキ證據トナル場合はナリ今其場合ヲ掲クレハ(第一)負債主負債ヲ支拂ハスシテ英國境外ニ旅行スルコト(第二)英國外ニ滞在スルコト(第三)自己ノ住家ヨリ出發スルコト(第四)家屋ヲ閉鎖スルコト(第五)其他自己ノ身体ヲ隱匿スルコト是ナリ而シテ此等ノ行爲アルトキハ債主ハ負債主ヲ捕ヘテ直接ニ談判スルコト能ハサルノミナラス亦從テ之カ支拂ヲ受クル能ハサルノ結果ヲ生スルモノトス然レトモ茲ニ注意スヘキハ此等ノ行爲アルモ負債主ニシテ債主ノ權利ヲ妨害シ若クハ故意ニ其返濟ヲ遲延スルノ意志ナキトキハ倒産行爲トハナラサルノ一事是ナリ何トナレハ凡ソ人間ニハ種々用向ノアルモノナルヲ以テ他ノ用事ノ爲メ外國ニ旅行スルコトモ度々アルヘケレハ之ヲ以テ直ニ倒産行爲トナシ倒産處分ニ付スルハ負債主ニ取リテ甚ク迷惑ナレハナリ左レハ如何ナル場合ニ於テ此等ノ行爲ヲ以テ倒産行爲トナスヘキヤト云フニ第一負債主ニ於テ債權ノ執行ヲ免ル、ノ意志明ニ證明セラレタル場合例令ハ負債主他國ニ旅行スルニ當リ友人ニ書ヲ送り最早負債ヲ償却スルノ道ナキヲ以テ他國ニ旅行スト通知シタル如キ場合はナリ第二ハ縱令債權ノ執行ヲ免ル、ノ意志明カニ證明セラレサルモ負債ヲ償却スルノ準備ヲ爲

サスシテ他出シタルカ爲メ債主ハ期限ニ至リ之カ支拂ヲ受クル能ハサル場合はナリ此場合ニ於テハ縱令負債ヲ支拂ハサルノ意志ナキモ法律上其意志ヲ推測ス何トナレハ法律上何人ニテモ自己ノ爲シタル所爲ノ自然ニ從フヘキ結果ヲ知ラサルヘカラストノ原則アレハナリ故ニ一般ノ場合ニ於テハ此意志ヲ證明スルノ責任債主ニアリト雖モ前例ノ場合ノ如ク期限ニ至ルモ債主之カ支拂ヲ受クル能ハサルトキニハ證明ノ責任債主ニ移轉ス則チ負債主ハ斯ル意志ナキコトヲ證明セサルヘカラスト

又玆ニ注意スヘキハ前述ヘタル五種ノ所爲中負債主ノ英國境外ニ旅行スルコト及ヒ英國外ニ滞在スルコトハ外國人ニ適用スヘカラスト一事是ナリ何トナレハ外國人ハ他ニ自己ノ家屋若クハ營業所ヲ有シ英國内ニ住居スルハ取除ケナレハ此等外國人ニシテ自國ニ歸レハトテ直ニ之ヲ以テ債權ノ執行ヲ逃ル、ノ意志アリトハ推測スヘカラストハナリ

最後ニ家屋ヲ閉鎖スルト述ヘシカ此ハ如何ナル場合ナリヤト云フニ縱令負債主自己ノ家屋ニ居ルモ債主ニ而會チ斷ルカ若クハ自己ノ店ヲ閉鎖シタル場合ヲ指

スナリ

第二ハ則チ財産ニ對スル倒産行爲ニシテ之ヲ別テ三種トス則チ(第一)負債主自己ノ所有財産ノ全部ヲ自己ノ選擇シタル管財人ニ讓渡ス場合(條令第四條第一項第一(第二)負債主自己ノ財産ノ全部若クハ一部ヲ詐欺ノ方法ヲ以テ讓渡シ又ハ引渡シ又ハ移轉シタル場合(條令第四條第一項第二(第三)負債主自己ノ財産ノ全部若クハ一部ヲ債主中ノ一部ノ債主ニ讓渡シタル場合はナリ之ヲ倒産法上詐欺ノ選擇ト云フ(條令第四條第一項第三)

右ノ内第一ノ場合ニ於テハ負債主ニ於テ惡意ノ有無ヲ問ハサルモ第二ノ場合ニ於テハ全ク惡意ヨリ成立スル場合則チ財産隠匿ノ場合ヲ稱シ第三ノ場合ニ於テハ惡意アル場合ト惡意ナキ場合ヲ含ムモ法律ハ凡テ惡意アルモノト規定セリ扱亦此第一ノ場合ノ如ク負債主自己ノ財産ノ全部ヲ管財人ニ讓渡シタルトキハ其目的タル負債主ハ最早負債ヲ償却スルノ目途ナキヨリ債主ノ利益ヲ計リ自己所有財産ノ悉皆ヲ管財人ニ讓渡シ以テ負債償却ノ始末ヲ爲サントスルニ在ルヲ以テ一方ヨリ之ヲ見レハ其意志タル實ニ公平無私ニシテ毫モ財産ヲ隠匿シ債主

害ハントスルノ意ナシ然ルニ尙ホ法律ハ此等ノ行爲ヲ以テ倒産行爲トナシ倒産處分ヲ受ケシムルハ何故ナリヤ曰ク他ナシ元來倒産法ヲ設ケタルヤ前既ニ倒産法ノ目的ヲ講述スル際陳述シタル四箇ノ目的ヲ違スルニアレハ何人ニテモ支拂ヲ停止シタルトキハ此倒産法ノ規定ニ依リ以テ之ヲ公平ニ處分セサルヘカラス然ルニ負債主勝手ニ管財人ヲ撰ヒテセハ其行爲夫レ自身既ニ倒産法ノ規定ニ背反スレハナリ既ニ其行爲倒産法ニ背反スルトモハ速ニ其行爲ヲ取消シ此法律ノ支配ヲ受ケサシメサルヘカラス故ニ負債主ノ意志ノ善惡如何ヲ問ハス唯條令ニ背反シタルノ點ヲ以テ該所爲ヲ倒産行爲トナスモノナリ

第二管財人ニ財産ヲ讓渡スコトハ畢竟自己ノ財産負債ヲ償却スルニ不足シタル場合ニシテ既ニ負債ヲ償却スルニ不足シタル地位即支拂能力ヲ失シタル以上ハ此條令ニ依リ之カ處分ヲ受ケサルヘカラス而シテ此財産ヲ讓渡ストハ單ニ自己所有財産ノ一部分ヲ讓渡シタルコトヲ云フニ非スシテ殆ント全部財産ヲ讓渡シタル場合ナラサルヘカラス何トナレハ殆ント全部ノ財産ヲ讓渡シタルニ非レハ其結果必スシモ支拂能力ヲ失シタル場合ニ至ラサレハナリ然ルニ一方ニ於テ

財産ノ全部ヲ讓渡サレハ不可ナリト云ヘハ語弊アリテ只一小部分ヲ殘シ九十九部ヲ讓渡シタルトキハ倒産行爲ト爲スヘカラスナルニ至ラン故ニ何程讓渡セハ倒産行爲トナシテ可ナルヤハニ裁判官ノ判定ニ任スヘシ

第四回

前回ニ於テハ財産ニ關スル倒産行爲中負債主カ其財産ヲ管理人ニ渡シタル場合ヲ説キタルヲ以テ今回ハ負債主カ詐欺ノ所爲ヲ以テ財産ヲ讓渡シタル場合ヲ説カンニ既ニ前回ニ於テ述ヘタル負債主ノ財産ヲ管理人ニ讓渡スコトハ其負債主ノ意思如何ヲ問ハサルヲ以テ假令ヒ詐欺ノ意思ナキ善意ヲ以テ財産ヲ讓渡スモ之ヲ以テ直ニ倒産行爲ナリト見做ス之ニ反シテ今回ニ於テ述フル財産讓渡ヲ以テ倒産行爲ナリト見做スニハ負債主ニ詐欺ノ意思アル場合ニ限ルモノナリ其詐欺ノ意思トハ即チ財産ヲ隱匿シ若クハ財産ヲ浪費スル如キ總テ負債仕拂ノ義務ヲ免カレ債主權ヲ傷害スルノ意思アル場合ヲ云フ而シテ其負債主ノ財産ヲ讓受シルコトハ必スシモ管財人ニ限ラス何人ニテモ其人ニ制限アルコトナシ此場合ニ於テモ亦其財産ノ全部ヲ讓渡シタルト其財産ノ一部ヲ讓渡シタルトニ付キ多

少ノ差異アレハ請フ之ヲ左ニ論ゼン
 既ニ多數負債ヲ有スル負債主カ自己ノ所持スル財産ノ全部ヲ他人ニ讓渡シタル
 コトハ債主ニ取リテハ實ニ危険ナルノ取引ト謂ハサルヲ得ス何トナレハ既ニ負
 債主ノ手許ニ財産ナケレハ從テ金錢ノ仕拂ヲ受クルノ望ミ絶ユレハナリ然レト
 モ此財産ヲ他ニ讓渡シスルコトハ若シ善意ヲ以テスルトキハ唯ニ惡事ナラサル
 ノミナラス商賈等ニ於テハ其財産ヲ他ニ轉轉スルコトハ其取引上實ニ止ムヲ得サ
 ル次第ニシテ就中或商人カ其商業ヲ變スルニ當リテヤ必スヤ今マテノ商賈品ハ
 他ニ賣却シテ新商賈品ヲ仕入セサル可カラサルコトハ商賈社會ニ往々行ハル、
 コトナリ故ニ負債主カ其全部ノ財産ヲ他ニ讓渡シタリトテ直チニ以テ倒産行爲
 ナリト見做ス可カラス若シ之ヲ以テ倒産行爲ナリト見做スニハ必スヤ其負債主
 ニ惡意アルノ徵候ヲ表セサル可カラス而シテ其負債主ニ惡意アルヤ否ヤノ徵候
 ハ何ニヨリテ之ヲ知ルヤト云フニ必竟負債主ノ受クル酬報アルト否ヤトニヨリ
 テ之ヲ探知セサル可カラス何トナレハ人ヨリ負債ヲ負ヒナカラ其負債ヲモ返濟
 スルコト能ハサルニ何ソ大胆ニモ約報ナシシテ人ニ財産ヲ與フルノ理由アラフ

六 四九

ヤ故ニ約報ナクシテ他ニ財産ヲ讓渡シタルトキハ法律上負債主ニ惡意アルコト
 チ推測ス之ニ反シテ約報ヲ受ケテ財産ヲ他ニ讓渡シタルトキハ一應善意ヲ以テ
 讓渡シタルモノト見做スモ若シ其約報ノ價值カ其讓渡シタル財産ノ價值ニ應シ
 テ非常ノ差異アルトキハ法律ハ負債主ニ惡意アルモノト見做ス勿論充分ノ約報
 アル場合ニ於テモ他ノ證據上ヨリシテ負債主ニ惡意アルコト明カナルトキハ之
 チ以テ倒産行爲ナリト見做スコトヲ得ヘシ
 右ハ負債主全部ノ財産ヲ讓與シタル場合ナルカ今其一部ノ財産ヲ他ニ讓與シタ
 ルトキハ如何ント云フニ之レ亦負債主ニ惡意アル場合ニ於テハ矢張り倒産行爲
 トナルモノトス然レトモ此一部ノ財産ヲ他ニ讓渡スルコトハ全部ノ財産ヲ他ニ讓
 渡スルトハ異ナリ負債主ニ惡意アルコトヲ證明スル甚タ困難ナリ何トナレハ凡
 ソ商賈ナルモノハ獨リ金錢ノ融通ノミニ非スシテ財産物件ヲモ融通取引スルモ
 ノナレハ商賈人ナルモノハ物品ヲ賣却スルコトアル可ク又物品ヲ買入ル、コトモ
 アル可クシテ之ヲ買入ル、トキハ財産ノ一部分トナリ之ヲ賣却スルトキハ財産
 一部分ノ讓渡シトナルモ之ハ商賈人ニ於テハ當然ノ談ニシテ其財産ノ一出一入

ハ以テ倒産行爲ノアルト否ヤト決定ムルニ足ラサルナリ故ニ債主ノ一部財産ノ讓與ニ付キテ約報ナキ場合ニ於テハ餘程注意セサル可カラス又他ニ讓渡シタル財産ノ假ト全部財産ノ假トナ比較セサル可カラス尤モ約報ノナキ場合ニ於テハ債主ニ惡意アリトノ推測ヲ生シ易シ之ニ反シテ若シ少シコテモ約報アル場合ニ於テハ能ク其全部ノ財産ト其讓渡シタル一部ノ財産トノ價值ヲ比較シ又其負債ノ高ト財産トノ價ヲ比較シ及債主ノ有スル信用等諸般ノ情況ニ應ジテ債主ノ意思如何ヲ探知セサル可カラサルナリ

右ノ如ク債主カ約報ナクシテ財産ヲ讓渡シタル場合ニ於テ其讓渡カ全部財産ニ關スルトキハ法律上常ニ債主ニ惡意アリト推測スルヲ以テ之ヲ稱シテ法律上ノ事項 (Matter of Law) ト云ヒ之ニ反シテ其讓渡カ一部財産ニ關スルトキハ前述セシ如ク債主ノ身遂ヲ繞圍スル所ノ諸般ノ情況事實ヲ觀察シテ其債主ノ意思如何ヲ探知セサル可カラズ決シテ全部財産ノ讓渡ニ於ケルカ如ク法律上負債主ノ意思ヲ推測スルコトナシ故ニ之ヲ事實上ノ事項 (Matter of Fact) ト稱シテ特別ノ證明ヲ要スルコトニセリ

次ニ詐欺ノ撰擇ノコトヲ述ヘンニ(條例第四條第一項第三及第四十八條第一項及第二項)前述シタル如ク債主ノ財産ニ關スル倒産行爲ハ專ラ債主ニ對スル債主ノ權利ヲ保護スル爲メノ規定ナルモ今講述スル所ノ詐欺ノ撰擇ハ獨リ債主ニ對スル債主ノ權利ヲ保護スルノミナラス負債主ヲ併セテ保護センカ爲メニ規定シタルモノナリ即チ先回倒産法ノ目的ヲ講スル場合ニ於テ述ヘタル債主負債主ヲ公平ニ保護スル最終ノ目的ニ該當スルモノトス

借テ詐欺ノ撰擇トハ如何ナルコトヲ稱スルヤト云フニ債主カ其負債ヲ債主ノ債權ノ高ニ應ジテ公平ニ仕拂ハスシテ特ニ其債主中ノ一人若クハ二人ヲ撰ミテ其人ノミニ負債ヲ仕拂フタル所爲ヲ稱スルモノナリ去レトモ金ヲ貸リタルモノカ其負債ヲ債主ニ仕拂フコトハ債主ノ行フ可キ至當ノ事柄ナルヲ以テ債主カ未ダ仕拂能力ヲ失セサル間ニ於テ債主ニ其負債ヲ仕拂フコトハ容ム可キコトニ非サルノミナラス正ニ贊美ス可キノ事柄ナリ然レトモ全体ノ債主ニ負債ヲ仕拂フ能力ナキコトヲ知リツ、殊更ニ公平ニ全体ノ債主ニ其財産ヲ分配セスシテ其債主中ノ一人若クハ二人ニ負債主ノ有スル全部ノ財産ヲ仕拂フダリトセハ必スヤ

他ニ其負債ノ仕拂ヲ受ケサル所ノ債主ヲ生セサルヲ得ス若シ之ヲモ尙ホ負債主
 カ其借金ヲ返濟スルハ正ニ嘉ミス可キ事柄トシテ之ヲ許ストキハ終ニ不公平ナル
 結果ヲ生シテ他ノ負債ヲ受ケサル債主ノ債權ヲ傷害スルヤ實ニ大ナル可キナリ
 故ニ此ノ如キノ財産讓渡ハ一ノ倒産行爲ト見做シテ其讓渡ハ全ク第三者ニ對シ
 テハ無効ナリト定メ唯ニ負債主カ一部ノ債主ニ其財産ヲ讓渡スコトヲ防遏スル
 ノミナラス併セテ尙ホ債主ニ於テ其財産ヲ讓受クルモ全ク無効ナリト規定シタ
 リ併シナカラ道路ニ物品ヲ賣却スル如キ小賣商人ノ場合ハ暫ク擱キ荷モ豪商大
 買カ商買取引ヲナスニハ先ツ其商賣得意先ノ一定スルモノニシテ其物品ノ取引
 ニヨリテ互ニ債主トモナリ又負債主トモナル場合少ナカラス此ノ如ク相互ニ債
 主トモナリ負債主トモナル以上ハ其取引上ニ於テ物品ヲ買取リテ代金ヲ仕拂フ
 コトモアル可ク又一時ノ都合ヲ以テ其代金ヲ仕拂ハサルカ爲メニ負債トナリ後
 ニ至リテ之ヲ仕拂フト云フカ如キ場合アルハ商業上避ク可カラサルコトニシテ
 亦無カラサル可カラサル事柄ナリ故ニ負債主カ一部ノ債主ニ金ヲ仕拂ヒタリト
 テ狼リニ之ヲ目シテ倒産行爲トハナス可カラス何トナレハ其債主ト負債主トノ

間ニハ兼テ取引上ノ關係アルヤモ計ラレハナリ依テ負債主カ一部ノ債主ニ
 金錢ヲ仕拂フコトヲ目シテ倒産行爲ナリトスルニハ必スヤ幾分ノ制限ヲ設
 ケサル可カス即チ詐欺ノ撰擇タル所爲ヲ認ムルニハ二個ノ要素ノアルアリ第一
 ハ仕拂能力ヲ失シタル負債主ニヨリテ仕拂ハレタルコト第二ハ他ノ債主ヨリモ
 一部ノ債主ヲ利益スルノ意思ヲ以テ爲タルコト是ナリ(條例第四十八條第一項第
 二參看)故ニ假令ヒ其財産讓渡ノ結果ヨリシテ後ニ倒産處分即チ仕拂能力ヲ失ス
 ルトモ其負債ノ仕拂若クハ其財産ノ讓渡ヲナシタル當時ニ於テ充分其負債ヲ仕拂
 フノ能力ヲ有シタルトキハ好シヤ其翌日ニ至リテ商業社會ニ一蹟シ其資産ヲ破
 リテ一文ナシトナルモ之ヲ目シテ倒産行爲トハ云フ可カラサルナリ而シテ詐欺
 ノ撰擇ノ第二ノ要素中ニ故意即チ一部ノ債主ヲ利益スルノ意思ト云フコトアリ
 之ハ負債主自分ヨリ進メテナシタルコトナラサル可カラス故ニ仕拂能力ヲ失シ
 タル地位ニ立チナカラ一部ノ債主ニ殊更ニ其負債ヲ仕拂フタルモ若シ其仕拂ヲ
 ナシタルハ債主ノ強迫手段ニヨリテ仕拂ヲナシタルカ又ハ裁判所ノ執行ノ爲メ
 ニ仕拂タルカ又ハ債主ノ強迫ニ付キテハ必スシモ獨リ腕力ノ強迫ノミナラス若

シ仕拂ハサルトキハ出訴ス可シト云フ強迫ニテモ尙ホ可ナリ兎ニ角外部ヨリ強
テ其負債ヲ仕拂ハシメラレタル場合ハ詐欺ノ撰擇トナラス此詐欺ノ撰擇ノ場合
ニ於テモ尙ホ前述セシ財産讓渡ノ場合ト同シ約報ノ有無及其價値ノ多少ニハ
注意セサルヘ可カラズ

第三ハ負債主ノ状態ニ關スル倒産行爲ニシテ此倒産行爲ヲ分テ四トス(第一)負債
主ニ對スル財産ノ執行(第二)負債主仕拂不能力ノ宣言(第三)負債主カ倒産通知ニ應
セサルコト(第四)負債主ノ仕拂停止ノ通知是ナリ請フ左ニ之ノ四個ノ倒産行爲ヲ
詳述セン

先ツ第一ニ倒産條例ノ規定ノ順序ニ從ヒ前述セシ第二ノ場合即チ負債主仕拂不
能力ノ宣言ノコトヲ述ヘンニ條例第四條第一項ニ曰ク負債主其負債ヲ辨償スル
能ハサルノ上申書ヲ裁判所ニ提出シ若クハ倒産請願書ヲ裁判所ニ差出シタル場
合ニ於テハ負債主倒産行爲ヲ犯シタルモノトスト此場合ニ於テハ負債主自身ニ
負債ヲ辨償スルコト能ハサル旨ヲ自白シタルモノナレハ其仕拂能力ヲ失シタ
ル證據トシテ倒産行爲トナルヤ明カナリ然レトモ茲ニ注意ス可キハ負債主ノ仕

拂不能力ノ宣言カ一ノ倒産行爲トナルニハ負債主自身カ裁判所ニ向テ其不能力
ナルコトヲ自白シタル場合ナラサル可カラズ故ニ負債主カ高利貸ヨリ金圓ヲ借
受ケ其債主ノ催促ニ逢ヒ一時ノ急場ヲ免カレンカ爲メニ其負債ヲ仕拂フ能ハサ
ル旨ヲ申述ブルモ決シテ倒産行爲ナリト認ムルコトヲ得サルナリ

第二ハ負債主ニ對スル財産上ノ執行ニシテ之モ亦條例第四條第一項ニ規定アル
カ總テ裁判所ノ訴訟手續ニ從フテ義務者ノ財産ヲ公賣處分ニ付シタル場合ニ於
テハ其公賣處分ヲ受ケタル負債主ハ倒産行爲ヲナシタルモノト見做ス之レモ其
實ヲ尋ヌルトキハ或ハ其負債主ハ金錢ヲ有スルニモ拘ハラズ殊更ニ債主ヲ苦メ
ンカ爲メニ其仕拂ヲ拒ンテ倒産處分ヲ受ケタルヤモ計ラレス然レトモ之ハ十中
ニ一二アル可キ例外ノ事柄ニシテ先ツ公賣處分ヲ受ケタル者ハ其負債ヲ仕拂フ
能ハサルヨリ受ケタルモノニシテ仕拂能力ヲ失シタル者ト見做サ、ルヲ得ス我
邦ニ於テハ他ノ債主カ負債主ヲ訴ヘテ裁判上ニ勝利ヲ占メ其財産ヲ公賣處分ニ
付スルニ當リテ未ダ裁判ヲ得サル債權ヲ有スル債主ハ直チニ其公賣處分ニ加入
スルコトヲ得ス若シ其公賣處分ニ加入シ財産ノ分配ヲ受ケント欲セハ必スヤ一

度裁判所ニ訴訟ヲ提出シ其裁判ヲ受ケタル後ニ非サレハ其公賣處分ニ加入スルコトヲ得サルナリ然レトモ英國倒産法ニ於テハ若シ債主カ倒産處分ニ逢フノ有様ナルトキハ他ノ債主ハ直チニ自分モ亦倒産請願ヲナスコトヲ得ルコトナレリ

第三ハ負債主カ倒産通知ニ應セサル場合ニシテ之ハ條例第四條第一項第六ニ規定スル所ノモノナリ抑モ倒産通知トハ一種ノ通知書ニ過キヌシテ債主カ裁判所ニ勝利ヲ制シ其執行ヲ爲スニ當リテ若シ債主カ其執行ニ應セサルトキハ倒産處分ヲ請願スヘシトノ一ノ通知書ヲ認メ且ツ相當ノ猶豫期ヲ與ヘテ義務ノ執行ヲ催スカ爲メニ債主ニ送達スルモノ之ヲ倒産通知トハ申スナリ即チ負債主カ此ノ如キ通知書ヲ受ケナカラ尙ホ平氣ノ平左衛門トシテ毫モ顧慮セサルトキハ倒産行爲トナルモノナリ既ニ諸君ハ訴訟法ニ於テ知ラル、通リ英國ニ於テハ裁判所ノ執行其他ノ訴訟上ノ通知等ハ總テ裁判所ヨリ發セスシテ双方ノ代理人ヨリ送達スルコトナレリ今此等ノ倒産通知モ裁判所ヨリ發スルニ非スシテ一方ノ代理人ヨリ一方ノ代理人ニ送達スルコトナリ

第四ハ仕拂停止ノ通知ニシテ此ノコトハ條例第四條第一項第八ニ規定セテレタリ其條例ノ文ニ曰ク負債主カ此負債ノ仕拂ヲ中止シ若クハ之ヲ中止セントスル旨ヲ債主ノ一名若クハ數名ニ通知シタルトキハ之レ亦倒産行爲ナリト而シテ其仕拂停止ノ通知ハ必スシモ負債主本人ノ通知タルヲ要セス其相當ノ代理人カ相當ノ手續ヲ以テナシタル通知ナレハ可ナリ故ニ負債主カ平生ノ談話ニ於テ近頃ノ不景況ニテハ到底其負債ヲ仕拂フ能ハサルコトヲ述フルモ決シテ仕拂停止ノ通知トハナラサルナリ

第五回

第四章 受理命令 (Receiving order)

受理命令

本章ノ講義ヲ開クニ先チテ先ツ我邦身代限法ノ概畧ニ付キ一言セント欲ス抑モ英國法ニ於ケル倒産處分ナルモノハ裁判ト執行トヲ混淆スル所ノモノナリ然ルニ我邦ノ身代限處分ハ眞ノ處分ニシテ一ノ執行手續ニ過キサルナリ何故ニ英國ト我邦トノ間ニ此ノ如キ差異アリヤト申スニ我邦ニ於テハ債主ハ直チニ負債主ニ向テ身代限處分ヲ請求スルコトヲ得ス若シ債主カ身代限ヲ請求セント欲セハ先

ツ一般通常ノ手續ニヨルトキハ第一ニ勸解廷ニ向テ其訴件ノ勸解ヲ請求シ其勸解カ不幸ニシテ不調トナリ治安庭若クハ始審庭ニ回ハリテ初審ノ裁判ヲ受ケ尙ホ其裁判ニ不服ナルトキハ之ヲ控訴院ニ控訴シ好シヤ其裁判ニ承諾ヲ表スルト雖モ其裁判ノ確定スルマテハ其裁判ノ儘ニナシ居キ愈々其裁判カ確定期日ヲ經過シテ確定シタル場合ニ於テ權利者ヨリ其裁判執行命令ヲ裁判所ニ請求シ其請求ヲ受ケタル裁判所カ果シテ確定シタルヤ否ヤヲ取調ヘ其愈々確定シタリト認メタル場合ニ於テ茲ニ裁判所ヨリ原告ニ執行命令書ナルモノヲ渡シ原告ハ之ヲ受取リタル後其執行命令書ヲ被告ニ示シテ其負債ノ辨償ヲ促シ尙ホ被告ニ於テ其義務ヲ履行セサルニ當リテ茲ニ初メテ原告ニ身代限處分ヲ請求スルノ權利ヲ生スルモノナリ此ノ如ク我邦ニ於テハ原告カ身代限處分ヲ請求スルハ實ニ容易ノコトニ非スシテ此ノ如キ種々ノ手續ヲ經タル後ニ非サレハ決シテ權利者ハ義務者ニ對シテ身代限處分ヲ請求スルコトヲ得サルナリ而シテ其身代限ノ處分タルヤ前裁判ノ執行處分ニ外ナラサルナリ之ヲ以テ我邦身代限ノ處分ハ一ノ純然タル執行手續ナルコトヲ知ル可キナリ右ノ如ク我邦ニ於テハ身代限處分ヲ請求スルコト

其裁判カ確定シタルコトノ外別ニ何等ノ條件ヲモ要セスト雖モ英國ニ於テ倒産ノ請願ヲ爲スニ付キテハ大ニ其手續ヲ異ニス借テ如何ナル手續ヲ要スルヤト云フニ權利者カ或條件或條件トハ如何ナルモノヲ云フヤハ後ニ説クニ具備シタル所ノ倒産請願書ヲ裁判所ニ提出シ裁判所カ其倒産請願書ヲ受ケタル場合ニ於テハ果シテ其請願書ニ必要トスル所ノ條件ヲ滿スヤ否ヤニ付キ吟味ヲナシ其條件ヲ滿タシタリト認メタルトキハ茲ニ受理命令ナルモノヲ發シテ一方ニ於テハ負債主ノ有スル財産ヲ差押ヘテ其浪費隱匿ノ所爲ヲ防遏シ亦一方ニ於テハ債主集會ヲ開キテ負債主ト和解ヲササムルコトヲ務ム然レトモ不幸ニシテ其和解ノ調ハサルトキ初メテ倒産申渡ヲナスモノナリ歐米各國并ニ千八百八十三年ノ現行法ノ制定ナキマテハ英國ニ於テモ此受理命令ヲ發スル場合ニ於テ直ヤニ倒産申渡ヲナスコトハナレリ此ノ如ク同シ倒産處分ニ付キテモ三ノ異ナリタル手續アルカ其何レノ手續カ是ナルヤ非ナルヤヲ論スルハ稍々立法論ニ涉ルノ嫌ナキニシモ非スト雖モ英國ニ於テ以前ノ手續ヲ廢シテ現今ノ手續トナシタル理由ハ必竟債主ノ權利ヲ保護シ負債主ノ財産ヲ浪費隱匿スルコトヲ防遏スルノ目的ニ出

ツルモノナリ何故ニ以前ノ手續ニヨルトキハ此二大目的ヲ達スルコトヲ得サルヤト云フニ抑モ裁判ニテモ倒産處分ニテモ和解ト申スコトハ實ニ望マシキ事柄ニシテ債主負債主ヲシテ其權利上ノ爭論ヲナサシムルコトハ成ル可ク之ヲ避クルコトヲ務メサル可カラズ何トナレハ倒産處分ノ如キハ負債主ノ信用權利ニ關スルコト重大ナルノミナラス債主ノ方ニ於テモ一旦倒産處分真正ノ手續トナルトキハ費用ト時間トヲ消費セサル可カラズ時間カ費ニレハ自分ノ迷惑トナリ費用カ多クシテハ自分ノ取ル可キ分配高カ僅少トナル可キナリ故ニ和解ニテ其事カ落着スルトキハ右ノ如キ弊害ヲ生スルコトナクシテ雙方ノ徳ト云フ可シ而シテ和解ヲナスニハ何レ倒産申渡前ナラサル可カラズ亦之ヲ倒産申渡前ニナスカ一定ノ順序ナル可キモ此ノ如ク和解ヲナスニハ亦多少ノ時間ヲ要スルコトナレハ若シ負債主カ惡シキ人ナルトキハ其時間ノ餘地アルヲ奇貨トシテ其財產ヲ浪費シ若シハ隱匿スルコトアルヤモ計ラレス亦實際十中ノ八九ハ其財產ヲ浪費若シハ隱匿シテ債主ヲ害スルモノナリ故ニ一方ニ於テハ債主負債主間ニ和解ヲ獎勵スルト同時ニ亦一方ニ於テハ負債主ノ財產ヲ浪費シ若シハ隱匿スルノ所

爲テ防止スルノ策ヲ設ケサル可カラズ而シテ此二目的ヲ達スルニハ負債主ノ財產ヲ差押ヘテ浪費若シハ隱匿ノ恐ナカラシメ以テ充分債主ヲシテ安心セシメ篤ト債主負債主間ニ於テ和解ヲ相談スルノ餘地ヲ與フルハ尤モ適當ノ手段ナル可キナリ若シ之ニ反シテ現行法以前ノ規定ノ如ク直チニ倒産申渡ヲナシテ負債主ノ財產ヲ差押ユルトキハ其財產ノ浪費若シハ隱匿ヲ防止スルコトタケニ付キテハ目的ヲ達スルコトヲ得ルモ此ノ如クスルトキハ彼ノ必要ナル和解ヲナサシムルノ餘地ナキニ至ル可キナリ若シ倒産申渡後ニ和解ヲ許スコト、セハ不幸ニシテ和解ノ整ハサルトキハ不都合ナキモ若シ幸ニシテ和解ノ整フタルトキハ切角ナシタル倒産申渡ヲ取消サ、ル可カラサルノ不都合ヲ生スルニ至ラソ裁判所ニ於テ其倒産申渡ヲ取消スコトハ別ニ手數ヲ要セサルコトニシテイト易キコトナルモ一旦負債主カ倒産申渡ヲ受ケクル以上ハ假令ヒ後日和解ノ整フタルカ爲メニ其倒産申渡ヲ取消ストモ之カ爲メニ負債主ノ公權私權ヲ停止セラレ又社會ニ對スル名譽信用ハ地ニ墜テ從テ其商業ヲモ中止セサル可カラサルノ勢ニ立テ至リ負債主ノ迷惑實ニ思ヒ遣ラレテ憐レナリ又債主ニ取リテモ負債主カ營業ヲ中

止スル等ノ結果ヨリシテ其分配高チ受取ルコト少ク決シテ得策ニ非サルナリ故
 ニ和解チナスニハ必ス倒産申渡ノ前ニナサ、ル可カラサルナリ而シテ其之チナ
 スハ現行英國倒産法ノ手續ナリ
 茲ニ一言ス可キコトハ我國ニ於テモ現行英國倒産法ト殆ント類似スル手續アル
 コト是ナリ即原告カ裁判所ニ出訴スルニ當リ若クハ其裁判審理中ニ被告即負債
 主カ財産ヲ隠匿シ若クハ浪費スルノ恐レアルトキハ之ヲ理由トシテ被告ノ有ス
 ル財産ノ假差押ヲ請求スルコトヲ得ヘシ而シテ裁判所ニ於テ之ヲ聽キ届ケラレ
 タルトキハ法律上ニテハ英國倒産法ノ受理命令ト同一ノ効果ヲ生ス可キナリ然
 レトモ通常裁判所ニ於テハ義務者ノ財産ヲ取調フル如キコトヲナサ、ルヲ以テ
 義務者カ其財産ヲ隠匿若クハ浪費スル等ノ所爲アルコトヲ發見スルハ尤モ困難
 ナルヲ以テ猥リニ裁判所ニ於テ負債主カ財産ヲ隠匿若クハ浪費スル所爲アリト
 認定シ財産假差押ヲ命ズルトキハ實ニ恐ル可キノ結果ヲ生ス可キナリ即原告カ
 訴訟ニ勝利ヲ得ルカ被告カ訴訟ニ勝テ制スルヤ未ダ明カナラサル場合ニ於テ財
 産假差押ヲ命シタルトキハ果シテ原告カ其訴訟ニ勝利ヲ得タルトキハ可ナルモ

若シ被告カ其訴訟ニ勝テ制シタルトキハ此ノ如ク被告ニ向テ財産假差押チナス
 ハ實ニ被告ノ財産權ヲ害スル大ニシテ裁判所ノ越權タルノ誹ヲ免カレサル可キ
 ナリ去レハニヤ裁判所ニ於テハ容易ニ財産假差押ヲ命スルコトナシ亦然ラサル
 事得サルナリ又好シヤ裁判所カ原告ノ請求通りニ被告ノ財産ヲ假差押ナシタリ
 ト假定スルモ裁判所ハ唯ター一ノ命令書ヲ發スルノミニシテ其制裁ノ如キハ全ク
 之ヲ刑法ノ規定ニ放任シテ特別ニ被告ノ財産ヲ保護スルノ人ヲ撰擇セサルヲ以
 テ被告ハ其財産ヲ隠匿セント欲セハ隠匿スルコトヲ得浪費セント欲セハ浪費ス
 ルコトヲ得テ毫モ其質財産差押ノ効力ヲ生スルコトナシ唯タ日本ノ財産假差押
 ノ手續ハ英國倒産法ノ受理命令ト相類似スルコトヲ記憶スレハ足レリ
 英國ニ於テハ倒産請願チナスニ付キ數多ノ條件ヲ要スルコトハ既ニ述ヘタル所
 ナルカ日本ニ於テハ唯ク其裁判官渡カ確定スレハ直チニ執行命令ヲ請願スルコ
 トヲ得又大陸諸國ノ倒産法ニ於テモ其負債主カ仕拂能力ヲ失スレハ可ナルヲ以
 テ唯ク其仕拂能力ヲ失シタル事實カヘ證明スレハ直チニ倒産處分ヲ請願スルコ
 トヲ得可シ今英國現行倒産法ニ於テ倒産請願ヲ爲スニハ如何ナル條件ヲ要スル

ヤト云フコ

第一ノ條件ハ負債主カ倒産行爲ヲ犯シタルコトニシテ倒産處分ヲ請願セントスル債主ハ必ス此條件アルコトヲ證明セサルヘカラス

第二ノ條件ハ日本其他ノ法律ニ於テハ債權ノ價格ニ制限ナキモ英法ニ於テハ債權ノ價格ニ制限ヲ設ケタリ即請願債主ノ一人タルト數人タルトヲ論セス其全体債權ノ價格五十磅以上ナラサルヘカラス(條例第六條第一項)如此債權ノ價格ニ制限ヲ設ケタル理由ハ全ク法律上ノ政略ヨリ出テタルモノニシテ決シテ論理ニ適シタルモノニアラス即諸君ノ御承知ノ通倒産處分ナルモノハ手續面倒ニシテ其費用モ深山ナルヲ以テ僅少ノ負債ノ爲メニ此倒産處分ヲ請願スルトキハ費用倒レトナリ又或ハ物數寄半分ニ負債主ヲ苦シムルノ目的ヲ以テ五圓若クハ十圓ヲ貸與シテ其返濟スル能ハサルヲ奇貨トシテ故意ニ倒産處分ヲ請願シ負債主ノ名譽信用ヲ毀損セント謀ルモノアルカモ知レス因テ此等ノ弊害ヲ拒カンカ爲メニ設ケタルモノニシテ實ニ必要ノ條件ト考ラル

第三條件ハ金圓貸與期限ハ負債主カ倒産行爲ヲ犯シタル以前ナラサルヘカラス

即負債主ノ倒産行爲後ニ金圓ヲ貸與シタル者ハ其倒産行爲ヲ理由トシテ倒産處分ヲ請願スルコトヲ得去レトモ此等ノ債主ハ徹頭徹尾負債主ニ向テ倒産處分ヲ請願スルコト能ハスト云フニアラス其金圓ヲ貸與シタル以前倒産行爲ヲ理由トシテ倒産處分ヲ請願スルコトヲ得サルモ一ダヒ其債權ニ付通常ノ裁判ヲ仰キタル以上ハ倒産處分ヲ請願スルコトヲ得ヘシ何トナレハ原告カ其出訴シタル裁判ニ勝テ制シ其裁判ヲ執行スルニ當リテ義務者カ其義務ヲ果サ、ルトキハ其所爲ハ取モ直サス一ノ倒産行爲トナルヲ以テ其所爲ヲ理由トシテ倒産處分ヲ請願スルコトヲ得ヘシ現行倒産條例以前ニ在リテハ負債主ノ倒産行爲ヲ理由トシテ倒産處分ヲ請願スルニハ其債權ノ返濟期限カ到着シタルコトヲ要スレトモ今日ニ於テハ縱令ヒ其負債ノ返濟期限カ到着セサルモ尙倒産處分ヲ請願スルコトヲ得ヘシ日本ニ於テモ亦然リ其理由ハ縱令ヒ負債ノ返濟期限到着セサルモ債權アルニハ相違ナキヲ以テ唯未タ其返濟期限カ到着セサルノ故ヲ以テ看ス々々負債主カ財産ヲ隱匿若クハ浪費スルヲ傍看スルニ忍ヒンヤ故ニ此場合ニ於テハ縱令返濟期限ノ到着セサルモ尙倒産處分ヲ請願スルヲ得ヘシ最モ其返濟期限ノ到着ス

ルト否トニ因リ金額ノ分配方ニ付テハ少ク差違アリ即チ未タ返済期限ノ到着セ
サル債權ニ付キテハ其返済期限マテノ利子ヲ減殺シテ計算スルコト、セリ然レ
トモ日本ニ於テハ其利息ヲ差引クノ制ナキカ如シ

第四ノ條件ハ(條例第六條第一項)負債主ハ倒産行爲ヲ犯シタル後三ヶ月以内ニ債
主カ此倒産處分ヲ請願セサルヘカラス舊英國倒産法ニ據レハ十二ヶ月以内ナリ
シモ尋テ六ヶ月ニ減シ終ニ現今ノ條例ヲ以テ三ヶ月ニ減シタリ如此倒産請願期
限ニ制限ヲ設ケタル理由ハ凡ソ吾人カ所有スル財産ノ移轉ハ迅速ナルモノニシ
テ殊ニ商賣人間ニ於テハ其財産ノ輾轉非常ナルヲ以テ富者常ニ富ナラズ貧者必
スシモ常ニ貧ナラサレハ縦合ヒ一度或ル都合ニ因リテ負債ヲ支拂フコト能ハサル
モ將來復テ倚頼ノ富ヲ得ルヤモ計ラレズ然ルニ一度負債ヲ支拂フ能ハサルヲ奇
貨トシテ直ニ之ヲ以テ倒産行爲ヲ犯シタリトシ後ニ至リ數百万ノ富ヲ得タル者
ニ對シテ倒産請願ヲ爲スハ負債主ニ取リテ甚迷惑ナルカ故ニ債主ヲ喚起シ負債
主ヲ保護スルノ點ヨリ如此制限ヲ設ケタリ尤モ其期限ノ長短ハ一ニ立法者ノ意
思ニ依ルモノニシテ我々解法者ノ容喙スル所ニ非ラサルナリ

第五ノ條件ハ請願債主ニ關スル資格ニシテ凡テ普通法上ト衡平法上ト相問ハス
起訴ノ權ヲ有スル者ハ亦倒産處分ヲ請願スルノ資格ヲ有シ從テ結約能力ヲ有ス
ル者ハ倒産處分ヲ請願スルノ能力アルコト、ナルヘシ彼ノ會社ノ如キ無形人ハ
自身ニ活動スルコト能ハサルヲ以テ其役員ヲ代人トシテ倒産處分ヲ請願スルコ
トヲ得然レトモ彼ノ連帶債主ノ如キハ連名ヲ以テ倒産處分ヲ請願セサルヘカラ
ス之ニ反シ組合ノ如キハ固ヨリ無形人ニ非サルモ代理法上互ニ本人ヨリ代理人
タルノ關係ヲ有スルヲ以テ其組合員一人ノ名義ヲ以テ倒産處分ヲ請願スルコト
ヲ得又債權ヲ讓受タル債主モ其讓受タルコトヲ負債主ニ通知シタルトキハ自己
ノ名義ヲ以テ倒産處分ヲ請願スルコトヲ得ヘシ尤モ古昔ニ於テハ其債權讓受人
ノ名義ヲ以テ起訴スルコトヲ得サルモ今日ノ倒産法ニ於テハ對入權ニ付所有權
ヲ得ルヲ以テ讓受人ノ名義ヲ以テ請願スルコトヲ得ヘシ
第六條件ハ負債主カ倒産處分ヲ受ケ得ヘキ資格ヲ有セサルヘカラス斯ハ條例第
六條第一項ニ規定スルモ既ニ管轄ノ場合ニ於テ述ヘタルヲ以テ此ニ贅セス
以上述ヘタル六箇ノ條件備リテ此ニ始メテ倒産處分ヲ請願スルコトヲ得ヘシ既

原告人ヨリ此倒産處分請願アリタルトキハ直ニ裁判所ヨリ負債主ヲ呼出シ原告ト對審ノ上種々ノ取調ヲナシ愈々其倒産處分ヲ請願スルニ付必要ナル條件ヲ備ヘタリト認メタルトキ玆ニ受理命令ヲ發スルモノトス若シ右ノ中一條件ヲ欠クコトアラハ其倒産請願書ハ却下スルモノトス猶此ニ諸君ノ注意ヲ乞フヘキコトハ彼ノ前述セシ負債主カ五十磅以上ノ負債ヲ有スルコトハ實ニ其倒産請願書ヲ提出スルトキニ有スルノミナラス尙其負債主取調ノ捺印受理命令ヲ發スル當時ニ於テモ尙ホ之ヲ有スルコト必要ナリトノコト是ナリ

借又前述シタル所ハ債主カ負債主ニ對シテ倒産處分ヲ請願シタル場合ナルカ負債主自身ニ於テモ亦倒産處分ヲ請願スルコトヲ得而シテ負債主自身ニ請願スル場合ニ於テハ前述セシ數箇ノ條件ヲ要セサルハ勿論ニシテ唯負債主自身ニ倒産處分ヲ受得ヘキ資格アレハ充分ナリトス且又債主カ倒産處分ヲ請願シタル場合ニ於テハ債主負債主双方對審取調ノ上ニテ初メテ受理命令ヲ發スルモ負債主自身ニ倒産處分ヲ請願シタル場合ニ於テハ既ニ負債主自身ニ支拂能力ナキコトヲ自白スルヲ以テ債主負債主双方ノ取調ヲ要セス直ニ受理命令ヲ發スルコトヲ得

ヘシ

第六回

前述セシ如ク倒産處分ナルモノハ債主ヨリ請願スルカ若シハ自身ヨリ請願スルニ非サレハ裁判所ハ其職權ヲ以テ負債主ニ倒産處分ヲ申渡スコトヲ得サルナリ今我邦ニ於テハ如何ント云フニ我邦身代限法ハ未ク不完全ナルヲ以テ別ニ明文ノ徵ス可キモノナキモ我邦今日ノ實際上若シハ慣習上ニ付キテ察スレハ原被告ノ請求ナキニ裁判所ヨリ身代限命令書ヲ發スルコトナシ故ニ余ハ我邦ニ於テハ決シテ裁判所ノ職權ヲ以テ義務者ニ身代限處分ヲ命スルコト能ハスト斷言スルニ躊躇セサルナリ然ルニ今日歐洲大陸諸國ノ法律ヲ觀察スルニ或ル特別ノ場合ニ於テハ裁判所ノ職權ヲ以テ義務者ニ倒産申渡ヲナスコトアルカ如シ素ト倒産處分ナルモノハ社會ノ信用平和ヲ維持保護スルモ亦一ノ目的ナルヲ以テ此點ヨリ論究スルトキハ必要ナル場合ニ於テ裁判所カ自己ノ職權ヲ以テ義務者ニ倒産申渡ヲナスコトアルモ強キ無理ナラヌコトナリ然レトモ裁判所ニ此ノ如キ重大ナル職權ヲ與フルノ可否ニ付キテハ立法論ニ屬シテ亦一朝一夕ニ議論シ盡ス

可カテサルヲ以テ暫ク之ヲ容シ唯々英國倒産法ニヨレハ裁判所ニハ自己ノ職權ヲ以テ倒産處分ヲ申渡スコト能ハサルヲ記憶スルヲ以テ足レリトス然レトモ英國倒産法ニ於テモ債主ヨリ倒産請願書ヲ提出スルト負債主ヨリ倒産請願書ヲ提出スルトナ間ハ一度裁判所ニ倒産請願書ヲ提出シタル以上ハ決シテ原被兩造ノ勝手ヲ以テ願下クルコトヲ得サルナリ尤モ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限リニ非ス然レトモ原被兩造ノ願下ノ請願ヲ聞キ届クルト否ヤトハ全ク裁判官ノ權力ニアルヲ以テ若シ裁判所ニ於テ其倒産處分ノ願下ケヲ聞キ届ケスト云ヘハ亦如何トモス可カラサルナリ何故ニ此ノ如キ制限ヲ設ケタルヤト云フニ斯ハ必竟債主ヲシテ倒産請願ヲナスニ付キ充分ノ注意ト熟考トヲ要セシメ疎畧輕忽ニ倒産請願ヲナスノ弊ヲ妨キ倒産請願ノ重大ナルコトヲ示カンカ爲ナリ先ツ以上ニテ裁判所ニ倒産請願書ヲ提出スルマテノ手續ハ講述シ了リタルヲ以テ是ヨリ裁判所カ一旦其倒産請願書ヲ受理シタル以上ハ如何ナル結果ヲ生スルヤヲ講述セント欲ス何トナレハ裁判所カ受理命令ヲ發シタルヨリ倒産申渡ノアルマテハ幾多ノ猶豫アルト同シク裁判所カ其倒産請願ヲ受理スルヤ否ヤ直チニ

四六

受理命令ヲ發スルモノニ非ス其請願書ヲ受理シタルヨリ受理命令ヲ發スルマテハ幾分ノ餘地アルヲ以テ其餘地ノ日時ニ於テハ裁判所ハ如何ナル處分ヲナスヤヲ攻究スルノ必要アレハナリ
 借テ其倒産請願書ノ提出アリタルヨリ受理命令ヲ發スルマテノ時間ハ裁判所ハ袖手傍觀スルヤト云フニ決シテ然ラス即一方ニ於テハ前回ニ於テ述ヘタル如ク負債主ヲ裁判所ニ呼出シテ請願書中ニ記載アル事項アリヤ否ヤヲ取調ヘ又一方ニ於テハ負債主ノ財産ヲ隱匿若クハ浪費スルハ正ニ此時ニアルヲ以テ裁判所ハ此等不正ノ所爲ヲ防止スル策ヲナスモノナリ故ニ英國倒産條例ニ於テハ裁判所ニ賦與スルニ一旦倒産請願書ノ提出アリタル以上ハ其實際ノ如何ナ間ハ大荷モ必要アリト認メザルトキハ警察官若クハ裁判所附屬吏員ニ命ジテ直チニ負債主ヲ差押ヘ若クハ財産帳簿書類ヲ差押ユルノ權力ヲ以テス此裁判所ノ職權ヲ稱シテ簡易職權(Summary Power)ト云フ而シテ此ノ如ク裁判所ニ於テ簡易職權ヲ行フヤ否ヤハ全ク其主任裁判官ノ意思次第ニアルモノニシテ當該官吏ニ於テ此職權ヲ行ヒ負債主ノ財産ヲ差押ユルニ非カレハ其財産ノ全部若クハ一部ヲ隱匿若クハ浪

費スルノ恐レアルトキハ之ヲ行ヒ若シ然ラサルトキハ別ニ此職權ヲ行ヒ債主ノ財産ヲ差押ユルノ必要ナカル可キナリ之ヲ要スルニ簡易職權ハ債主ノ財産ヲ隱匿若クハ浪費スルノ所爲ヲ防遏シ債主ノ分配高ヲ夥多ナラシムル効アルモノニシテ實ニ必要ノ職權ト云フ可シ然レトモ翻テ一方ヨリ觀察サ下ストキハ債主カ裁判所ニ倒産請願書ヲ提出スルモ債主カ果シテ支拂能力ヲ失シタルヤ否ヤハ實際債主ヲ取調ヘタル上ニ非サレハ分明ナラサル事實トス然ルニ其事實ノ取調ヲモナサスシテ獨リ裁判官一個ノ意見ヲ以テ債主ノ人身ヲ拘束シ財産ヲ差押ヘタルトキハ債主カ果シテ其支拂能力ヲ失シタルトキハ別ニ不都合ナキモ若シ後日ニ至リテ其倒産請願カ不當ナルコトヲ發見シタルトキハ人民ノ私權ヲ傷害スルコト實ニ重大ナリトス故ニ此簡易職權ヲ行フテ倒産法ノ目的ヲ達スルコトヲ得ハ道理上正ニ適當ナル手續ナルモ此手續ニ從マトモ尙ホ十中ノ八九ハ債主逃走シテ其目的ヲ達スルコト能ハサレハ決シテ倒産法ノ目的ヲ達スルニ完全ナル手續トハ云フ可カラズ我邦ニ於テモ裁判所カ原告ヨリ訴狀ヲ受理スルト同時ニ被告カ財産ヲ隱匿若クハ浪費スルノ恐レアルトキハ原告ハ被告ノ財

産假差押ヲ請求スルヲ得ヘシ此場合ニ於テ裁判所カ被告ノ財産ヲ差押ユルノ必要アリト認ムルトキハ財産假差押ヲ命スルコトヲ得然レトモ我邦ニ於テハ先回以來述ヘタル通り先ツ被告ハ負債支拂ノ能力アリトスルカ原則ナルヲ以テ一度裁判所ニ訴訟ヲ提起シテ直ニ身代限處分ニ着手スルヲ得サレハ眞ニ負債主ニ於テ支拂能力ヲ失シタルノ事實アルニ非サレハ財産假差押ヲ命スルコトヲ得サレトモ始審ノ裁判ノ終結シタル以上ハ往々財産假差押ノ命令ヲ發スルコトアリ此場合ニ於テハ既ニ審理ヲ盡シテ判決マテナシタルコトナレハ被告ノ財産ノ價值及信用ヲ知ルコトヲ得ルヲ以テナリ之ニ反シテ英法ニ依レハ先ツ訴訟ノ被告トナリタルモノハ負債支拂ノ能力ナキモノト推測スルカ如シ從テ簡易職權ヲ行ヒ債主ノ財産ヲ差押ユル場合甚ク多シ而シテ裁判所カ此職權ヲ行フト否ヤトハ大ニ倒産處分ニ付キ債主間ニ分配ス可キ金額ノ多少ニ影響ヲ及ホスモノト信ス

今裁判所カ簡易職權ヲ行フ重ナル場合ヲ掲クレハ第一倒産請願書ノ提出アリタル場合ニ於テ取調ヲナスカ爲メニ負債主ヲ呼出シタルニ負債主故ナク其呼出ニ應セ

ナルカ若クハ之ヲ避ケントシタルトキ第二裁判所ヨリ差押ヘタル財産ヲ隠匿若クハ浪費スルノ恐れアルトキ第三帳簿書類等ヲ隠匿若クハ破毀スルノ恐れアルトキ第四受理官若クハ管財人ノ承諾ナクシテ五磅以上ノ財産ヲ他ニ移轉シタルトキ等はナリ(條例第二十五條第一項)尙今一ノ効果ハ倒産請願書ノ提出アリタル場合ニ於テ其負債主ニ對シテ起リタル民事訴訟ヲ停止スルコトヲ得ル是ナリ此民事訴訟ヲ停止スル場合ニ於テモ其訴訟ノ全部ヲ停止スルコトアリ或ハ其訴訟ノ一部ヲ停止シ倒産處分ニ關係ナキ點ニ付キテハ依然繼續セシムルコトアリ之ハ重ニ財産權ニ關スル訴訟ニ付キ規定スル所ノモノナリ又英國倒産法ニヨレハ倒産處分ノ管轄權ヲ有スル裁判所ハ實ニ廣大ナル職權ヲ有スルモノニシテ其管轄裁判所ハ其受理シタル倒産處分ニ付キ幾分ノ關係ヲ有スル事件ハ總テ之ヲ管轄シ之ヲ裁判スルノ權ヲ有スルコトナレリ而シテ此規則ヲ來シタル理由ハ必竟費用ト手數トヲ省畧スルノ便宜ニ出ツルナリ現今我邦ノ訴訟手續ニ從ヘハ甲者カ浦和始審裁判所ニ於テ身代限處分ヲ受クルト同時ニ甲者ハ大坂ニ所持スル財産ニ付キテ大坂始審裁判所ニ出訴セラレ又横濱ニ所有スル船舶ノ爲ニ横濱始審

裁判所ニ出訴セラルトキハ浦和始審裁判所カ身代限處分ヲ執行スルニハ大坂横濱兩始審裁判所カ申渡シタル裁判ノ確定スルマテハ之ヲ中止セサルヲ得サルナリ又事件ノ都合ニヨリテハ大坂始審裁判所ハ既ニ訴訟落着スルモ横濱裁判所ニ於テハ未タ訴訟ノ審理中ナルコトアル可シ此ノ如キ場合ニ於テハ一方ノ訴訟カ終結セサル爲ニ他方ノ訴訟ヲ中止セサルヲ得サルコトナリテ數多ノ日子ヲ消費スルノミナラス費用ヲ數個所ニ費サ、ルヲ得サルニ至ル可シ然ルニ此等ノ訴訟ナ一裁判所ニ集メテ裁判スルトキハ日時費用ヲ省クハ無論事實モ明白ニナリ事件モ至急ニ纏マリテ大ニ便宜ナル可キナリ故ニ英法ニ於テ倒産處分ノ管轄權ヲ有スル裁判所ハ併セテ其倒産處分ニ關係スル訴訟ヲモ管轄スルト定メタルハ實ニ便法ト云ハサルヲ得ヌ又前述セシ訴訟中止ノ職權モ亦右ノ目的ニ出テタルモノナリ即倒産處分ニ關係ヲ有スル訴訟ハ其管轄外裁判所ニ其訴訟ヲ移スコトヲ得ルヲ以テ裁判所ニ此訴訟中止ノ權ヲ與ヘタルハ必竟必要上其倒産處分ニ着手スル裁判所ニ其訴訟ヲ移シ併セテ裁判セシメンカ爲ナルヘシ右ニテ倒産請願書提出ノ手續ヨリ裁判所カ此請願書ヲ受理シタルトキ直接ニ生

スル結果ヲ識述シ了リタルヲ以テ是ヨリ裁判所カ債債主ニ向テ受理命令ヲ發シ
 タルトキハ如何ナル効果ヲ生スルヤヲ論セント欲ス而シテ此受理命令ノ重ナル
 効果ハ裁判所ヨリ受理官ヲ命シテ債債主ノ財産ヲ差押ヘ之ヲ保管監督セシムル
 コト及債主集會ヲ開キテ債債主ト相談ノ上和解ヲサシムルコトヲ務ムルノ二
 點ナリトス尙ホ以下ニ於テ此受理命令ノ効果ヲ詳論セシム
 既ニ前段ニ於テ裁判所ハ時トシテ命令ヲ發シテ債債主ノ財産ヲ差押ユルコトヲ
 得ルヲ說キヤカ之ハ必要ナル場合ニ限リ爲ス可キ職權ニシテ何時ニテモ爲シ可
 キモノニ非ス然ルニ此受理命令ナルモノハ何事件ニ限ラス何時ニテモ總テ債債
 主ノ財産ヲ差押ユルノ効果ヲ生スルモノトス其故ハ裁判所ヨリ受理命令ヲ發ス
 ル場合ハ既ニ債債主ノ吟味ヲ終リテ何時ニテモ倒産處分ヲ申渡スノ事實明白ナ
 ルトキナレハ債債主ノ財産ヲ差押ヘテ其隱匿若クハ浪費ヲ防止スルハ正ニ當然
 ノ事柄ナレハナリ然ノミナラス其財産ヲ差押ユルモ債債主ノ權利ヲ毀損スル如
 キ患ヒナケレハナリ尙ホ此受理命令ヲ發シタル後ハ財産ノ所有權ハ依然トシテ
 債債主ニ存在スルモ其財産ノ占有權ハ受理官ニ移轉シテ債債主ハ自分ノ勝手ニ

處分スルコトヲ得サルナリ而シテ此有様ハ受理命令ノ取消若クハ倒産申渡マテ
 繼續スルモノナリ

今尙ホ受理命令ノ一ノ効果タル債主集會ノ組織權限如何等詳細ノコトハ後章ニ
 詳述ス可キヲ以テ茲ニハ其大畧ノミヲ說カンニ此債主集會ノ大目的ハ債主負債
 主間ニ和解ヲサシムルニアリ此和解ノコトモ後回別ニ章ヲ設ケテ講述ス可キ
 モ素ト和解ナルモノハ債主負債主間ニ成ルモノナレハ何レ雙方ノ熟談上ニ成ル
 モノナリ尙ホ單ニ一人ノ債主ノ承諾アルノミニテハ和解ヲナス可カラズ宜シク
 債主全体ト熟談ノ上ニナサハル可カラサルナリ依テ債主全体ヲ集メ其多數ノ同
 意ヲ得ルコトハ正ニ必要ナル可シ之レ債主集會ヲ設ケルノ一理由ナリ
 今一ノ債主集會ヲ設ケルノ理由ハ受理官カ占有スル債債主ノ財産處分方ヲ爲ス
 カ爲メニ債主全体ノ意見ヲ聞クノ必要アルヲ以テナリ何トナレハ單ニ債債主ノ
 財産ヲ差押ヘテ其隱匿若クハ浪費ヲ防止スルノミナレハ之ニ封印ヲ付シ置クト
 キハ目的ヲ達スルコトヲ得ヘキモ若シ其債債主ハ盛大ニ商業ヲ營ミ數多ノ得意
 先チ有スルモノナルトキハ其財産ヲ差押ヘスシテ債債主ノ使用ニ任セ商業ヲ繼

續セシメテ日々其利益ヲ獲取スル方債主債主ノ雙方ニ取リテ大ニ便益ナル可
 キナリ殊ニ彼ノ牛馬ノ如キ動物及鐵道機關等ノ如キモノハ之ヲ使用セサルトキ
 ハ却テ其健康ヲ害シ若クハ運轉ヲ鈍ナラシムルヲ以テ適當ニ之ヲ使用スルコトハ
 正ニ必要ナル處分ナル可シ此等ノコトハ條例第十五條第一項ニ記載セラレタリ
 借又債主集會ヲ開クトキハ他ノ集會ト同様其議決ノコト必要ナル可シ既ニ其議
 決カ必要ナレハ從テ其議決ノ方法ヲ講スルノ必要ヲ來スヘシ而シテ英國倒産法
 ニ定ムル議決ノ方法ニ二種アリ第一通常議決第二特別議決是ナリ通常議決トハ
 債主ノ多數ヲ以テ議決スルモノヲ云ヒ特別議決トハ債主ノ多數ト負債價額四分
 ノ三以上ヲ有スル人ノ同意ヲ以テ議決スルモノヲ云フ一般ニ事ヲ決スルニハ通
 常議決ヲ用ヒ和解ヲナスヤ否ヤ即負債主ニ倒産申渡ヲナスヤ否ヤ等重大ノコト
 ナ決スルニハ此特別議決ヲ用ユルノ規則ナリトス此點ニ付キ或ハ難シテ曰ク各
 債主ハ其貸與シタル金額ニコソ差異アレ各々債權ヲ有スルモノナルニモ拘ハラ
 ス其貸與金ノ少數者ハ其多數者ノ爲メニ壓制ヲ受クルノ理由ナケレハ各債主勝
 手ノ救正ヲ請求セシムル方却テ可ナラントノ議論アルモ若シ此議論ヲ採用スル

四四

トキハ到底倒産法ヲ編纂ス可カラサルニ至ラン吾人ハ各債主ノ爲ニ利益ヲ計ル
 コトハ將ニ希望ス可キ事柄ナルモ實際ニ之ヲ行フコトヲ得サレハ宜シク債主多
 數ノ同意ヲ以テ満足セサル可カラズ又負債價額四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ議決
 ノ方法トナスニ付キテハ權利ノ多少ハ金錢ノ多少ニアルモノニ非サル旨ヲ主張シ
 テ此ノ如キ制限ヲ設クルハ不當ナリトノ議論アルモ實際金錢上ノ事柄ニ付キテ
 ハ金錢ノ多少ニヨリテ其權利ニモ亦多少アリト云ハサルヲ得ス若シ右ノ如ク金
 額ノ點ニ付キ制限ヲ設ケサルトキハ單ニ人頭ノ多數ノミニヨリテ議決セラレ僅
 カ三四十圓ノ債權ヲ有スルモノカ數百圓ノ債權ヲ有スルモノニ害ヲ及ホス如キ
 結果ヲ生スルニ至ラン故ニ現ニ會社銀行等ノ如キ金錢ニ關スル事柄ノ議決方法
 ニ於テ人頭ト金錢トノ雙方ニ制限ヲ設クルハ正ニ穩當ナル議決方法ナリトス

第七回

前回ニ於テ債主集會ハ人頭ニテハ過半数債權ニテハ四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ
 議決ノ方法トナスコトヲ述ヘタリ今回ハ一ノ假例ヲ設ケテ以テ之ヲ詳述セシ
 茲ニ甲者アリテ四千圓ノ借金ヲナシグリト假定セヨ其中ニ乙者カ五百圓ヲ貸

シ丙者カ三百圓ヲ貸シ丁者カ七百圓戌者カ二千圓發者カ五百圓ヲ貸シグリトス
 ル場合ニ於テ丁戌發三債主カ或ル事柄ニ付キテ同意ヲ表スルトキハ之ヲ稱シテ
 員數ニ於テハ過半数債權ニ於テハ四分ノ三以上ノ議決ト云フ若シ此場合ニ於テ
 乙者ト丁者トカ不同意ヲ唱ヘ他ノ三人カ同意スルトキハ其不同意ノ人ハ員數ヨ
 リ見レハ過半数ニ滿タサルヲ以テ可ナルモ債權ノ價額ハ四分ノ三即四千圓ニ對
 スル千圓ヨリ多キ債權ヲ有スルヲ以テ今一度相談ヲ爲シ直サ、ル可カラズ先ツ
 假例ヲ攻究シテ他ハ類推ス可キナリ

次ニ講述ス可キコトハ如何ナル債主カ第一集會ニ於テ投票權ヲ有スルヤ否ヤニ
 シテ苟モ債主ト名稱スルモノハ悉ク投票權ヲ有スルニ非ス何トナレハ倒産處分
 ニ於ケル債主集會ノ議決如何ハ大ニ債主全体ノ利害ニ關スルモノニシテ即和解
 ナスヤ否ヤ倒産申渡ヲナスヤ否ヤ等倒産處分ノ方向ヲ定ムルニ付キ極々必要ナ
 ルモノナレハ此倒産處分ニ毫モ利害ヲ有セサル者カ猥リニ加入シテ投票權ヲ乱用
 スルトキハ他ノ債主ヲ害スルヤ實ニ大ナル可キナリ是レ債主中ニテモ投票權ヲ
 有スル者ニ制限ヲ設ケル所以ナリ然ラハ如何ナル債主カ此投票權ヲ有セサル

ヤト云フニ第一抵當債主第二債主集會前ニ於テ自分ノ債權ヲ證明セサル一般ノ
 債主即自分ノ債權アルコトヲ証明セカレハ果シテ實際ニ債權ヲ有スルヤ否ヤ曖昧
 ナルヲ以テ此ノ如キ不分明ノ人ヲシテ投票權ヲ有セシムルトキハ勝手次第ノ投
 票ヲシテ他ノ債主ヲ害ス可キナリ又抵當債主ハ勿論債主ニハ相違ナキモ抵當物
 ヲ握有シテ充分救正ノ途アルヲ以テ負債主ノ倒産處分ニ逢フト否ヤトハ毫モ痛
 痒相感セサル者ナリ從テ其倒産處分ニ付キテハ利害ノ關係ヲ有セサルナリ又抵
 當ヲ有スル以上ハ一般ニ其抵當價額ハ債權ノ價額ニ對シテ不足ナキモノト一應
 推測セサル可カラズ故ニ通則ハ抵當債主ハ投票權ナキモノトス然レトモ若シ抵
 當債主ニシテ其抵當權ヲ放棄シテ通常債主トナルカ或ハ抵當物ノ價額カ負債ノ
 價額ニ不足ナルトキハ其不足ナル旨ヲ証明シテ其不足額ノミニ付キテハ一般債
 主ト同様投票權ヲ有スルモノトス

尙ホ本章ニ於テ講述ス可キコトハ身代限者ノ明細書條例第十二條ノコト是ナリ
 此明細書ナルモノハ第一ニ負債主ノ財産並負債ニ關スル總テノ事項第二ニ各債
 主ノ住所姓名職業第三各債主ノ有スル抵當物件第四抵當物件ヲ與ヘタル期日ヲ

主トシテ其他受理官カ指揮スル始末書ヲ總稱スルモノナリ而シテ負債主ヲシテ此明細書ヲ提出セシムルノ主意ハ矢張り倒産處分ヲ容易ニシ圓滑ニセシカ爲ナリ今日我邦ニ於テハ單ニ負債主ヲ法廷ニ呼出シテ取調フルノモコシテ別ニ負債主ヨリ明細書ヲ呈出セシムルノ手續ナキヲ以テ其財産ノ取調等ハ重モコ戸長及債主ノ處分ニ放任セリ此ノ如ク我邦ニ於テハ負債主ハ自身ノ有スル財産ニ付キ報告スルノ義務ナキヲ以テ負債主ハ租々僞言ヲ吐キテ債主ヲ瞞着スルノ策ヲナスヘキナリ故ニ裁判所ニ於テモ負債主ノ財産ヲ取調フルニ甚ダ困難ヲ感ス可ク從テ之ヲ取調フルニ當リテモ數多ノ日時ト手数トヲ要ス可キナリ而シテ此等ノ弊害ヲ防止スルニハ負債主ニ明細書ヲ調製セシムルノ義務ヲ負ハシムルヨリ他ニ方法ナキモノトス依テ各國倒産法ニ於テハ此明細書ノ制ヲ用ヒタリ現ニ英國倒産條例ニ於テハ債主ヨリ倒産處分ヲ請願シタルトキハ七日以内負債主ヨリ倒産處分ヲ請願シタルトキハ三日以内ニ明細書ヲ呈出スルコトヲナレリ然ラハ負債主カ明細書呈出ノ義務ヲ怠リタルトキハ之ニ對スル制裁ハ如何ト申スニ或ル國ニ於テハ裁判所ノ職權ヲ以テ倒産處分ヲ申渡シ決シテ和解ヲ許サ、ルコト、ナリ

居レリ又英國倒産條例ニ於テハ負債主カ若シ明細書ヲ呈出セサルトキハ令狀ヲ發シテ捕縛スルコトヲ許セリ又條例ニハ別ニ明文ナキモ免除命令ヲ請求スルニ當リテ恐テクハ裁判所ハ之ヲ下附セサルノ一ノ理由トナル可キナリ
 債又負債主カ明細書ヲ呈出シタル後ニ於テハ負債主ヲ裁判所ニ呼出シテ取調ヲナスモノトス其取調ヲナス可キ事項ハ明細書ニ記載スル事柄ヲ初メトシテ其他營業上ノ取引並ニ財産ニ關スル事項及負債主カ之マテ社會ニ有スル品行或ハ過失ヨリシテ負債ヲ醸スカ又不時ノ天災ノ爲ニ負債ヲナセシヤ等負債主ノ身邊ヲ繞圍スル諸他ノ情況ヲ取調フルモノトス之ヲ稱シテ負債主ノ公審ト云フ而シテ負債主カ明細書ヲ呈出スルハ重ニ負債主公審ノ用ニ供センガ爲ナリ此負債主公審ハ其以後ノ處分ニ付キ種々ノ影響ヲ及ホスモノニシテ先ツ其大体ヲ述フレハ凡ソ債主カ負債主ト和解ヲナサント欲セハ豫メ負債主當時ノ有様財産ノ景況ヲ熟知セサル可カラス即負債主現時ノ如キ情態ナレハ今少シシ猶豫ヲ與フレハ回復ノ見込アルヲ以テ暫ク猶豫ス可シトカ又負債主今日ノ有様ニテハ假令ヒ暫時ノ猶豫ヲ與フルモ到底回復ノ見込ナキヲ以テ倒産申渡ヲナス可キトカノ判斷ヲ

ナサシメンカ爲ナリ故ニ第一負債主ノ公審ニハ債主ヲ始メトシテ受理官管財人ニモ出席シテ負債主ヲ訊問スルコトヲ得ヘシ第二ニハ此負債主公審ニテハ負債主ノ商賣取引若クハ財産ノ所在等ヲ知ルコトヲ得ルヲ以テ無敵ノ手數ヲ減ス可キナリ第三裁判所ヨリ負債主ニ向テ免除命令ヲ與フルニ當リテ負債主ノ品行并ニ諸取引ニ付キ注意ヲ用ヒタルヤ否ヤハ尤モ審理ヲ要スル事柄ヲシテ其負債主ノ情況如何ヲ見テ全部ノ義務ヲ免除スルト一部ノ義務ヲ免除スルトヲ定ムルモノトス之ハ條例第十七條ニ明記スル所ナリ

終リニ諸君ニ向テ一言謝ス可キコトハ初メテ倒産請願書ヲ呈出シタルヨリ倒産申渡ヲナスマテノ道行キハ第一明細書ノ呈出第二負債主ノ公審第三債主集會是ナリ故ニ余ハ此順序ニ從フテ講述ス可キ筈ナリシモ誤リテ第一ニ債主集會ノコトヲ説キ出シタルヲ以テ終ニ其順序ヲ顛倒シテ講述セサル可カラサルノ止ムヲ得サルニ立チ至タリ諸君之ヲ諒セヨ

第五章 和解 (Composition)

前章ニ於テ債主集會ノ第一ノ仕事ハ和解ノ是非ヲ議決スルニアルコトヲ説キタ

リ故ニ和解ハ債主集會ノ項ニ於テ講スルヲ學術上ノ排置其宜シキヲ得タルモノトナスト雖モ和解ナルモノハ實ニ大切ナル事柄ナルヲ以テ別ニ一章ヲ設ケテ詳論スルコト、ナシナリ借テ此和解ト申スコトハ契約法ニモアルコトニシテ其性質上ヨリ論スルトキハ義務ノ更改ト和類似スルモノナリ即義務者カ今マテ負債ノ元ノ義務ヲ免カル、コトヲ約報トシテ新ナル義務ヲ負擔スルコトヲ云フ契約法ニヨレハ義務更改ナルモノハ對手人ノ合意ニヨリテ成ルモノニシテ此雙方對手人ノ合意サヘアレハ法律上何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシシテ別ニ其之ヲ爲スカ爲メニ他ノ手續ヲ要セサルナリ故ニ例ヘハ一萬圓ノ債權ヲ有スルモノカ債主ノ御情ニヨリテ千圓ヲ返濟シテ其義務ヲ免カレ又十ヶ年賦ヲ以テ返濟スルコトヲ承諾セラレ若クハ其仕拂フ可キ利息ノミヲ免スル等元ノ義務ヲ免除スルノ約報ノ多少ニ拘ハラス總テ債主負債主ノ合意上ナレハ何様ニモ取極ムルコトヲ得ヘシ然ルニ倒産法上ニテ云フ和解ハ其名稱モ契約法ニテ云フ和解ト同一ナルノミナラス其性質モ二者殆ント相同シト雖モ對手雙方ノ合意ヲ以テ勝手次第ニ和解ヲナスコトヲ許サ、ルノ點ニ至リテハ二者大ニ其趣ヲ異ニセリ然ラハ

何モノカ相手相談ノ上ニテ和解ヲナスコトヲ妨クルヤ曰シ裁判所ヨリ之ニ干渉シテ猥リニ和解ヲ爲スコトヲ許サ、ルニ在リ何故ニ裁判所カ此ノ如キ職權ヲ行フヤ曰ク和解ノ弊ヲ防止スルニ在リ今日我邦ニ於テハ身代限中ノ和解ト其前ノ和解トヲ問ハス總テ對手雙方ノ合意サヘアレハ裁判所ハ其和解示談ヲ許可スルヲ常トス故ニ假令ヒ身代限處分ノ命令ヲ發シタル後ト雖モ債主カ負債主ト和解シタルコトヲ届出タルトキハ何時ニテモ裁判所ハ之ヲ許可シテ其身代限處分ノ命令ヲ取消スナリ故ニ我邦身代限法ニヨリテ和解ヲ論スルトキハ其和解ハ契約法上ノ和解ト同一ナルヲ以テ別ニ身代限法ノ和解トテ特更ニ講述スルノ必要ナシト雖モ英國倒産法ニ於テハ以上ノ如キ特別ノ規則アルヲ以テ和解ハ契約法ニテ講述ス可キモノトシ之ヲ放任スルコトヲ得ス必スヤ特別ニ倒産法ニ於テ和解ヲ講セサル可カラサルナリ而シテ其之ヲ講述スルニハ和解ヲナス時ノ前後ヨリ區別シテ第一受理命令ヲ發スル前ノ和解第二受理命令ヲ發シテヨリ倒産申渡ヲナス前ニナシタル和解第三倒産申渡後ノ和解トナスヲ好トス而シテ此三種ノ和解中ニテ受理命令前ノ和解ハ未ダ倒産處分ニ着手セサル前ノ和解ナレハ此倒産

法ノ關スル所ニアラス對手雙方ハ其合意サヘアレハ勝手次第ニ和解ヲナスコトヲ得ヘク亦何ノ理由アリテカ裁判所ノ干渉スルコトヲ用ヒンヤ故ニ次回ヨリ和解ニ付キ講述ス可キ所ハ受理命令ヲ發シタル後ノ和解ノコトニ付キ講述スルコト、御心得アリテ聽講アリタシ

第八回

和解ノ細目ニ入りテ講述スル前ニ一言ス可キハ倒産法ニテ特別ニ和解ヲ設ケタルノ利益ハ何ノ邊ニアリヤノコトナリ而シテ和解ヲ許ス利益ハ左ノ如シ
 第一ハ債主ノ受クル所ノ利益ニシテ債主ハ如何ナル利益ヲ和解ヨリシテ得ルヤ曰ク第一無益ノ時間ト費用トヲ省畧スルコト第二夥多ノ配當金ヲ得ルコト第三確實ナル保証ヲ得ルコト是ナリ尙ホ之ヲ詳言スレハ負債主カ一朝仕拂能力ヲ失スルニ當リテ債主ヨリ借金ノ催促ヲ受クル苦ミハ唯ニ負債主自身ノミナラス其親戚故舊ニ至ルマテ亦多少ノ心配ヲナスモノナリ既ニ多少ノ心配ヲ致スコトハスレハ之カ爲ニ應分ノカヲ盡シテ負債主ノ困難ヲ扶助スルコトヲ務ムルハ人情ノ常ナリ而シテ此ノ如ク他人カ負債主ノ爲メニ世話心配ヲ致スハ未ダ倒産處

分チ受ケサル前ニアルモノニシテ若シ一朝倒産處分チ受ケタルトキハ最早手廻
 レトナリテ亦何人モ手チ出ス者ナキニ至ル可キナリ故ニ負債主カ仕拂能力チ失
 シタル場合ニ於テ尙ホ負債主チシテ親戚故舊ノ扶助チ受ケシメント欲セハ和解
 ノ手段チ用ユルニ非サレハ他ニ善良ナル方法アルコトナシ若シ幸ニ和解チシテ
 成就セシメハ負債主ハ之ニヨリテ以テ商業チ回復スルコトチ得ヘク好シヤ商業
 チ回復スルコトチ得サルモ約束ニ從フテ保證人ニ係ルコトチ得ヘク而シテ保證
 人ハ重ニ有力者ナルチ以テ債主ニ向テ充分ノ満足チ與フルコトチ得ヘキナリ之
 レ債主カ和解ヨリ得ル所ノ第一利益ナリ又金錢配當方ニ付テモ負債主チシテ其
 商業チ繼續セシムルトキハ假令ヒ五十年若クハ二十年又五年据ヘ置キトスルモ
 債主ノ受クル配當金ハ倒産處分ニヨリテ受クル所ノ配當金ヨリモ多カル可シ又
 實際負債主ノ財産チ賣却シテ金錢チ配當スルトスルモ裁判所ヨリ干涉スル公賣
 處分ニヨリテ賣却スル代金ト一私人相互ノ約束チ以テ賣却スル代金トチ比較ス
 ルトキハ少ナクトモ三分ノ一若クハ五分ノ二ノ差異チ生ス可キナリ故ニ裁判所
 ノ公賣處分ハ云ハ、棄テ賣リト同様ノモノナリ而シテ債主カ此ノ如キ私ノ賣買

ニヨリ負債主ノ財産チ賣却シ之ヨリ生スル利益チ得ルニモ和解ノ手段チ用ユル
 ニ非サレハ得ヘカラサルナリ是レ第二ノ利益ナリトス今一ノ利益ハ倒産處分チ
 請願スルトキハ夥多ノ費用チ要ス可キモ此和解ニテ事落着スルトキハ僅少ノ費
 用ニテ事足り常ニ英國倒産法ノ非難チ受クル費用夥多ノ誹チモ免ル、コトチ得
 ヘキナリ又此和解ノ方法チ用ユルトキハ事簡畧ニ落着スルチ以テ從テ無益ノ時
 間チ徒費スルノ恐ナカル可キナリ

第二ハ負債主ノ受クル所ノ利益ニシテ此負債主ノ受クル利益ハ別ニ明言スル程
 ノコトモナク先ツ第一ニ倒産者タルノ名義チ免レ從テ公權私權ニ何等ノ影響チ
 モ及ホサ、ル可シ第二ニハ親戚故舊ノ扶助チ受クルコトチ得ヘシ既ニ此等ノ人
 ノ扶助チ受クルトキハ第三ニ商業チ回復シテ舊位地ニ復スルト云フ亦一ノ利益
 チ生ス可キナリ

第三ハ社會ノ受クル所ノ利益ニシテ此利益ハ唯ニ倒産法ニ付キテノ利益ノミナ
 ラス總テ何事ニ限ラス裁判所ノ御手数チ仰クト云フコトハ善キ事ニハ非スシテ
 乱訴チ防止スルハ司法制度ノ一大目的ナリ今我邦ニ於テ勸解ノ制アルモ必竟權

利ノ如何ハ暫ク置キ先ツ和解ヲ獎勵シテ乱訴ヲ防止スルノ策ニ出テタルモノナ
 リ
 和解ハ前述ノ如ク債主負債主ハ勿論社會ニ取リテモ種々ノ利益アルヲ以テ如何
 ナル方法ヲ用ヒテモ此和解ヲナスコトヲ得ルカ如キモ一利一害ハ世ノ中ノ習ヒ
 ニテ此和解トテモ此ノ習ヒニ違ハス一方ヨリ觀察スルトキハ亦弊害ナキニ非ス
 即猥リニ和解ヲナスコトヲ許ストキハ此和解ヲ以テ一ノ商賣道具トナシテ金儲
 ナサント謀ル惡漢アルヤモ計ラレス現ニ我邦ノ如キモ勸解ヲ以テ貸金催促ノ
 手段トナスノ觀ナキ能ハス又獨逸國ニ於テモ此和解ニ關スル規則ノ寛ナルヨリ
 シテ非常ノ弊害ヲ受ケタルコトアリ故ニ和解ヲ許スニ付キテモ亦幾分ノ制限ヲ
 設ケサル可カラス即和解ヲ以テ倒産處分中ノ一手續トシテ裁判所カ始終之ヲ監
 督スルコト是ナリ今日我邦ニ於テハ身代限ノ前後ヲ問ハス和解ヲナストキハ之
 ト同時ニ裁判所ノ手ヲ離レ一件落着トナルモ英國倒産法ニ於テハ假令ヒ債主負
 債主間ニ於テ和解ヲナストモ其結局ノ定マルマテハ尙ホ裁判所ノ干涉スルアツ
 テ其管轄ヲ脱スルコトナシ故ニ好シヤ和解ヲナストモ其和解ノ條件ヲ履行セサ

ルトキハ直ニ倒産申渡ヲナスモノトス

之ヨリ和解ノ詳細ニ涉リテ講述センニ先ツ倒産申渡前ノ和解條例第十八條ヨリ
 始メノ普通ノ順序ヨリ云ヘハ此和解ナルモノハ倒産處分ノ第一着ニ來ルモノニ
 シテ此和解ノ望ミカ破裂シテ茲ニ初メテ倒産申渡ヲナスモノトス而シテ一タヒ
 倒産申渡ヲナシタル以上ハ先ツ最早和解ハ出來セサルモノト一應推測セサルヘ
 カラス之レ倒産申渡前ノ和解カ多クシテ倒産申渡後ノ和解ハ減少ニ行ハレサル
 所以ナリ倍テ和解ヲナスニハ四個ノ制限アリ即第一其和解ノコトカ債主第一集
 會ニ於テ議決セラル、コト第二其議決ハ債主ノ過半数債權ノ四分三以上ノ議決
 タルコト第三債主ノ第二集會ニ於テ再ヒ可決セラル、コト第四第二集會ノ可決
 ハ負債主公審後ニアルコト第五其和解ハ裁判所ノ認可ヲ經タルコト第六其和解
 ハ始終裁判所ノ監督ヲ受クルコト是ナリ
 右ノ中第一ハ債主全体ノ意見ヲ集ムルカ爲メニシテ第二ハ既ニ債主集會ノ場合
 ニ於テ述ヘタルカ如ク單ニ員數ノミニテハ弊害アルヲ以テ之ヲ防カンカ爲メナ
 リ第三ハ債主第一集會ニ於テ議決シタル非ヲ矯正シテ疎忽ノ議決ヲ防止スルニ

アリ何トナレハ第一集會ハ最初ノ會議ナルヲ以テ債主中ニモ未タ負債主ノ取引
 其他ノ狀態ヲ熟知セシテ疎忽ノ議決ヲナスモノアルヘク債主中或ハ他債主ノ
 爲ニ瞞着セラレテ同意シタルヤモ計ラレス而シテ和解ヲナスヤ將タ倒産申渡ヲナ
 スヤハ必要ノ問題ナルヲ以テ丁寧ニ丁寧ヲ加ヘテ單ニ第一集會ノ議決ノミヲ以
 テ満足セス第二集會ニ於テモ尙ホ可決スルヲ必要トハナシテ第四何故ニ第二
 集會ノ議決カ負債主公審后ニアルヲ要スルヤト云フニ負債主公審ニハ各債主皆出
 席シテ負債主ヲ審問スルノ權アルヲ以テ負債主ノ狀態模樣ヲ知ルヲ得ヘク從テ
 充分ノ議決ヲナスコトヲ得ケレハナリ第五第六ノ和解ハ裁判所ノ認可ヲ經且ツ始
 終裁判所ノ監督ヲ受クル必要アルコトハ既ニ前回ニ述ヘタルヲ以テ茲ニ贅セス
 之レヨリ倒産申渡後ノ和解條例第二十三條ヲ説カンニ此申渡後ノ和解モ右ノ申渡
 前ノ和解ト同様ノ手續ヲ以テ裁判所ノ認可ヲ請ヒ裁判所ニ於テ至當ト認メタル
 トキ之ヲ認可スルモノトス而シテ其許可ヲ得タルトキハ倒産申渡ノ命令ヲ取消
 ス効果ヲ生スルモノトス此申渡後ノ和解ニ付キ刑事上ニ生スル効果ハ暫ク擱キ
 民事上ニ於テハ如何ナル場合ニテモ債主負債主カ相談シテ和解ヲ願ヒ出テタル

トキハ裁判所ハ必ス倒産申渡ヲ取消スモノトス而シテ一旦之ヲ取消シタルトキ
 ハ公私ノ權利ヨリ金錢上ノ權利ニ至ルマテ舊位地ニ復スルモノトス日曼法ニテ
 ハ倒産處分ヲ三分ナテ通常倒産、過失倒産、刑事倒産トナセリ而シテ刑事上ノ倒
 産ニ付キテハ一切和解ヲ許サ、ルコト、ナセリ然レトモ英國ニ於テハ此ノ如キ
 區別ヲナサ、ルモ負債主ニ惡意大過失アルトキハ裁判所ハ其職權ヲ以テ和解ヲ
 認可セサルヘシ

右ニテ和解ノコトハ講了シクレトモ尙ホ玆ニ一言スヘキコトハ通常和解ト申セ
 ハ元ノ義務ノ幾分ヲ免除シ若クハ年賦返濟トナシ又無利息トナシ若クハ現金ノ
 七分又五分ヲ仕拂ヒテ勘辨スルカ如キハ通常ノ方法ナリトス而シテ一旦和解カ
 成ルトキハ其當時倒産處分ニ付キテ債權ヲ証明シクルモノハ勿論假令ヒ實際債
 權ヲ証明セサルモノニ對シテモ和解ノ効力ヲ及ホスモノトス然レトモ之ハ一ノ
 通則タルニ過キスシテ此和解ニ結ヒ付ラレサル債權ヲ有スルモノアリ然ラハ其
 債權ハ如何ナルモノナリヤト云フニ免除命令ニヨリテ消滅セサル債權是ナリ即
 租税得金ノ如キハ假令ヒ他債主カ和解スルモ之ハ刑罰ノ性質ヲ有スルモノナル

ヲ以テ決シテ和解スルコトヲ得サルナリ

第九回

第九章 倒産申渡

先ツ前章マテニテ受理命令ヲ發シテヨリ倒産申渡ヲナスノ手續ヲ講シタルヲ以テ之ヨリ愈々講歩ヲ進メテ倒産申渡ノコトニ講及セント欲ス
今回ニ於テ述フル所ノ倒産申渡ハ恰モ日本ノ身代限命令ニ類似スルモノナリ然レトモ亦多少ノ差異ナキニ非ス即チ倒産申渡ニ於テ管理人ヲ撰擇スルト否ヤトノ差異是ナリ既ニ前回ニ於テ述ヘタルカ如ク日本ニ於テハ裁判所カ身代限命令ヲ發シテヨリ債主ノ申立ニ從フテ債主ノ員數及負債主財産ノ種類所在抵當ノ有無等ヲ吟味シ其ヨリ戶長役場ニ照會シテ實地財産ノ取調ニ着手セシム而シテ此等ノコトニ付主トシテ從事スルモノハ重モニ裁判所ノ書記ナレトモ時トシテハ裁判官自身モ執行吏タルノ資格ヲ以テ身代限處分ニ干渉スルコトアリ然レトモ英國ニ於テハ倒産申渡アルト同時ニ債主ヲシテ管財人ヲ撰擇セシム而シテ此管財人ハ官吏ニ非ス全ク一私人ノ資格ヲ以テ倒産申渡アルヤ否ヤ前ニ負債主ノ財産

ヲ管督スル受理官ニ代リテ其財産ヲ引受ケ殆ント財産所有者ノ如キ有様ヲ以テ負債主ノ財産ヲ處分スルモノナリ取りモ直サズ此管財人ハ日本ニ於ケル書記ノ地位ニ該當スルモノナリ尙ホ管財人ヲ撰擇スルノ方法及其職務等ハ後回別ニ一章ヲ設ケテ講述スルコト、致サン

右ニテ先ツ日本ト英國トノ倒産申渡ニ於ケル大區別ヲ説キ了リタルヲ以テ之レヨリ倒産申渡ノ細目ニ涉リテ講述センニ借テ倒産申渡ハ何人カ請願スルヤト云フニ受理命令ノ場合ト同シク債主ヨリ倒産申渡ヲ請願スルハ本体ナレトモ受理官モ負債主ノ行爲状態ニヨリテ到底和解ノ望ミ絶ヘタリト信スルトキハ倒産申渡ヲ請願スルコトヲ得ヘシ亦ク負債主自身ニモ到底任拂能力ナシト認メタルトキハ同シク倒産申渡ヲ請願スルコトヲ得ヘシ然レトモ受理官及負債主ノ請願ハ一ノ變休タルニ過キサルナリ

右ノ如ク債主若クハ受理官ヨリ倒産申渡ノ請願アルモ裁判所ニ於テハ必スシモ倒産申渡ヲナスヘキ義務アルモノニ非スシテ之ヲ申渡スト否トハ全ク裁判官ノ職權内ニアリ今裁判所カ倒産申渡ノ請願ヲ許容スヘキ場合ノ大要ヲ舉シレハ債

主集會ニ於テ和解ヲ採用セサルトキ債主カ議決セズシテ散會シタルトキ或ハ全
 ヲ集會ヲ催サ、ルトキ、債主カ裁判所ヨリ與ヘラレタル期限内ニ和解ノ申出ヲ
 承諾セサルトキ等ノ如シ若シ又債主カ其倒産處分中ニ逃亡隠遁シタルトキハ
 受理官ヨリノ請願ニヨリ裁判所ハ倒産申渡ヲナスコトヲ得ヘシ債又一旦第一債
 主集會ニ於テ和解ノ約束整フモ後日ニ債主其和解ノ約束ニ從ヒ義務ヲ履行セ
 サルトキハ尙ホ債主ヨリ倒産申渡ヲ請願スルコトヲ得ヘシ又詐欺ノ手段ヲ以テ
 和解ヲ得タルトキモ亦同一ナリ

右ニ反シ債主自身ニ倒産申渡ヲ請願シタトキハ日本ニ於ケルカ如ク直チニ裁
 判所ヨリ倒産申渡ヲナスヘキコトヲ得尤モ債主自身ヲシテ倒産申渡ヲ請願セ
 シムルハ果シテ正當ナリヤ否ヤ即チ前回ニ於テ述ヘタル如ク日本ニ於テ被告人
 カ身代限ヲ願出テタルトキハ一モ二モナク直チニ裁判所ハ許容スルヤ否ヤ此點
 ニ付テハ種々ノ議論アレトモ之ハ立法論ニ涉ルノ恐レアルヲ以テ茲ニ講述セサ
 ルナリ唯債主自身ヨリ願ヒ出テタルトキハ既ニ自分ニ仕拂能力ヲ失シタト認
 メ倒産申渡ヲ受クルノ覺悟アルヲ以テ裁判所ハ何時コテモ倒産申渡ヲナスコト

ヲ得ルカ如キモ裁判所ハ必スシモ倒産申渡ヲナスノ義務アルモノニ非サルナリ
 何トナレハ或債主ト和解ノ成就スル望ミアルニモ拘ハラズ債主カ疎忽ニモ失
 望ノ餘リ倒産申渡ヲ請願シ又債主ト不和ナルカ爲ニ和解ヲナスコトヲ止メ倒産
 申渡ヲ請願シタルカモ計ラレサルヲ以テ裁判所ハ此等ノ事情ヲモ察セス一ニ債
 主ヨリノ請願ナリトテ倒産申渡ヲナシ望ミアル和解ヲ絶斷スヘカラス必スヤ
 此ノ如キ場合ニ於テ假令ヒ債主ヨリ請願セルニモセヨ暫時倒産申渡ヲナスコ
 トヲ見合ヒ和解ヲ獎勵スルコトニ尽力セサルヘカラス以上ノ如キ事情アルヲ以
 テ強チ債主自身ノ請願ナリトテ裁判所ハ倒産申渡ヲナスコトヲ得サルナリ
 債主倒産申渡ヲナシタルトキハ如何ナル効果ヲ生スルヤト云フニ其効果ニ三ア
 リ

第一債主ノ身体ニ及ホス効果第二債主ノ財産ニ及ホス効果第三債主ノ取
 引上ニ及ホス効果是ナリ以下順ヲ遂フテ講述セシニ
 第一身体ニ及ホス効果ヨリ講述セシニ債主ニ詐欺ノ所爲アルトキハ勿論輕罪
 ヲ以テ論スルコト、ナレリ現ニ日本ニ於テハ財産隠匿ニ對スル刑事上ノ罰アリ

其他負債主ノ公權上ニ影響ヲ及ホスコト、ナレリ而シテ日本ノ如キハ唯ニ公權ノミナラス私權ニモ影響ヲ及ホスコト、ナレリ然レトモ此身代限ヲ受ケタル者ニ對スル制裁ノ輕重如何ニ付キテハ種々ノ學說アルモ前沿革史ノ場合ニ於テ述ヘタルカ如シ英國倒産法ノ發達ハ財産管理處分ヨリ負債主ヲ罰スルカ立法者ノ精神ナルヲ以テ現行法ニ定ムル制裁ニ付キテハ學者間ノ議論ニヨレハ餘リ制裁カ寛大ナリトノ評アリ去レトモ負債主ニ對スル制裁ノ輕重ニ付キテハ大ニ倒産處分ノ數ニ影響ヲ及ホスモノナレハ立法者タル者ハ大ニ此點ニ注意セサルヘカラサルナリ英國倒産條例ニ於テ負債主ノ權利ニ關スル制裁ノ重モナルモノヲ掲クレハ上院下院ノ議員タル資格ヲ失スルコト、町村自治體ノ被擧人トナルコト其他人民ニ擧舉サレテ公ケノ地位ニ立ツノ資格ヲ失スルモノトス

第二財産上ニ及ホス効果ニ付キテハ受理官カ負債主ノ財産ヲ差押ヘタル場合ト同一ニシテ唯々受理官ニ代フルニ管財人ヲ以テスルノ差アルノミ而シテ此場合ハ最早訴訟一件落着後ナルヲ以テ管財人ハ受理官ト異ナリ自己ノ保管スル財産ヲ賣却スルノ權限ヲ有スルナリ

第三取引上ニ及ホス効果ハ實ニ重大ナルモノニシテ且ツ日本ト英國トノ間ニハ大ナル差異アルヲ以テ之ハ後回ニ詳述セン

第十回

今日ハ負債主ノ取引上ニ及フ效果ヲ述ヘン

前回ニ於テハ負債主ノ身體若シハ財産上ニ及フ效果ヲ述ヘシリシカ去レトモ債主ノ權利ヲ充分ニ保護セント欲セハ獨リ財産上ニ及フ效果ヲ規定スルノミニテハ未タ以テ足レリトナサス尙ホ又々取引上ニ付テモ充分ノ取締ヲナサ、ルヘカラス要スルニ財産ト取引トハ其種類ヲ殊ニスルト雖モ其倒産處分上ニ影響ヲ及ホスノ點ニ至リテハ區別ナキナリ

現ニ我國ニ於テモ身代限ノ際ニ財産ヲ隱匿スルトキハ刑法上ノ制裁ヲ加フルモ其法文ノ意義廣濶ニシテ裁判所内ニ於テ種々議論ノ存スル所ナレトモ兎ニ角身代限ノ前後ニ於テ財産ヲ隱匿消費スルコトヲ制止セサル可ラサルコトハ認メアルモノニシテ其財産ノ隱匿又ハ消費スルノ罪ヲ如何ニ規定スヘキヤニ付テハ獨リ有形財産ノ處分ノミニ限ラスシテ無形ノ財産ナル取引即チ證書ヲ作りテ借金

チ故造シ負債ヲ負擔スルノ擬爲ナシタルモ或ル解釋ニヨリテハ之ヲ含有セシムヘキモノナリ到底日本ノ法律ハ未ダ完全ナラサルヲ以テ深ク之ヲ吟味スルヲ止ムヘキモ何國ノ法律ニ於テモ負債主カ身代限中ニナシタル財産ノ讓渡ハ無効ナルモノトス我國ニ於テハ法律上ノ明文ナキモ英佛法律ノ原則ニヨリ法理上之ヲ實際ニ執行スルコトヲ得ヘキナリ

倍此取引上ニ制限ヲ設クルニハ如何ナル方法ニヨルヘキカト云フニ其取引ヲ無効ニスルコト是レナリ然ラハ則チ總テノ取引ヲ悉ク無効ニシテ可ナルヤト云フニ決シテ然ラサルナリ今此無効ニスヘキ取引ト無効トナスヘカラサル取引トノ區別ヲ述フルニ當リ(一)約報ヲ有スル取引(二)約報ヲ有セサル取引ノ二種ニ分テ講スヘシ

一、約報ヲ有スル取引

既ニ前章ニ述ヘタル如ク英國ノ倒産法ニ於テハ先ツ受理命令ナルモノヲ倒産申渡前ニ發シ他ノ各國ニ於テハ直チニ倒産申渡ヲナスモノナルカ此二者ハ必竟スルニ倒産者ナルコトヲ一般人ニ公示スル處ノ命令ナリトス此命令アリタル以上

ハ一般人ハ其負債主ト取引ヲナスヘカラサルノ義務ヲ生スヘキモノナレハ此受理命令アリタル以後ニナシタル取引ハ約報ノ有無ニ關セズ總テ無効ナリトス故ニ約報ヲ有スル取引ヲ細別シテ曰ク倒産行爲以前ニナシタルモノ曰ク倒産行爲以後ニナシタル者ノ二種トス

倒産行爲以後ニナシタル處ノ取引ニ付テハ一方ノ對手即チ債主ハ其倒産行爲ヲ犯シタル者ナルコトヲ知リテ之ト締結シタルトキハ無効トナスモ若シ知ラスシテ締約シタルトキハ之ヲ有効トス

倒産行爲以前ノ取引ニ付テハ苟モ約報アル以上ハ總テ之ヲ有効トスルナリ今一方ヨリ之ヲ見レハ例令對手カ負債主ノ倒産行爲ヲ犯シタルノ事實ヲ知リテナシタル取引ト雖モ約報アル取引ナルトキハ之ヲ有効トシテ可ナルカ如クナレトモ若シ之ヲ許サンカ負債主ハ既ニ倒産行爲ヲ犯シタルカ故ニ一意財産ヲ隱匿セシコトヲ勤ムヘク第三者ハ此究迫ノ際ニ投合シ不意ノ利益ヲ得ンカ爲メ僅少ノ金員ヲ出シテ負債主ノ捨テ賣スル財産ヲ買フノ弊害アルヘキヲ以テ之カ制限ヲ置キタルナリ之ニ反シテ倒産行爲以前ノ取引ニ至テハ之ヲ制限禁遏スルノ方法ナ

キナリ

二約報ヲ有セサル取引

負債主カ他人ヨリ金員ヲ借り之カ辨償ノ義務ヲ負擔スルニ當リ其義務ヲ履行セ
 スシテ他人ニ物ヲ與フルカ如キハ人間自由意思ノ點ヨリ論スレハ勝手ニナシ得
 へキ取引ニシテ契約法ニ於テモ亦之ヲ禁セサルナリ然レトモ社會ノ信用ト債
 主ノ保護トナサント欲セハ法律カ此點ニマテ干涉セサルヲ得ス是レ即チ各國
 倒産法ニ於テ約因ヲ有セサル負債ニ對シテ制限ヲ附スル所以ナリトス
 今日英國ニ於テハ之ヲ二種ニ區別ス(一)倒産申渡ヨリ以前ニ遡リテ二年以内ニナ
 シタル取引ハ如何ナル事情アルニ關セズ之ヲ無効トス(二)二年乃至十年以内ニナ
 シタル取引ニ對シテハ其取引ノ對手即チ取引ニヨリテ利益ヲ受クル者ハ其取引
 ノ當時負債主ノ支拂能力ヲ有シタル事實ヲ證明スルノ證明ナルノ責任アリテ若
 シ是カ證明ヲナスコトヲ得サルトキハ其取引ヲ無効トス此取引ハ最モ多ク婚姻
 ノ場合ニ於テ己レノ子女ニ與フル財産等ニ行ハル、モノナレトモ英國ニ於テハ
 是等モ尙ホ後日ニ至リ取戻スコトヲ得ルモノトセリ其故ハ若シ之ヲ許容スルト

キハ今日日本ニ行ハル、名前書換ノ如ク本人ハ名義上一錢ノ財産ヲ有セサルモ
 數十萬ノ財産ヲ親戚ノ名義トシ内實自身カ所有シ得ル結果ヲ生スルモノナレハ
 之ヲ拒カント欲セハ無効トナスノ制裁ヲ加フルノ外ナキナリ
 英國法ノ此點ニ付キテ嚴酷ナルハ舉證ノ責任ヲ反對スルコト是ナリ何トナレハ
 一般ノ證據法ニヨレハ吾人ハ金ヲ借ラサルモノト推測スルカ故ニ金ヲ貸シタル
 トキハ貸シタリト申立ツル者ヨリ之ヲ證明セサルヘカラス即チ證明ノ責ハ消極
 ノ申立チナスモノニ非スシテ積極ノ申立チナスモノニアルカ故ニ此規則ヨリ推
 究スルトキハ倒産法ノ場合ニ於テ倒産申渡ヨリ十年以内ノ取引ニ付テモ財産ヲ
 賈ヒ受ケタル者ニ舉證ノ責任ヲ負ハシメスシテ之ヲ無効ニセント爭フ處ノ債主
 ニ於テ舉證ノ責ヲ負擔セサルヘカラス債主ヨリ負債主カ贈與ヲナシタルノ當時
 支拂能力ヲ有セサリシトノ事實ヲ証セサルヘカラス然ルニ此點ニ關スル
 英國ノ規則ハ全ク證據法ノ原則ニ反スルモノナリ然レトモ此ノ如ク舉證ノ責ヲ
 變シタル所以ノモノハ抑モ亦理由アルコトニシテ此場合ニ當リ債主ヨリシテ証
 據ヲ舉グルコトハ實際上到底ナシ得ヘカラス事柄ニシテ又々取引ヲナシタル

對手ニ於テ之ヲナスモ決シテ容易ノコト、ナスヘカラス去レトモ法律ハ約報ヲ以テ取引ヲナシタル者ヲ保護スヘキカ貰受ケタル者ヲ保護スヘキカト云ハ、必スヤ約報ナク貰ヒ受ケタル者ヲ捨テ約報ヲ以テ取引シタル者ヲ保護セサルヘカラサルヲ以テナリ

日本現行ノ身代限法ニ於テハ凡テ此等舉證ノ責任ニ至リテハ特別ノ規定ナキヲ以テ通常證據法ノ原則ニ據リ舉證ノ責任ヲ債主ニ負担セシメサルヘカラス負債主及モ負債主ヨリ財産ヲ貰受ケタル者ハ唯タ之ヲ知ラスト主張スレハ充分ニシテ別ニ證據ヲ舉ケテ對抗スルノ必要ナキナリ然ルニ前ニモ述ヘタル如ク此身代限ノ際財産隠匿ノ手段即チ自己ノ財産ヲ他人ニ讓渡シ名義上約因アルノ取引ナルモ實際全ク之ニ反スルモノアルハ今日往々見聞スル處ナルカ是等不正ノ取引ヲナシタルトキハ裁判官タル者ノ職權ヲ以テ當然之ヲ無効トスルヲ得ヘキモ例令之ヲ無効トスルモ舉證ノ責任ヲ變更セサル以上ハ顯著ナル効果ナキモノナリ而シテ其責任ヲ變更スルハ一ノ變則ナルヲ以テ必ス特別ノ法律ニヨラサルヲ得サルナリ今ヤ日本ニ於テモ漸次動産物ハ財産ノ大部分ヲ占ムルニ至リタル以上

ハ財産ノ隠匿モ次第ニ容易ナルニ至ルヘキヲ以テ是等ハ立法上最モ注意シテ制限ヲ加フヘキノ點ナリトス
終リニ一言スヘキハ取引トハ原語「トランスアクシヨム」(Transaction)ヲ譯シタルモノナレハ財産ノ賣買讓與ハ勿論書入質入及ヒ前ニ述ヘタル詐欺撰擇等ノ凡テヲ含有スルモノナリトス

第十一回

今回ハ倒産申渡取消ノコトヲ講述スヘシ

倒産申渡ノコトアル以上ハ又之カ取消ニ付テ規定ナキヲ得ヌ何トナレハ總テ普通ノ裁判ニ於テ控訴上告覆審ノ規定アルト同シク倒産申渡ト雖モ決シテ誤リナキヲ保セス加之ナラス此申渡モ必要アリテナシタルモノナレハ其必要ナキ場合ニ至ツテハ又之ヲ取消サルヘカラサルハ理ノ正ニ然ルヘキ所ナリトス故ニ此倒産法ニ於テモ亦之ヲ取消シ得ル場合ヲ特ニ規定セリ即チ其一ハ負債主カ倒産申渡ヲ受クルニ及ハサルニ之ヲ受ケタルトキ例ヘハ債主ノ詐欺ニヨリテ其申渡ヲ受ケ或ハ債權ノ價格五十「ポンド」ニ充タサルモノニ對シ裁判所カ誤テ其申渡ヲ

ナシ或ハ負債主ノ倒産行為ニ付キ後日反對證據ヲ生シタルトキ即チ探證ノ誤謬ヲ後ヨリ發見シタルトキノ如キ是ナリ是等ノ場合ニ於テハ此申渡ヲ取消サシメ以テ債主ノ權利ヲ保護セサル可ラサルナリ(條例第三十五條第一項)

其二ハ負債主カ倒産申渡後ニ於テ充分ニ負債ヲ償却シタルコトヲ證明シタルトキナリ素ト倒産所分ハ負債仕拂ノ爲メナス處ノモノナレハ既ニ之ヲ拂ヒタル以上ハ最早其必要ヲ見サルナリ故ニ此時ニ當リ負債主ヨリ裁判所ニ申出テタルトキハ速カニ之ヲ取消スヘキモノトス

本邦ニ於テハ未ダ別ニ斯ル規定ナキヲ以テ一度身代限處分ヲ受ケレハ是ヨリ種々ノ結果ヲ生シ或ハ小學校ノ教員トナリ或ハ會社ノ頭取トナリ或ハ府縣町村會ノ議員トナリ或ハ代言人トナルヲ得サル規則アルモ一方ニ於テハ此規則アリ乍ラ他ノ一方ニ於テハ身代限處分ノ消滅ハ之ヲ自然ニ任シ裁判所ニ於テ公ノ手續ヲ以テ之ヲ取消サレハ第三者即チ世人ハ負債主ノ果シテ借金ヲ充分仕拂ヒタル者ナルヤ否ヤヲ知ルニ道ナキヲ以テ徒ラニ一度此處分ヲ受ケタル者ハ信用ヲ回復スルニ難ク實際借金ヲ辨濟スルモ世人ヨリハ之ヲ知ラサルノ位地ニ立ツモノ

ナリト謂ツヘシサレハ右等申渡取消ノ手續ニヨリテ負債主ノ權利ヲ保護スルコトハ一度身代限處分ヲ受ケタル者ヲシテ失望セシメスシテ可成的之ヲ獎勵シテ速カニ負債仕拂ヒ信用ヲ恢復セシムルニハ極メテ必要ナルモノナリトス又仕拂ノコトモ本邦法律ニ據テ之ヲ見レハ現金ヲ以テ仕拂ハサル可ラサル如キノ解釋ナルモ決シテ現金ニ限ラス若シ確實ナル保證人ヲ立テ、信用上現金仕拂ヒタルト同一ナルトキハ債主ニ保證附ノ證書ヲ交付シタルノミニテ裁判所ニ於テハ此言渡ヲ取消スコトヲ得ルモノトス是等ハ最モ負債ノ仕拂ヲ獎勵スルノ一手段ナリ(條例第三十五條第一項及第三十六條)

其三ハ前回和解ノ章ニ於テ述ヘタル如ク倒産申渡後ニ和解ノ成リタル場合ナリ此場合モ亦既ニ和解アル以上ハ二重ニ倒産申渡ヲナスノ必要ナキノミナラス之ヲナストキハ負債主ハ實ニ困究スルコトナルニ法律カ決シテ負債主ニ此ノ如キノ苦痛ヲ與フルノ必要ナキヲ以テ速カニ之ヲ取消スヘキモノトス(第三十三條第二項)

次ニ此申渡ノ取消ヲ裁判所ニ請求スル者ナキヲ得ス之ヲ出願スルニ付テハ此權

利ヲ有スル者ハ此命令ヲ受ケタル所ノ負債主ナラサルハカラサルハ勿論ナレトモ法律ハ唯此限界ヲ負債者ノミニ留メス擴メテ此處分ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ此請求ヲナスコトヲ得ルモノトセリ是即チ負債主カ外國ニアリテ自ラ之ヲ請求スルコト能ハサル場合等ニ於テ親戚故舊カ代テ金員ヲ任拂ヒ若クハ和解ヲナスモ負債主ノ歸國セサル間ハ此命令ヲ受ケツ、アラサル可サルヲ以テ如此ノ場合ニハ可成的速カコ之ヲ取消サシムルノ精神ナリ

次ニ又倒産中渡取消ノ効果ニ付キ本邦ニテハ今日ノ身代限處分ナルモノハ訴訟ノ結果ナレハ先ツ其訴訟ノ破毀セサル間ハ之ヲ取消スヲ得ス(但シ相方ノ合意ヨリテ之ヲ取消ストキハ此限ニ非ス)故ニ若シ一旦身代限命令ヲ取消ストキハ其裁判ヲモ覆スモノナルカ故ニ身代限處分ニ着手シ又ハ處分ヲ終リタル事件ニ付ハテ被告人即チ身代限ヲ受ケタル者ヨリ原告ニ對シテ損害要償ノ權ヲ生ス之ヲ再言スレハ身代限處分着手中ナルトキハ其處分ヲシテ再ヒ故態ニ追復セシメサルヘカラス故ニ既ニ賣却シタル田地ハ之ヲ買戻シ取毀チタル家屋ハ之ヲ修覆シ加之ナラス相當ノ損害金ヲ拂ハサル可ラス是即チ本邦ニ於ケル身代限處分取消

ノ結果ナリ英國ニテモ古昔ハ是ト同一ノ手續ナリシ去レトモ近世ニ至リ其弊害ヲ知リ例令倒産申渡ヲ後ヨリ取消スモ既ニ着手シ已ニ處分ヲ終リタル事項ハ之ヲ故態ニ追復セシメサルコト、セリ之ヲ以テ若シ不幸ナル負債主カ相當ノ理由ナキ倒産處分ヲ受ケ妨害ヲ蒙ルモ此點ニ付テハ黙止セサル可カラサルナリ故ニ唯其賣却セラレタル土地家屋ノ代價若クハ其殘餘ノ物品ヲ債主ヨリ受取リタルノミコシテ甘ンセサルハ是即チ英國現行法ナリ

然リ而シテ本邦ノ成規ノ如キ又英國古昔法ノ如キ何レモ英國現行法トハ全ク反對ノ方向ニアルモノニシテ其ニ極端ニ走リタルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ此取消サレタル倒産申渡ヲ區別スルトキハ二種アルヘシ即チ一ハ相當ノ理由ナシテ倒産中渡ヲ受ケタルトキ一ハ相當ノ理由ニヨリ倒産申渡ヲ受ケタルモ必要ナキニ至リ後ヨリ之ヲ取消シタルトキ再言スレハ負債主ハ其當時當然倒産申渡ヲ受クヘキ位地ニ在リタルトキナリ第一ノ場合ハ負債主ニ惡意又ハ過失等ノ毫モ存スルナシ却テ債主ニ過失アルカ又ハ不當ノ倒産請願ヲナシタル場合ナリトス如此場合ニ於テハ例令裁判所カ誤テ倒産申渡ヲナシタリト雖モ其責ハ債

主ニアルモノナレハ負債主ハ債主ニ對シ充分其事件ニ關シ損害要償ヲナスノ權利アルノミナラス此場合ニ於ケル申渡ノ効果ハ倒産處分ヲ取消シテ既ニ處分ヲ終リタル所ノ者ハ再ヒ故態ニ追復セシメ以テ負債主ニ満足ヲ與ヘサル可ラス之ニ反シテ第二ノ場合ハ充分負債主ニ過失アリテ相當ノ理由ニヨリ倒産申渡ヲ受ケ後ニ至リ取消サレタルモノナレハ勿論要償ノ權利ナク從テ其處分ヲ終リタル者ヲ再ヒ追復セシムルノ必要ナキナリ

第七章 負債ノ證明 (Proof of debts)

前回ニ述ヘタル處ト重複ニ渉ル恐レアルモ茲ニ一言スヘキハ本邦ニテ身代限ニ加入シテ之カ配當ヲ受クルニハ印紙ヲ貼リタル通常ノ訴狀ヲ差出サ、ルヘカテサルコト是ナリ加入債主カ此訴狀ヲ差出シタルトキニ當リテノ取扱手續ハ實際余ノ知ル所ニテハ今日我裁判所間ニ行ハル、モノ二種アリ即チ一ハ債主カ訴狀ヲ差出シテ訴訟ヲナスモノナレハ通常ノ事件ト同一ニ開廷審問シテ裁判ヲ言渡シ一ハ加入債主ノ申立ヲ取捨スルニハ何レ原被告對審ノ上ニテ證明ヲナサシメサル可ラス然ルトキハ執行官タルノ資格ヲ有スル者ニテハ充分ノ取調ヲナスヲ得

サレハ必ス一ノ裁判トシテ之ヲ取調ヘサル可ラサルニヨリ此加入事件モ通常ノ裁判ト同様ニ取扱フモノニシテ一昨年余ノ横濱裁判所ニ在勤中ハ同裁判所ニテハ此手續ニ據リテ今一ツノ手續ハ執行所分中ニ執行官ノ位地ニアル裁判官カ加入債主ノ呈出シタル證據ヲ檢シ之カ取捨ヲ決スルナリ而シテ今日是等ノ裁判ニ不服ナルトキハ其故障ヲ申立ルニハ通常ノ裁判事件ニ對スルト同一ニシテ何時モ控訴ノ裁判ヲナス所ノ法術ニ訴フルコトナリ此手續ハ其事異ナリト雖モ英國ニ於テ負債ノ證明ヲナサシムルノ手續ト其趣ヲ同フスル所ノモノナリ先回ニモ述ヘタル如ク英國倒産法ニ於テハ加入事件ハ單純ナル加入ニシテ訴訟ニ非サルカ故ニ訴狀ヲ呈出スルノ必要ナキナリ然レトモ配當ニ預リ金員ノ分配ヲ受クル者ナレハ債主タル自己ノ有スル債權ヲ證明セサルヘカラス余ハ本章ニ於テ此證明ノ手續證明シ得ヘキ人又債權中ニ付キ證明シ得ヘキ債權及倒産處分ノ際ニ行ハル、相殺ニ關キ講述スヘシ

第十二回

今回ハ如何ナル人カ債權ヲ證明シ得ヘキヤヲ講述スヘシ通常出訴ノ能力ヲ有ス

ル者ハ又身代限處分ニ加入シテ債權ヲ主張シ得ルモノトス然リ而シテ彼ノ幼者
 既婚婦禁治産者ノ如キ自カラ訴訟ヲ提起スルヲ得サル者ハ又後見人夫若シハ管
 財人等他人ノ力ヲ借ラサルトキハ身代限處分ニ加入スルヲ得スシテ常ニ倒産處
 分ニ加入スルノ能力ノ範圍ハ出訴ノ能力ト同一ナルヲ以テ總テ同一ノ規則ニ依
 ルヘキモノトス故ニ彼ノ既婚婦ノ如キモ其別有産ニ關スル時其他夫ノ許容ヲ得
 テ獨立ノ營業取引ヲナシ居ル時ハ勿論加入シテ證明シ得ヘシ又死者ノ管財人ノ
 如キモ死者ニ代テ此證明權ヲ有スヘシ又稍々變則ニハ屬スレトモ倒産者タル負
 債主ノ保證人負債主ニ代テ債主ニ借金ヲ仕拂ヒタルトキハ其債主ノ位地ニ立テ
 己レノ債權ヲ主張シ倒産處分ニ加入スルコトヲ得

昔時ニ在テハ債權ノ證明ハ代人ヲ以テ之ヲナスコトヲ禁シタリシモ現行法ハ之
 ヲ廢止シテ一般訴訟ト同一ノ規定トナセリ

次ニ債權證明ノコトヲ述ヘシニ債權ヲ證明スルニ當テハ總テ之ヲ許スモノナリ
 ヤト云フニ決シテ否ラスシテ債權中之ヲ證明シ得ヘキモノト然ラサルモノトノ別
 アリ古キ學說若クハ法律ニ依レハ總テ債權ノ價額確定セサルモノニハ加入ノ權

ヲ與ヘサリシカ故ニ私犯上ノ訴權又ハ破約ヨリ生スル損害ノ訴權ニ付テハ判決
 ヲ經タル以上ニ非サレハ其價額確定セサルヲ以テ此種ノ債權ハ之ヲ證明シテ身
 代限處分ニ加入スルヲ得サリシナリ然ルニ此制限漸次寛大ニ赴キ今日ニ至リテ
 ハ契約約束破信(Breach of trust)ヨリ生スル所ノ訴件ニ付テハ價額ノ確定不確定ニ
 關セス之ヲ證明スルヲ得ルナリ

債權ヲ得クル期日ヲ以テ制限スルニ付テハ舊條例ノ如ク倒産申渡ノ前後ニテ之
 ヲ區別スルアリ或ハ倒産行為ノ前後ヲ以テ區別スルアリ去レトモ現行法ニ於テ
 ハ其規定ヲ變更シ總テ倒産行為以前ニシタル契約約束破信等ヨリ生スル債權
 ハ証明シ得ヘキモノトス倒産行為以後受理命令前ニシタル約束契約ノ債權ニ
 シテ若シ債主カ倒産行為ノ通知ヲ受ケスシテ締約シタルトキハ即チ證明シ得ヘ
 キモノナルモ其通知ヲ受ケナカラ締約シタルトキハ及受理命令以後ノ債權ハ總テ
 證明ノ權ナキハ先キニモ述ヘタルカ如シ又准私犯ノ場合ニ於ケル訴權例令ハ上
 野ヨリ日本鐵道會社ノ瀛車ニ乗込ミ浦和ニ至ルノ途中車掌ノ不注意ヨリ傷ヲ負
 ヘタルトキハ破約若クハ私犯ノ何レヨリズルモ起訴シ得ルモノナルハ諸君ノ既

ニ私犯法ニ於テ學ヒタル所ナルヘシ此場合ニ於テモ破約ヲ理由トシテ訴フルト
 キハ加入ヲ許スモノトス
 又負債ノ仕拂期日ニ依テ區別セハ該債權カ倒産申渡ノ時ニ當リ仕拂期日ノ到着
 シタルヤ否ヤハ證明許否ノ限界ナスモノナレトモ此仕拂期限如何ハ現行法ニ於
 テハ敢テ問ハスシテ何レモ加入シ得セシム唯財産ノ分配ヲナスニ當リ該分配ノ
 日ヨリ其約束面ノ仕拂期日ニ至ルマテノ間ハ年五分ノ割合ヲ以テ利息ヲ引キ去
 ルヘキモノトセシカ是即チ金員ハ時間ニヨリ利息ヲ生スルモノナレハ其當時既
 ニ請求シ得ル債權ト未タ返濟期限ニ到達セサル債權トハ名義上同シク百圓ノ金
 員ナルモ其實價ニ至テハ利息丈ケノ差異アレハ其間ニ公平ヲ維持セント欲スル
 ノ意ニ外ナラサルナリ(參考日本明治六年七月第三百五十二號布告)
 已上ハ證明シ得ヘキ債權ノコトヲ述ヘシカ是ヨリ證明シ得ヘカラサル債權ノコ
 トヲ述ヘンニ證明シ得ヘカラサル債權ハ第一私犯上ノ訴權即チ損害要債ノ點ヨ
 リ生スル債權ハ加入ヲ許サ、ルナリ其故ハ此場合ニ於ケル債權ノ價額不確定ニ
 シテ必ス陪審官ノ力ヲ借リサレハ評價スルヲ得サレハナリ此故ニ私犯上ノ訴權

三〇

三二

ト雖モ裁判所ニ於テ評價シタル後ナルカ若クハ示談ノ上價額ヲ一定シタルトキ
 ハ最早確定ノ債權ナルヲ以テ加入ノ權アルモノトス又均シク私犯上ノ訴權トナ
 ル場合ナルモ詐欺破信等ヨリ生スル債權ハ場合ニヨリ價額ノ確定スルト否ラサ
 ルモノトアリ而シテ詐欺ハ多クハ私犯ニ屬スヘキモノニシテ破信ノ如キハ契約
 ノ場合ニ多キモ此二者ヨリ生スル債權ハ特ニ現今ノ法律ニ於テ證明スルコトヲ
 許セリ此理由ハ全ク沿革上ニ屬シ冗長ニ涉ルノ嫌アルヲ以テ之ヲ述ヘス
 第二ニハ若シ債權カ重罪ヲ以テ罰スヘキ犯罪ヨリ生シタルトキハ法律上ニ於テ
 ハ別ニ理由ナキモ政界上ヨリ其犯罪人ヲ告訴セサル間ハ證明ヲ許サス其趣旨ヲ
 ル犯罪人ヲ速カニ告發セシムルノ意ニ外ナラサルナリ日本ニテハ罪人ヲ告發ス
 ルヲ以テ人民ノ義務トナサ、ルモ英國ニテハ一ノ義務トナスカ故ニ法律ノ規定
 ハ唯ニ此點ノミナラス常ニ其方向ニアルモノトス
 次ニハ契約ノ約因不法ナルトキ即チ賭博犯ノ勝負ニヨリ生シタル債權ト如キハ
 之ヲ證明スルヲ得ス次ニハ又出訴期限ヲ經過シタル債權ハ證明ヲ許サ、ルナリ
 去レトモ若シ出訴期限ノ盡キタルハ受理命令ノ後チニアルトキハ之カ證明ヲ許

シ其前ニ出訴期限ヲ經過シタルモノハ許サ、ルナリ
 然リ而シテ是等債權ヲ証明スルニハ常ニ之カ利息ヲ附スルモノナルカ該利息ハ
 何時マテチ加算シ得ルヤ又如何ナル割合ニ依ルカト云フニ此利息ハ預メ契約上
 取極メアルトキハ其割合ニ據リ若シ取極メナキトキハ年四分ノ割合チ以テ受理
 命令ヲ發シタル當日マテノ利息ヲ債權ノ一部トシテ証明スルチ得可シ其以後ニ
 生スヘキ利息ハ分配スヘキ財産ニ殘餘ナキトキハ之ヲ仕拂ハサルナリ
 次ニ抵當チ有スル債權証明ノコトヲ述ヘンニ先回ニモ述ヘタル如ク日本ニテハ
 抵當チ有スル債主ト雖モ必ス身代限ニ加入セサルヘカラス若シ加入セサルトキ
 ハ裁判所ニ於テ其抵當物ハ身代限處分中ニ之ヲ賣却シテ其代金中ヨリ抵當チ有
 セシ債主ニ拂フヘキ金員ヲ取り除ケ之ヲ戶長役場ニ預ケ保管セシメ置クモノナ
 ルカ英國ニテハ之ニ反シ抵當チ有スル債主ハ債權ヲ證明シテ加入セサルモ可ナ
 ルモノトス何トナレハ債主ノ抵當チ取ルハ萬一ノ場合ニハ之ヲ賣却シテ己レノ
 債權ノ辨償ニ充ツルカ爲メナリトス然ルニ普通ノ抵當チ有セサル債主ハ仕拂チ
 得ル能ハスシテ迷惑ヲ感スルト雖モ決シテ其始メヨリ深ク注意シアリタル者カ

掣肘ヲ受シヘキ理由ナキチ以テ自己ノ債權ハ自己ノ抵當チ以テ自由ニ保護シ得
 ルナリ去レトモ是ハ之一般ノ通則ニシテ若シ抵當チ有スル債主ニシテ己レノ債
 權ヲ證明シ倒産處分ニ加入セントスルトキハ是亦自由ナレトモ一ノ債權ニ付キ
 二個ノ救正法ヲ取ルヘカラスナルチ以テ是等二者中必ス其一途ヲ撰ハサルヘカラ
 ス故ニ抵當チ有スル債主ノ默止シテ加入セサルハ普通ノ場合ニシテ第二ニハ其
 抵當物ヲ賣却シ其代金ヨリ貸金ヲ控除シ剩餘アルトキハ之ヲ負債主ニ返戻シ不
 足ナルトキハ之ヲ證明シテ加入スルチ得ルノ點ハ日本ニ於テモ同様ナリトス第
 三ニハ全ク抵當權ヲ拋棄シタルトキハ普通ノ債主ト一般ニ加入ノ權アルモノト
 ス其他一ノ手續ハ第二ニ類シタルモノニシテ例令ハ抵當物ヲ實際賣却セサルモ
 抵當物ノ價格ト債權トチ比較計算シテ其不足ノミニ付テ加入シ得ルモノナリ(細
 則第九條ヨリ第十七條)之ニ反シテ普通ノ抵當チ有セサル債權ニ付テハ別ニ述フヘキコ
 トナキモ唯租稅所得稅地方稅協議費ニ至ツテハ抵當債主ニ對シテハ先取權ナキ
 モ普通債主ニ對シテハ先取權チ有スルモノトス是政界上ヨリ出ツルモノニシテ
 法律上別ニ理由アルニアラス此點モ又日本ニ於テモ同様ナリ英國ニテハ番頭手

代僕婢ノ給料ハ五十ポンドヲ限り普通ノ債主ニ對シ先取權アルモノトセリ是等モ別ニ法律上ノ理由アルコトアラサルモ政略上ヨリ出テタルモノナルヘシ(條例第四十條)

第十三回

今回ハ相殺(Compromise)ノコトヲ講述スヘシ(條例第三十一條)此相殺ナルモノハ倒産法ニ限ラス契約法ニモアリテ英國コトハ(シヨルヤ)第二世第二年ノ法律第二十二號第一節並ニ第八年二十四號第四節ニ普通相殺ノコトヲ規定シタリ然ルニ契約法ノ相殺ト倒産法ノ相殺トハ之ヲ設ケタル法律ノ精神ヲ異ニスルヲ以テ今左ニ之ヲ畧述スヘシ

諸君ノ既ニ知ラル、如ク普通ノ相殺即チ契約法上ノ相殺ハ其目的タル訴訟ヲ滅却スルカ爲メニ外ナラス故ニ若シ相殺ニ關スル布告ナキ以上ハ對手双方ヨリ債主權ヲ主張シテ訴訟ヲ提起セサル可カラス斯ノ如クストキハ雙方ヲシテ二重ノ手數ト費用トヲ要セシムルニ至ルヘシ若シ此場合ニ於テ相互ニ相殺スルコトヲ許ストキハ一度ノ手數ト費用トニテ事足り其債主債主間ニ取リテ便益ナル

ハ勿論社會ノ公益上ヨリ見ルモ訴訟滅却ノ大ナル利益アルヘシ是レ即チ相殺ノ設ケアル所以ナリ且又一般ノ場合ニ於テハ金錢ノ貸借ハ雙方仕拂能力アルモノト一應ノ推測ヲナスモノナリ然ルニ倒産法ニ於テハ一方ノ對手ハ既ニ仕拂能力ヲ喪失シタルコトハ證明ヲ待タサルナリ而シテ其倒産中渡ヲナシタル以上ハ債主ハ倒産者ノ名ヲ負ヒ自身訴訟ヲ受ケサルモ可ナルノ位地ニ立ツヘシ之ヲ再言スレハ債主ハ倒産者ナル負債主ニ對シテ起訴スルヲ得ス而シテ一方ニ於テハ管財人ノ負債主ニ代ハルアリト雖モ管財人ハ倒産者ニ代テ第三者ヲ起訴スルノ權利アルノミニシテ倒産者ノ債主ハ此管財人ニ對シテ起訴スルノ權利ヲ有セサルナリ故ニ倒産者ノ債主ニ於テ其債權救正ノ途ハ唯自ラ倒産處分ニ加入シテ負債ヲ證明スルノ一方法アルノミニ既ニ此二個ノ點ニ於テ一般ノ相殺ト倒産法ノ相殺トニ付差異アルヲ以テ從テ又其規定ヲ同フスルヲ得ス畢竟スルニ一般ノ相殺ハ訴訟ヲ滅却スルニ在リ倒産法ノ相殺ハ訴訟ヲ滅却スルノ必要ナク唯ク倒産者及其債主間ニ公平ヲ維持スルノ趣旨ニ出ツルノミニ

其趣旨ヲ殊ニスレハ從テ其規則モ亦異ナラサルヲ得サルカ今倒産處分ノ場合ニ

於ケル相殺ニ付條例第三十八條ノ規定ヲ述フレハ即チ左ノ如シ

此條例ニ從ヒ受理命令ヲ發セラル可キ負債主ハ其受理命令ニ基キ該負債主ニ對スル負債ヲ證明シ若クハ之ヲ證明スルノ權利ヲ有スルコトヲ主張スル者トノ間ニ於テ相互ノ信用相互ノ負債若クハ其他相互ノ取引アルトキハ其取引上雙方決算ヲナシ其總額ヲ相殺シ差引高ヲ限リ之ヲ一方ニ請求シ若クハ之ヲ仕拂フヘシ但負債主倒産處分ヲ受クルニ充分ナル倒産行爲ヲ犯シタリトノ通知ヲ得クル後該負債主ニ信用ヲ與ヘタル場合ニ於テハ本條ニ規定スルノ利益ヲ請求スルノ權利ヲ有セサルヘシ

依是觀之本文ノ大体ハ普通ノ相殺ト異ナルナキモ唯タ例外ノ但書ニ至リテ差異アルモノニシテ即チ倒産行爲ノアリタル以後ニ締結シタル債權ハ到底相殺ヲ許スヘキモノニ非ス何トナレハ此種ノ債權ハ倒産處分ニ對シ證明ヲ許サル所ノ債權ナレハナリ

是レヨリ尙ホ二種ノ相殺ニ付相異ナル所ノ點二三ヲ講述スヘシ

第一 普通相殺ニ於テハ對手雙方共ニ仕拂能力アルモノト推測シ訴訟ヲ滅却ス

ルノ趣旨ニ基キタルモノナルヲ以テ請求期限ニ到達シタル債權ニ非サレハ相殺スルコトヲ許サス之ニ反シテ倒産處分ニ於テハ即チ先ニ述ヘタル如ク仕拂期限ニ到達スルヲ待ツヲ得サルカ故ニ其期限ニ到達セサル債權ト雖モ證明ヲ許スモノナルカ之ト同一ノ理由ヨリ相殺モ亦其期限ニ到達セサル債權モ之ヲ以テ相殺スルヲ得ルナリ

第二 普通相殺ハ若シ相方ノ合意ヲ以テ相殺セサルコトヲ約束セハ其約束タル極メテ強勢ナルモノニシテ何人モ之ヲ妨グルヲ得ス然レトモ倒産處分上ノ相殺ハ特ニ雙方間ニ公平ヲ維持センカ爲メニ條例ヲ以テ規定シタルモノナレハ對手ノ合意ヲ以テ左右スルコトヲ得ス

第三 普通相殺ハ債權ノ種類同一ナルヲ要ス然レトモ倒産法ノ相殺ハ種類ノ如何ヲ問ハス例令ハ單純契約ノ債權ト捺印契約ノ債權トニテモ抵當付ノ債權ト無抵當ノ債權トニテモ自由ニ相殺スルコトヲ許スモノトス

第四 普通相殺ハ債權ノ額ノ確定 (liquidated sum) マタルモノナルコトヲ要ス然レトモ倒産法上ノ相殺ハ尙モ私犯ニ基因シタル債權ニ非サル以上ハ例令ヒ不定確

ノ債權ト雖モ之カ相殺ヲ許スモノトス之ヲ要スルニ証明シ得ヘキ債權ハ總テ相殺ノ目的物トナスヲ得ルモノナルカ唯タ證明ノ場合ニ比シテ範圍ノ廣キハ抵當アリテモ尙ホ相殺ヲ許スノ點是レナリ

第五 一般ノ相殺ニ於テハ實際債主ノ何人タルヲ論セス其名義ヲ有スル者ハ相殺ノ對手人タルヲ得ヘキナリ然レトモ倒産處分上ノ相殺ハ名義ノ如何ニ拘ラス實際ノ債主ニ非レハ相殺スルヲ許サス故ニ例令ハ甲ヨリ乙ニ金千圓ヲ貸與シタルヲ以テ乙ヨリ甲ニ對スル千圓ノ借用證書ヲ差入レタリ然ルニ此出金者ハ實際甲ニ非スシテ丙ナルトキニ當リ甲ハ只タ名義上ノ債主ニ過キサルヘシ此場合ニ於テ普通相殺ナルトキハ若シ乙ヨリ曾テ甲ニ八百圓ノ價格ヲ有スル品物ヲ送りタルコトアリトセハ彼證書面ノ千圓ト品物代金ノ八百圓トヲ甲乙間ニ於テ相殺スルヲ得可シ然レトモ倒産ノ場合ニ於テハ現行法ニヨレハ甲乙間ノ相殺ヲ許サ、ルナリ是レ即チ衡平法ノ精神ニ基キタルモノナリ普通法ニ於テハ兎角方式ニノミ拘泥シテ其事實ノ如何ハ措テ問ハサルノ弊ヲ免レサルカ故ニ單ニ證書面ノ名義ニヨリテ甲乙間ノ相殺ヲ許スモ倒産法ニ於テハ方式ノ如何ニ拘ラス其實際ニ公平

ヲ維持スルヲ務ムルナリ此點ノ差異タル極メテ微妙ナルカ如シト雖モ身代限ノ處分ヲナスニ當リ是等甲乙間ノ相殺ヲ許スト否トニヨリ他ノ債主ニ利害ヲ及ホス又タ少ナラサルナリ例令ハ甲ハ身代限ヲナシタリト假定セシカ其際乙ヨリ二千圓ノ負債アリ而シテ自分ハ乙ニ對シテ千圓ノ貸金アリ又タ丙ヨリ三千圓ノ負債アリ丁ヨリモ亦タ三千圓ノ負債アリ而シテ又タ他ニ千圓ノ財産ヲ有シタリ今之ヲ簡略ナル手續ニヨリテ分配スルトキハ甲者ノ財産ハ千圓ノ財産ト乙ヘノ貸金千圓トヲ合セテ二千圓ニシテ負債ハ總計八千圓ナルヲ以テ甲乙間ノ相殺ヲ許サ、レハ八ニ對スル二ナルヲ以テ債主ハ債額四分ノ一ノ配當ヲ得即チ乙ハ五百圓丙ハ七百五十圓丁ハ七百五十圓ヲ受取ルノ割合トナルナリ然ルニ甲乙間ニ相殺ヲ許ストキハ第一ニ乙ハ其貸金二千圓ヨリ千圓ヲ差引クヲ以テ千圓ノ不足ヲ生スヘク而シテ此不足額ノ千圓ニ丙丁兩名ノ債權ヲ加フレハ七千圓トナルヘシ而シテ甲ノ有スル所ノモノハ千圓ノ財産ノミナルヲ以テ其所有財産ハ負債ニ比シテ七ニ對スル一ナルヲ以テ七分ノ一トナリテ前者ト後者ニテハ四分ノ一ト七分ノ一トノ差異ヲ生スヘシ故ニ相殺ノ規定タル極メテ簡易ナルカ如キモ毫末ノ

規定ノ差異ハ實行上至大ナル懸隔ヲ生スルモノナレハ又々注意ヲ缺クヘカラサルノ點ナリトス立法者タルモノ豈ニ慎重セサル可ン乎

第十四回

第八章

管財人(Trustee)

(條例條七十二條ヨリ第九十一條マテ第五十條ヨリ第五十七條並ニ第五十條ヨリ六

十五條ニ至ルマテ参照)

本章ニ於テハ管財人ノ撰任管財人ノ免職財産ノ發見財産ノ賣却及財産ノ分配等ニ付講述スヘシ

尙ホ諸君ニ一言スヘキハ本章ハ手續極メテ多ク理論ニ乏シキヲ以テ諸君ノ厭倦ヲ來スヘキヤ必セリ然レトモ今ヤ我日本ニ於テモ商法ノ發布將サニ近キニアラントス灰カニ聞ク同法中ニハ管財人ノ制アルコトヲ余ハ天ノ未タ雨ヲ降サ、ルニ當リ綱繆スルノ費事ニ非サルヲ信シ茲ニ管財人ニ關スル英國法律ノ規定ヲ講述シ他日諸君ノ我商法ヲ研究サル、資料クラシメント欲ス

事少シク沿革ニ涉ルカ英國ノ倒産法ニテモ亦古代ニ在テハ管財人ナルモノナク加之ナラス又々倒産裁判所ナル名稱モアラサリシナリ故ニ此處分ヲナスニ當リ

四

三三

テハ一種ノ委員(Committees)ヲ撰ヒ大法官ハ之ヲ監督シテ此處分ヲナシ來リシヲ以テ今日管財人ノナスヘキ事柄即チ財産ノ發見賣却分配ノ如キハ悉ク此委員ノ職務ヨリシカ其後此仕組ヲ廢シ債主ヲシテ引受人(Assignee)ヲ撰ハシメ而シテ其事柄ヲ處理セシムルコト、ナシタリ然ルニ既ニ沿革ノトキニ述ヘタルカ如ク倒産裁判所ヲ設クルニ至テ其裁判所ニ於テ官撰引受人(Official assignee)ヲ任命スルニ至リタリ而シテ該官撰ノ引受人ハ重モニ之ヲ商業社會ノ人ヨリ撰ヒタリシ然ルニ其後又債主ヲシテ之ヲ撰ハシムルヲ可トシ千八百六十九年ノ條例ニヨリ再ヒ債主ニ撰任ノ權ヲ與ヘタリ而シテ此千八百六十九年ノ條例ヨリ之ヲ管財人(Trustee)ト稱シ遂ニ因襲シテ今日尙ホ其名稱ヲ用フルコト、ナレリ

サテ現行條例ニ於テ如何ナル時ニ管財人ヲ撰フヤト云フニ(第一)債主カ其集會ニ於テ負債者ニ向テ倒産申渡ノ請願ヲナスヘシト議決シタルトキ(第二)負債主自身ニ倒産申渡ヲ受ケタルトキ(第三)裁判所ハ其職權ヲ以テ倒産申渡ヲナシタルトキノ三場合ナリトス即チ此三場合ニ於テハ債主カ通常議決ニヨリテ管財人ヲ撰フヲ得ルナリ結局此三場合ヲ概括シテ云フトキハ即チ愈々倒産申渡ヲナストキニ

ハ管財人ノ必要ヲ生スヘキナリ何トナレハ倒産者ノ財産ヲ保管スルハ受理官ノ任ナリト雖モ之ヲ賣却分配スルニ至リテハ管財人ヲ待クサル可ラサルヲ以テナリ

是ヲ以テ之ヲ見レハ管財人ノ職務ハ倒産者ノ財産ヲ保護スルヨリハ寧ロ財産ヲ賣却分配スルハ主タル職權ナリト云ハサル可ラス然リ而シテ管財人ハ通例債主中ヨリ撰ハル、ト雖モ如何ナル種類ノ人ヨリ之ヲ撰フモ可ナルモノニシテ敢テ債主ニ限ルモノニ非ス

此撰ハレタル管財人ハ金錢ノ取扱ヲナスモノナルヲ以テ保證金ヲ差入ル、ヲ要ス故ニ若シ管財人ニ撰ハレタル者ニシテ之ヲ辭スルカ又ハ保證金ヲ差入ル、ルヲ怠ルカ或ハ商務局ヨリ其撰任ニ對シテ故障ヲナシタルトキハ債主ハ又他人ヲ撰フコトヲ得可シ又管財人ノ數ハ決シテ一人ニ限ルモノニ非ス其數ニ至ツテハ制限スルコトナシ

商務局ハ一方ニ於テハ倒産處分ヲ監督スル權アルカ故ニ債主ハ管財人ヲ撰ヒタルトキハ之ヲ商務局ニ通知スルヲ要ス商務局ハ其通知ヲ得テ適當ト認ムルトキ

ハ之ヲ承認シ若シ不適當ト認ムルトキハ故障ヲナスコトヲ得ルナリ而シテ債主ハ其故障ニ對シテ不服ナルトキハ上等裁判所ニ上訴スルヲ得

債主カ管財人ヲ撰フノ期限ハ倒産申渡ノ日ヨリ四周間以内ナルヲ要ス若シ此期限内ニ之ヲ撰ハサルトキハ商務局ニ於テ之ヲ撰フコトヲ得可シ債主ニ於テ此撰任ヲ不當トスルトキハ故障ヲナスコトヲ得ルモノニシテ故障ヲナスハ前ト同シク上等裁判所ニ出訴スルモノトス

以上述ヘタル所ノモノハ是管財人ノ撰任ニ關スル大体ナリトス既ニ管財人ノ撰任セラレタル以上ハ其時ヨリ管財人ハ當然是マテ受理官ノ管理シ來リタル所ノ位地ニ代ルモノニシテ若シ又其位地ヲ去リタルトキハ其レト同時ニ財産權ハ離ル、モノトス

管財人ノ撰任ニシテ不正ノ所爲ニ依リ成リ若クハ其撰任ニシテ債主ノ利害ニ反スルトキ即チ例令ハ管財人ノ撰任ハ詐欺ニ出テタルトキ若クハ其管財人カ債主全体ニ對シ反對ノ利益ヲ有スルトキ之ヲ再言セハ債主ニ不利益ヲ與フルノ恐アルトキ若クハ負債者カ管財人ノ撰任ニ盡力シタルコトヲ認ムルトキハ債主ハ

通常議決ニ依テ之ヲ變更スルコトヲ得或ハ債主ニ於テ之ヲナサ、ルトキハ商務局ハ之ヲ免職スルヲ得此免職シタル際ニ新ナル管財人ヲ撰任スル方法ハ最初ノ撰任ト畧々同一ナルモ唯異ナルハ最初ノ場合ニ於テハ倒産申渡ヨリ四周間以内ニ債主ハ管財人ヲ撰任セサルトキハ商務局ニ於テ之ヲ撰任スルノ權アルモノナルカ再度ノ撰任ノ場合ニ於テハ三週間ヲ經タルトキハ商務局ハ之ニ干渉シテ撰任スルヲ得ルナリ

第十五回

前回ニ於テ管財人任免ノ大体ヲ述ヘタルヲ以テ今回ハ其權限ヲ述ヘントス之ヲ述フルニ先ツテ日本現行法ノ規定ヲ一言センニ會テ述タル如ク日本ニテハ身代限ノ命令ヲ裁判所ヨリ發シタルトキハ其レヨリ裁判所ハ一方ニ於テハ其事件ノ廣告ヲナシ一方ニ於テハ直接ニ戶長役場ニ照會シテ財産ノ保管及其調査ヲ爲サシムルモノトス而シテ其財産調査ヲ戶長役場ヨリ裁判所ニ送附シ來リタルトキハ此調査ニヨリテ差押フ可キ財産即チ配當ス可キ財産ト差押フ可ラサル財産トハ區別シ此差押フ可キ財産ヲ稱シテ抵償品ト云ヒ差押フ可ラサル財産ヲ不抵償品

ト云フナリ

サテ今ヨリ述ヘント欲スル所ハ負債者ノ所有スル財産ノ發見ト占有トノ二ナルカ身代限ヲナスモ債主ノ財産カ余盟ノ如ク一個ノ家一園ノ地ヲ有スルニ過キサルモノナルトキハ其處分タル甚簡略ナル可シト雖モ若シ負債主カ商人若クハ會社ナルトキハ此ノ如ク單簡ナルモノニ非スシテ數箇ノ支店又ハ數十筆ノ土地ヲ有ス可ク從テ財産モ亦甚々多カル可シ故ニ此財産ノ賣却ニ着手スル前ニ之ヲ發見セサル可ラス之ヲ倒産法ニ於テハ財産ノ發見トハ云フナリ此財産ヲ發見シ占有保管スルコトハ日本ニテハ總テ債主ニ一任セリ是ヲ以テ債主ヨリ申立テタルトキハ之ヲ戶長役場ニ通知シテ其財産ノ差押ヲ命シ又幸ニ戶長役場ニ於テ財産ヲ取調フルトキニ發見セハ之モ亦共ニ差押フルモノトス然ルニ債主ハ此財産ノ發見ニ付テハ第一ニ利害ヲ有スルカ故ニ充分力ヲ盡シテ之ヲ取調フ可キモ債主ノ多數ナル場合ノ如キニ至テハ互ニ他人ニ讓リテ自ラ進ンテ其勞ニ當ルモノトシテ可キヲ以テ之ヲ取調ヘサルノ恐アリ又一方ノ戶長役場ニ於テハ戶長ハ僅少ノ給料ヲ得テ行政事務ヲ取扱フノ傍ラ此取調ヲナスモノニシテ其取調ヲル、

人ハ其管轄内ノ人民ナリ而シテ又此取調ニ付テハ一金ノ手数料又ハ報酬アルナシ之ヲ以テ果シテ負債主ノ財産ヲ充分發見シ得可キヤ否ヤハ極メテ注意ヲ要スルモノナル可シ之ヲ下ニ述フル英國現行法ニ對照比較セハ其得失如何ハ思半ハニ過シルアラシカ

英國ニ於テハ倒産申渡アリタルトキハ其財産ヲ占有スルト否トニ關セズ財産權ハ總テ負債主ノ手ヲ離レテ管財人ニ歸スルモノナルヲ以テ管財人ハ財産ハ勿論商業上ノ取引ニ關スル帳簿等ハ職務上皆之ヲ差押ヘサルヘカラス若シ其財産帳簿等他人ノ手ニアルトキハ裁判所ノ命令ヲ得テ之ヲ取立ルヲ得又負債主ノ家族或ハ番頭手代等ニ於テ其取引ヲ知り財産ヲ占有スルモノアルトキハ裁判所ノ命令ヲ請フテ之ヲ呼出シ吟味スルコトヲ得而シテ此ノ管財人ナル者ハ之ニ對スル報酬ヲ得ルノ一私人ニシテ通常此事ニ熟達スルモノヲ撰任スルナリ此ノ如ク其事ニ熟達シ且其事ニ付キ報酬ヲ得ル管財人ヲ以テ自己ニ利害ヲ有セサル戸長ニ比セハ何レノ規定ヲ以テ勝レリトス可キヤハ余ノ説述ヲ須タサル可シ況ンヤ報酬ノ如キニ至ツテハ後ニ詳述ス可キモ此發見シタル財産ニ比例シテ得ルノ規定

六

アルニ於テオヤ

次ニ述フ可キハ負債者ノ營業ヲ繼續スルコト是ナリ日本ニ於テハ此規定ナキヲ以テ身代限處分ヲ受ケレハ直チニ閉店シテ一切商買ヲ爲スヲ得ス然ルニ英國法ニ於テハ其店ヲ閉テ營業ヲ停止スルト之ヲ繼續スルトハ管財人ノ意見内ニアリテ後章ニ述フル監督委員ノ承諾ヲ經ハ商業ヲ繼續シ得ルモノナリトス然ラハ如何ナル場合ニ於テ營業ヲ繼續スルヲ得ルカト云フニ勿論債主ニ利益アル場合ニシテ則チ配當金ヲ増加ス可キ目途アルトキ是ナリ又獨リ營業ヲ繼續スルヲ得ルノミナラス倒産者自身ヲ營業監督者トナスヲ得ル者トス其理由ハ倒産者ハ從來營業ヲナシタルモノナレハ其事ニ習熟シアルヲ以テ尤モ多ク利益アル可キヲ以テナリ(條例第五十七條第一項及第六十四條)

次ニハ訴訟ノ事ヲ述ヘンニ負債者一旦倒産處分ヲ受ケタル以上ハ自身訴訟ヲナスヲ得サルナリ勿論私犯上ノ訴權ハ特別ナリト雖モ通常ノ民事訴訟ニ於テハ何レ之ニ代ル者ヲ要スルカ故ニ此訴訟タル財産ニ關係スル事ニ外ナラサルヲ以テ財産ヲ占有シ賣却スルノ職務ヲ有スル管財人ヲシテナサシムルヲ尤モ至當ナリ

トスサレハ訴訟法ニ於テハ財産ニ屬スル訴訟ハ總テ管財人ニ屬スルモノト云フ
 事得可シ然レトモ只倒産者ノ負債主ト和解スル場合ノミハ其間姦策ノ行ハレ易
 キヲ以テ監督委員ノ承諾ヲ要ス何トナレハ訴訟ト和解トハ性質ヲ異ニスレハナ
 リ(第五十七條第二項及第八十三條)
 是ヨリ述フ可キハ財産賣却ノコト是ナリ是則チ前回述ヘタル如ク受理官ト管財
 人トノ職務ノ差違ニ付尤モ着目ス可キ點ナリトス日本ニテハ財産ノ賣却ハ一般
 ニ戸長役場ノ公賣ニ付スルモノニシテ稀レニハ裁判所ニテ公賣スルコトアルナ
 リ然レトモ果シテ裁判所ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ明文ナキ所
 ナリ其レハ暫ク措キ日本ノ賣却方ハ公賣ナレトモ英國ニテハ公賣ヲ以テ通常ノ
 事例トスルモ私賣亦許ストコロニシテ又現金賣ノミナラス信用賣モ又之ヲ許ス
 ナリ然シ信用賣ヲナストキハ監督委員ノ承認ヲ經ルヲ要スルナリ
 次ニハ分配ノコトヲ述フ可シ財産ノ分配ニ付テハ二種ノ手續アリテ則チ一度ニ
 配當スルト數度ニ配當スルコト是ナリ日本ニテハ一度ノ配當法ヲ採リ英國ニテ
 ハ數度ノ配當法ヲ採ルナリ

英國法ニヨレハ倒産申渡アリタル後ハ四ヶ月間ニ第一ノ配當ヲ爲スヲ要シ其後
 ハ各六ヶ月毎ニ之ヲ爲スヲ要ス之ニ反シ日本ニテハ財産ヲ賣リ盡シテ全金ヲ纏
 メ一度ニ之ヲ配當セサル可カラサルナリ其割當法ニ至ツテハ債權ノ價格ヲ標準
 トスルハ各國皆ナ同一ナル所ナリ此一度ニ配當スルト數度ニ配當スルトノ利害
 ハ極メテ判然タル所ニシテ數度ニスルノ勝レルハ又説明ヲ待タサルナリ何トナ
 レハ若シ一度ニスルモノトセハ最終ニ賣却スル財産ノ爲メニ最初ニ賣却シタル
 代金ハ數多ノ歲月間徒爾ニ保存セサル可カラス現ニ日本ノ規定ノ如キハ甚ダ不
 完全ナルヲ以テ一厘ノ利足ヲ生セシテ一年若シハ數年間悉皆ノ財産ヲ賣リ盡
 スマテハ金員ヲ使用セシテ徒ニ存シ居ラサル可カラス是レ實ニ拙策ノ極ニシ
 テ假令之ニ利息ヲ付スルモノトスルモ尋常一般ノ預金ナルヲ以テ極メテ安キ利
 息ノ外ハ之ヲ得ルコト能ハサルナリ然ルニ今集金次第之ヲ配當スル者トセハ債
 主ハ各自其好ム所ニ之ヲ利用スルヲ得ヘシ
 斯ノ如ク管財人ハ殆ト自己ノ財産ト均シク負債主ノ財産ヲ處分スルヲ得ルモノナ
 ルヲ以テ隨テ其間惡事ヲナシ易キカ故ニ其弊害ヲ豫防スルノ道ヲ設ケタリ則チ

一ハ其處分ヨリシテ自己ノ利益ヲ計ルコトヲ許サス之レヨリシテ自分ハ倒産者ノ財産ノ買主タルヲ得ス若シ之ヲ買ヒタルトキハ再ヒ他ニ賣却セシムルコトヲ得然シテ其之ヲ他ニ賣却シテ管財人ノ買取リタルヨリ高價ニ賣レタルトキハ之ヲ賣却シ若シ低價ナルトキハ己レガ先ニ買ヒタル價ヲ以テ之ヲ買取ラサル可カラズシテ且之等ノ費用ハ總テ管財人ヨリ支辨ス可キモノトス他ノ一ノ制限ハ監督委員ヲ置キテ管財人ヲ監督セシムルコト是ナリ又加之ナラス商務局モ之ヲ監督スルノ權アリ總テノ處分ニ付不都合アルトキハ監督委員並ニ商務局ハ之ヲ管財人ニ質問スルノ權アリ管財人ハ之ニ答フルノ義務アリテ訊問上愈々不都合ト認ムルトキハ之ヲ罷免スルヲ得ルナリ今一ツハ管財人カ一旦承諾シテ其職ニ任シタル以上ハ自由ニ其職ヲ解クヲ得スシテ必ス債主集會ノ承諾ヲ得ルヲ要スルナリ此承諾ヲ必要トセシ所以ノモノハ若シ自由ニ辭職スルコトヲ許セハ自己ガ其間ニ不正ノコトヲナシテ金員ヲ得又ハ其勞ニ堪ヘサルニ至テハ濫リニ其職ヲ去ルノ恐アルヲ以テナリ

第十六回

前回ニ於テ管財人ノ任免權限等ノコトヲ講了シタルヲ以テ今回ハ管財人カ其職務ヲ尽シタル後ニ於テ其義務ヲ免ル、所ノ方法ヲ説カント欲ス

管財人ニシテ財産ヲ賣却シ之ヲ債主間ニ分配シ終リタルトキハ其義務ノ解除ヲ請求スルコトヲ得然レトモ債主中ノ數名カ失踪若クハ外國ニ遁逃シタルカ或ハ財産ノ性質上其當時賣却スルノ不利益ナル等ノ故障アルトキハ其財産ヲ賣却シ尽シテ金員ヲ悉ク分配シ終ルマテ職務ヲ繼續スルニ於テハ徒ニ時日ヲ要スルノミナラス之ニ對スル所ノ報酬ヲ與ヘサル可ラサルヲ以テ勢豫定外ノ費用ヲ要ス可キカ故如斯事情アルトキハ其財産ノ大部ヲ賣却分配シ終リタルトキハ一部ノ殘リアルニモ拘ハラズ義務ノ解除ヲ請願スルコトヲ得可シ又債主ヨリ管財人ヲ免除シタルトキ管財人カ辭職シタルトキ及倒産中渡後ニ於テ債主債主間ニ和解ヲナシタルトキ等ノ如ク管財人ノ必要消滅シタルトキモ亦管財人ハ其解除ヲ請求スルコトヲ得可シ

茲ニ一言ス可キハ解除ト辭職若シクハ免職トノ區別ナリ辭職若シクハ免職トハ文字夫レ自身カ示ス如ク職務ヲ去ルノ謂ニシテ管財人カ從來ナシ來リタル事柄

ニ付キ權利義務ノ責任ニ關係ヲ有セサルコト是ナリ反之解除トハ英語ノ(Release)ヲ譯シタルモノニシテ其權利義務ノ責任ニ關係ヲ有シ居ルコトナリ之ヲ再言セハ管財人タル資格ヲ以テナシタル事柄ニ付キ生シタル義務ヲ消滅スルコトナリトス故ニ解除アレハ必ラス辭職若シクハ免職アルモ必スシモ解除アルモノニ非テス

借此解除ノ請求ハ何人ニ向テナスモノナルヤト云フニ管財人ヨリ商務局ニ請求スルモノニシテ商務局ニ於テ其請求ヲ正常ト認ムルトキハ保證狀ヲ與フルモノトス而シテ此保證狀ヲ與フルマテノ手續ハ其請求ヲナスト同時ニ在職間ノ決算ノ報告ヲナサシメ其事實ヲ債主ニ通知シタル上ニテ初メテ取捨ノ權ヲ實行スルナリ而シテ此保證ヲ與フルト否トハ一ニ商務局ノ權内ニアルモノナリ而シテ其判定ニ對シテハ上訴スルコトヲ得

管財人財産分配ヲ終ルモ尙ホ殘ル所ノ財産ハ受理官之ヲ保管シ請求スル債主ノアルヲ待テ商務局ヨリ支辨スルモノトス

終リニ管財人ハ報酬并ニ實際正當ニ消耗シタル費用ヲ得ルノ權アルモノニシテ

此報酬ナルモノハ債主集會ニ於テ管財人ヲ撰フト同時ニ之ヲ定ムルモノナリトス若シ債主集會ニ於テ之ヲ定メサルトキハ商務局ニ於テ之ヲ定ムルモノトス其金額ヲ定ムルノ方法ハ特ニ規定スル所ナシト雖モ一般ニ取扱ヒタル財産ノ價格ニ比例シテ之ヲ定ムルモノトス是レ管財人ヲ獎勵シテ可成的多額ノ財産ヲ集メシムルノ一手段ナリ又管財人ハ自己ノ職務ノ爲メ正當ニ仕拂タル實費ハ勿論之ヲ受取ルノ權アルモノナリトス

第九章 商務局債主集會及管督委員會

英國倒産法ノ歐洲大陸ノ倒産法ト相異ナル所ハ誠ニ夥多ナル所以ノモノハ其發達ノ相異ナルニ依ル而シテ現行ノ英國倒産條例ヲ以テ之ヲ從來ノ倒産條例ニ比較スルトキハ亦稍相異ナル所ノモノアリ今其緊要ナルモノヲ擧クレハ(第一)受理命令ヲ設ケタルコト(第二)商務局ヲシテ倒産處分ヲ監督セシムルコト(第三)小倒産ノ制ヲ設ケタルコト是ナリ

是三個ノ規定ハ從來未曾有ナル制度ナリトス何故ニ商務局ヲシテ之ヲ監督セメシメタルヤト云フニ倒産處分法ノ支配ヲ受クル所ノ倒産者ノ多數ハ商人ナリ而

シテ此商人中ニ最モ法律ノ注意シテ干渉セサル可ラサルハ大ナル財産ヲ投シテ
 手廣ク商業ヲナシタルモノ、倒産處分ナリトス今日ニ至テハ最早斯ル取引ハ一
 種ノ専門ノ事柄トナルノ姿トナレリ固ト此事タル商業ニ全ク從事セサルモノ、
 知了シ得ルコトニアラス況ンヤ裁判官ノ如キ法律ノ解釋適用ノミニ從事スル人
 ニシテ此倒産處分ヲナシタリトセハ到底其欲漏アルヲ免レサルナリ故ニ倒産ノ
 處分ニ關シテハ其管督處分ヲ商務局ニ委任セサル可ラストノ理由ニ出テタルニ
 外ナラサルナリ

英國商務局ノ職務ハ我邦ノ農商務省ノ一部ト遞信省トヲ合併シタルモノナリ其
 職掌ハ鐵道、電信、船舶、專賣特許、商標、海上ノ測量、度量衡、倒産事務監督及其他商業ニ
 關スル事務ヲ取扱ナリ

而シテ此商務局カ監督權ヲ行フニ付第一受理官ヲ任命スルノ職ヲ帶ルモノニシ
 テ(第二債主ノ撰任セシ管財人ノ處置ヲ管督スルノ特權アルナリ此受理官ヲ撰任
 スルノ目的タル一ハ倒産者ノ財産ヲ保管セシムルトニハ倒産者ノ行爲ニ付報告
 ナササシムルトノ二者ニアリトス受理官ハ商務局ノ命ヲ受ケ此二ノ目的ヲ實行

スルモノニシテ財産ノ保管ハ債權ノ救正ニ必要ニシテ倒産者ノ行爲ニ付報告ヲ
 與フルコトハ債主ニ義務ノ免除ヲ與フルニ付必要ナルモノナリトス
 以上受理官ノ職掌ヲ講セシテ以テ是ヨリ管理人ノ處分ヲ監督スル監督委員會コンソリデーション・オブ・インスペクツトノ
 コトニ付一言ス可シ

管財人ヲ監督スルハ監督委員會モ亦然リ監督委員會ハ債主ノ代表者ニシテ債主
 カ管財人ヲ撰ヒ之ヲ監督セシムルハ數多ノ債主アル場合ニ於テハ悉ク之ニ與カ
 ル能ハサルヲ以テ代表者ヲ撰ヒ其監督ヲナサシムルニアリ而シテ其人員ニ付テ
 ハ別ニ規定ナキモ一般ニ三人ヨリ少カラス五人ヨリ多カラサルモノトス而シテ
 之ヲ撰出スルモノハ債主集會ナリ

債主集會ハ之ヲ二種ニ分ツ一ハ債主ノ第一集會ニシテ二ハ臨時集會ナリトス右
 第一集會ハ尤モ必要ナルモノニシテ即チ債主ト負債主ト和解ヲナスヤ否ノ重大
 ナル問題ヲ決スルニ在リ此議決ハ特別議決ニ據ラサル可ラスシテ是他ノ臨時集
 會ト大ニ其性質ヲ殊ニスル所以ナリ

臨時集會ハ何時之ヲ開クモノナルカト云フニ管財人カ必要ト認メ裁判所ヨリ債

主ヲ招集スルコトヲ命令シタルトキ及債權ノ價格四分ノ一以上ノ債主カ之ヲ請
求シタルトキ之ヲ開クモノトス此集會ノ目的ハ債主ヲシテ其意見ヲ吐露セシ
ムルノ一ノ機關ト爲スニ在リ又其議決ニ付テハ投票ヲ用ヰルモノニシテ其投票
權ヲ得ント欲スルモノハ其權利ヲ執行スル前ニ債主集會ニ向テ自己ノ債權ヲ證
明セサル可ラス而シテ其集會ニ於テ拒絕セラレタル者ハ其員數ニ加ハ、ルコト
ヲ得ス而シテ一旦集會ニ於テ拒絕サレタル者ト雖モ後日證據充分シタルトキハ
再ヒ之ヲ證明シテ其數ニ入ルコトヲ得ルナリ其議決ノ方法ニ二種アリ特別議決
及通常議決是ナリ特別議決トハ既ニ前回ニ於テ述タル所ノモノト同一ニシテ通
常議決トハ多數決ヲ附フモノナリトス

第十七回

第十章 倒産者ノ權利義務

本章ニ於テ講セント欲スル所ノモノハ倒産者ノ權利義務、刑事上ノ責任及免除ノ
概畧是ナリ倒産處分ノ場合ニ於テハ倒産者ノ財産ハ總テ管財人ニ移轉シ悉ク債
主間ニ分配セラル、モノナリト雖モ爰ニ一ノ例外アリテ倒産者ト雖モ或種類ノ

財産ニ至テハ之ヲ受取ルノ權利アリ又或種類ノ訴權ハ依然之ヲ所有スルコトヲ
得可キモノトス即チ倒産者本人及其妻子ノ爲メニ必要ナル衣服寢具食料並ニ商
業上ニ用フル器具ニシテ其價二十磅以内ノモノハ之ヲ受取ルコトヲ得又倒産處
分ニ依テ負債ヲ償却シ了リタル殘餘ノ金員ハ勿論倒産者ニ拂渡ス可キモノトス
又受理命令後倒産者カ自己ノ勞働ニ依テ得タル所ノ賃銀及私犯上ノ身体ニ對ス
ル訴權ヲモ之ヲ有スルモノトス私犯上ノ訴權ニハ財産ノ侵害ニ關スル訴權ト身
體ノ侵害ニ關スル訴權トノ二アリ此財産ノ侵害ニ關スル訴權ハ其他諸般ノ取引
ニ關スル訴權ト共ニ管財人ニ移轉スルモノナリト雖モ身體ノ侵害ニ關スル訴權
ハ決シテ管財人ニ移轉セサルナリ而シテ此勞働ニ依テ得タル賃銀ヲ倒産者ニ與
フルノ理由ハ法理ニ基キタルモノニ非スシテ倒産者ヲシテ失望落膽セシメス益
々勤勉勞働セシムルノ政略ニ出ツルナリ然ラハ商業上ノ働ニ依テ得タル所ノ利
益ハ同シシ勞働ニ依テ得タルモノナルニ何故ニ倒産者ニ與ヘサルヤト云フニ若
シ此利得ヲ以テ負債ノ償却ニ充テサルトキハ到底負債償却ノ途ナカル可キヲ以
テナリ又衣食ヲ給與スルハ其一時ノ饑餓凍餒ヲ免レシムルノ目的ニ出ツルモノ

ニシテ商業上ニ用ル器具ヲ與フルハ生計ヲ繼續セシムルノ意ニ外ナラサルナリ
 我日本ニテモ明治五年六月第百八十六號布告ヲ以テ華士族平民身代限規則ヲ發
 布シテ是ト同一ノコトヲ規定シタリ諸君ハ須ク參照ス可シ
 之ニ反シ倒産者ニ於テ負擔セサル可ラサル所ノ義務ハ即未ク倒産者トナラサル
 間即チ負債主タルトキハ裁判所ノ召喚ニ應シ取調ヲ受ケ或ハ債主集會ヨリ請求
 アルトキハ其請求ニ應シテ己レノ知得シタル事柄ヲ報告スルコト是ナリ之レ即
 チ財産ノ發見ヲ助グルモノニシテ從テ倒産處分ヲ抄ラシムルノ利益アル所ナリ
 若シ負債主ニシテ裁判所債主集會又ハ管財人ノ請求ニ應セサルトキハ之ヲ法廷
 侮辱ノ罪ニ問フモノトス
 次ニ日本ニ於テハ倒産處分ノ命令ヲ受ケタルトキハ種々ノ權利ヲ剝奪セラル、
 モノニシテ府縣會議員、教員、官吏等其他名譽アル位地ニ立ツコトヲ得サルモノト
 スルカ此規定ハ英國法ニモ亦アル所ニシテ既ニ前回ニモ講セシ如ク上院若シハ
 下院ノ議員トナルコト能ハス又自治体ノ被撰人トナルノ能力ナキナリ然レトモ
 英國ニ於テハ總テノ官吏トナルコトヲ禁スルノ制限ハ條例ノ明文ニ於テ之ヲ見

ルコトナシ英國ニ於テハ若シ官吏ニシテ倒産中渡ヲ受ケタルトキ其月給ノ一部
 チ負債ノ償却ニ充ツルニ付テハ其官吏ノ所屬長官ニ相談ヲ送ケサル可ラズ其理
 由ハ負債ノ支拂償却ニ充テタル殘額ノ給料ヲ以テ其者カ職務ヲ充分盡クスコト
 チ得可キヤ否ヤヲ知ルニアリ歐洲大陸各國ニ於テハ右ノ外商業上ノ名譽職又ハ
 他人ノ信任ヲ受ケ取引ヲナスヘキ位地ニ立ツコトヲ禁セリ之ヲ例フレハ會社ノ
 頭取又ハ理事トナルコト能ハサルカ如キ是ナリ

上來說述シタルカ如ク倒産者ハ其申渡ヲ受クルヤ否ヤ直チニ權利ヲ剝奪セラル
 ハモノナレトモ終始剝奪セラル、モノニ非スシテ又回復シ得ルノ機會アルモノ
 ナレハ敢テ倒産者ノ希望心ヲ絶テ自暴自棄ニ陥ラシムルモノニ非サルナリ而シ
 テ其倒産者ノ剝奪セラレタル權利ヲ回復シ得ル場合ハ即チ左ノ如シ
 一、倒産中渡ノ取消アリタル場合
 二、倒産中渡ヲ受ケタルハ全ク自己ノ過失ニ原因スルモノニ非スシテ一時ノ不
 幸ニ原因シタリトノ證據明白ニシテ免除ヲ受ケタル場合
 元來倒産者ヨリ種々ノ權利ヲ剝奪スルハ一方ハ一ノ制裁ノ爲メニ設ケタルモノ

ニシテ一方ハ他人ヨリ金員ヲ借受ケテ返済セラル如キ不道德者ヲシテ教員若クハ議員ノ如キ國家ノ基本タル名譽ノ位地ニ立タシムルハ不當ナリトノ點ヨリ來リタルモノナルヲ以テ若シ其負債カ自己ノ惡行ニ基因スルニ非スシテ全ク過失ノ爲メニ生シタルモノナルトキハ其本人ニ對シテハ一モ責ム可キ點ナキヲ以テ當然復權セシメサル可ラサルナリ

此點ニ付テ日本ノ身代限法ニ一ノ疑問アリ明治七八年頃ト疊ニ我政府ハ金穀貸借請入證人辨償規則ナルモノヲ發シテ負債支拂ノ義務ハ子々孫々ニマテ及フモノナリ故ニ其子孫タルモノニシテ父祖ノ家名ヲ相續スルトキハ其先代ノ借金ヲモ相續セサル可ラス是ヲ以テ子孫ノ代ニ至テ其借金ヲ支拂ハサルトキハ彼ノ父祖カ存ハレタル權利ハ其子孫ニテモ尙之ヲ存ハル可キモノナルヤ否ヤノコト是ナリ余ハ此場合ニ於テ子孫ノ權利ヲ剝奪スルノ理由如何ヲ發見スルコトヲ得サルナリ然レトモ一方ニ於テ府縣會規則等ヨリ見ルトキハ身代限處分ヲ受ケテ未タ辨償ノ義務ヲ了ヘサルモノハ被撰人又ハ撰舉人タルヲ得サルモノトセリ今此子孫タルモノハ如何ト云フニ自分ハ曾テ身代限ノ處分ヲ受ケスト雖モ父祖ヨリ

傳來シタル負債ハ未タ返済セサルヲ以テ從テ權利ヲ回復シタルモノト云フヲ得サルカ如シ實ニ咄々怪事ト云ハサル可ラサルナリ

次ニ免除命令(Order of discharge)ノコトヲ講ス可シ是レ條例第二十八條ヨリ三十八條ニ至ルマテニ規定スル所ナリ

此免除命令ナルモノハ何ノ國ト雖モ未タ曾テ見サル所ニシテ唯英國法ニ於テノミ設定シタル所ナリ勿論倒産條例ノ有無ニ拘ラス負債主カ負債ノ支拂ヲ終リタル以上ハ其義務ヲ免除スルハ當然ノコトナリト雖モ負債ヲ支拂ヒ終ラサル前ニ於テ義務ヲ免除スルハ變則ナリト云ハサル可ラス英國法ノ所謂免除命令ナルモノハ負債ヲ悉ク辨償シ終ラサルトキニ與フルモノニシテ此沿革ヲ吟味スルトキハ昔時ハ債主ノ承諾ヲ經クル後ニ非レハ免除命令ヲ與フルヲ得サリシナリ然ルニ此事ニ付テハ富豪ナル債主ハ容易ニ承諾ス可キモ貧窶ナル債主ハ幾歲ヲ經ルモ決シテ免除ノ承諾ヲササ、ルカ如キ不公平ヲ生ス可キヲ以テ現行法ニ於テ其承諾ヲ要セサルコト、セリ

倒産法ハ全ク民事上ノ救正ヲ規定シタルモノニシテ英國倒産法中ニハ刑事上ノ

制裁ヲ規定セス之ニ反シ歐洲各國ノ倒産法ニ於テハ其中ニ刑事上ノ規定ヲモ掲
 シルモノ多シ英國ニハ負債主條例ナルモノアリテ負債主ノ刑事上ノ制裁ヲ規定
 セリ此條例ヨリ見ルモ已ノ惡意又ハ過失ヨリシテ身代限ノ處分ヲ受ケタル者ト
 又是等ノコトナクシテ身代限ノ處分ヲ受ケタル者トノ區別ヲナスシテ單ニ債
 主ノ意思ノミニ依テ同等ノ免除ヲ得セシムルハ不公平ナルノミナラス又惡意ア
 リタルモノニ對シテ免除ヲ與フルカ如キニ至テハ全ク倒産處分ヲシテ制裁ノ効
 力ヲ失フニ至ラシム可キヲ以テ遂ニ今日ニ至テハ裁判所ニ全權ヲ委任シ倒産者
 ナシテ之ニ向テ出願セシムルコト、ナリザリ

倒産者カ其處分ヲ受ケタル後ハ何時ニテモ此命令ヲ請求スルコトヲ得此時ニ當
 テハ裁判所ハ負債主ノ倒産處分ヲ受ケタル理由及行爲ヲ審案シテ後全ク過失又
 ハ惡意ニ出テスシテ身代限ノ處分ヲ受ケタルモノナルトキハ此命令ヲ與フルモ
 ノトス而シテ此命令タル其義務ノ全部ヲ免除スルト又ハ其一部ヲ免除スルトハ
 裁判所ノ權内ニアルモノトス

負債主ノ過失アル場合例令ハ金員ヲ返済スルノ能力ナキコトヲ知リツ、金員ヲ

借受ケ又ハ營業ヲ繼續スルノ能力ナキコトヲ知リツ、營業ヲ繼續シタルトキ或
 ハ身代限處分中其處分ヲ妨ケントシタルトキ又ハ法律ニ規定スル帳簿ヲ負債主
 カ備置カサルトキ或ハ放蕩淫逸ノ爲メ負債ヲ起シタルトキ等ハ皆ナ過失ニ出テ
 シルモノナリト雖モ此場合ニ於テハ單純ナル免除命令ヲ與フルカ又ハ全ク與ヘ
 サルカ又ハ制限ヲ附シタル免除命令ヲ與フルモノナリトス

又財産上ノ關係ニ因テ輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ全ク免除命令ヲ與ヘ
 サルモノトス

此制限附ノ命令トハ其金額或ハ期限ニ制限ヲ付スル場合ヲ云フモノニシテ(條例
 第三十條)例ハ負債ノ半額ヲ支拂ヒ終リタルトキ又ハ其七分ヲ支拂ヒタルトキ
 免除スヘシト云フカ如シ

以上述ヘタル處ノモノハ財産上ノ義務ヲ免除スルモノナルカ此命令ヲ與フルモ
 尙消滅セサルモノアリ則チ國王ニ對スル負債又ハ収税ノ目的ヲ以テ徴収スル負
 債又ハ罰金料料等はナリ

此等ノモノヲ免除セサル理由ハ政府ノ徴収額ヲ減少スルノ恐レアルカ爲メナリ

免除命令ヲ設クルノ可否ハ倒産法上ノ一大問題ニシテ政府カ裁判所ニ此私權ノ一部ヲ奪フノ權則チ債主ノ財產權ノ一部ヲ消滅セシムルノ權ヲ與フルノ權アリヤ否ヤト云フニ法理上ヨリ觀察スルトキハ當然政府ニ此權ナカルヘシト雖モ社會上ヨリ考フルトキハ其全負債ヲ支拂ハサルトキハ免除スルヲ得サルヤ又ハ其國ノ社會ノ情体又ハ商業上ノ進歩ノ程度カ如何ナル點ニ於テアリヤ等ノコトハ此免除命令ノ規定ヲ設ケ又ハ之レヲ與フルニ付キ大ニ參考セサルヘカラサルモノナリトス

是ヨリ倒産者ノ刑事上ノ責任ノコトヲ講述ス可シ借金ヲ返濟セサルコトハ昔時ハ痛ク之ヲ惡ミタルモノト見ヘ財產ヲ隱匿シテ借金返濟ヲ盡サ、ルコトアルトキハ希臘羅馬等ニテハ其負債者ヲ奴隸ト爲シ貸金ノ抵償ル如クナシタリ英國ニ於テモ古昔ハ之ヲ死刑ニ處シタルコトアリシカ社會ノ開明ニ赴クニ從ヒ金銀ヲ貴フノ情薄ヲキ漸々其科スル所ノ刑罰ヲ輕減スルニ至レリ今英國倒産法ノ沿革ヲ見ルニ第一期ハ死刑第二期ハ終身ノ追放第三期ハ有期ノ追放第四期ハ三年ノ輕罪第五期即チ現今ノ法律在テハ二年以下ノ輕罪トシ或ハ勞役ヲ附加シ或ハ附加

セサル所ノ刑罪ニ處スルモノトセリ借如何ナル場合ニ刑罰ヲ科スルヤト云フニ債主カ詐欺騙瞞ノ術ヲ以テ債主ヲ欺キタル場合即チ日本ニテ云ヘハ分産ノ際ニ財產ヲ隱匿シタル者ハ云々ト規定セル刑法ノ箇條及詐欺取財ニテ倒産ノ申渡ヲ受ケタル刑法ノ規定ナリトス故ニ英國ノ有罪倒産ニハ第一必ス負債主ニ惡意アルヲ要ス即チ債主ヲ欺罔スル等ノ故意アルヲ要セリ第二負債主カ受理命令ヲ受ケタルコトヲ要ス而シテ惡意アルヲ必要トスル所以ノモノハ別ニ説明スル迄モナク諸君ハ刑法ヲ研究セラレタルトキ之ヲ學知セラレタルナラン竊盜ヲ犯シテ他人ノ財產ヲ奪フモ強盜ヲ爲シテ他人ノ財產ヲ剝クモ又詐欺ノ手段ヲ以テ他人ノ財產ヲ奪フモ其行フ所ノ手段ヨリ各異ナレルモ他人ノ財產權ヲ剝奪スルニ至テハ共ニ相同シ大陸諸邦ノ法律ニ依レハ有罪倒産ノ外ニ過失倒産ナルモノヲ設ケ假令惡意ハナカリシモ重過失ノ爲ニ倒産シタル者ハ之ヲ罰スルコト、セリ又受理命令ノ發布ヲ必要トスル所以ノ者ハ若シ仕拂能力ヲ失シ倒産處分ヲ受クヘキ地位ニ立タサル者ハ通常ノ詐欺取財ヲ以テ之ヲ罰スレハ事足り別ニ特別ナル規定ヲ要セサレハナリ千八百四十九年ノ倒産法條例マテハ倒産法條例中罰則

ヲ設ケシモ千八百六十九年ノ條例發布以來ハ倒産法ニハ民事上ノ事ノミヲ規定シ之カ附則ハ他ノ法律ヲ以テ之ヲ規定スルコト、セリ即チ千八百六十九年ノ倒産條例ト同時ニ負債主條例ナルモノヲ發布シテ其刑罰ヲ規定セリ而シテ現今ハ倒産裁判所ニ於テ單ニ倒産條例中ニ規定スル事項ノミヲ管轄シ刑事ハ之ヲ管轄セサルコト、爲シタルカ故ニ被告人ヲ負債主條例ニ依リ罰スルニハ先ツ倒産裁判所ニ於テ受理命令ヲ受ケタル後ナラサルヘカラス刑事裁判所ノ裁判官ハ勝手ニ倒産處分ヲ受クヘキモノト認定スルヲ得ス日本ノ商法草案モ亦此主意ニ出テ倒産スルモノナルヤ否ハ民事裁判官之ヲ判決シ其判定ノ後ニ於テ刑事ニ關スルコトハ刑事裁判所ニテ之ヲ判決スルコト、ナセリ

負債主條例ニ依リ之ヲ罰スヘキモノ數多アリ今其重要ナルヲ舉クレハ

- 一、負債主カ受理命令ヲ受ケ而シテ自分ノ財産ヲ隱匿シ以テ之ヲ受理官又ハ管財人ニ引渡サ、ルトキ
- 二、負債主カ自己ノ所有ノ帳簿證書類ヲ引渡サ、ルカ若シクハ之ヲ棄却シタルトキ

三、倒産請願書ノ提出前四ヶ月以内ニ十磅以上ノ財産若クハ帳簿證書類ヲ隱匿シ若クハ棄却シタルトキ(日本ニテ云ヘハ身代限ノ際ニ財産ヲ隱匿シタル箇條ニ當ルナリ)

四、未タ免除命令ヲ受ケサル者ニシテ未タ免除命令ヲ受ケサルコトヲ告ケスニテ他人ヨリ二十磅以上ノ負債ヲ爲シタルトキ

終リニ一言スヘキハ何故ニ倒産申渡ヲ受ケタル負債主ヲ罰セスシテ受理命令ヲ受ケルヲ以テ足レリトスルヤト云フニ罪ノ成否ハ和解ノ如何ニ關セス其倒産ヲ爲スヘキ位置ニ由ルモノニシテ倒産處分ハ和解ノ調ハサルトキニ之ヲ爲スモノニシアレハ之ヲ以テ犯罪ノ有無ノ程度トハ爲ス能ハス之ニ反シ受理命令ハ倒産行爲アリタル以上ハ倒産ヲ請願スル者アルニ於テハ何時ニテモ之ヲ發スヘキモノナレハ犯罪有無ノ標準トナスコトヲ得ルニ依ルナリ

又日本ニテ身代限ノ際ニ財産ヲ隱匿シタルモノ云々ノ箇條ハ實ニ確定ノ期限ニアラサルカ故ニ曖昧トシテ人々之カ見解ヲ異ニシ裁判所モ亦時々齟齬シタル判定ヲ爲スコトアレハ是等模糊タル箇條ハ是非倒産法ノ規定ト共ニ改正ヲ望ム所

第十一章 小額負債處分

抑裁判ナルモノハ吾人ノ權利義務ヲ規定スル所ノ法律ヲ適用スルニ止マリテ其處分ノ難易ニ關係スルコトナシ故ニ裁判ハ道理ニ基キ論理一偏ニテ直行スルコトヲ得レトモ其執行ニ至テハ則チ然ラス執行ハ實物ニ付書面上ノ議論ニアラスニテ實際ノ効果ヲ生スヘキモノナレハ論理一偏ニ直行スル能ハサルコト多シ故ニ道理上ヨリ見ルトキハ立派ナル裁判モ遂ニ執行スル能ハサルコト往々ニシテ之レアリ倒産處分ナルモノハ之ヲ言渡ス際ニ在テハ普通ノ裁判同様ナレトモ之レカ處分ニ着手スルニ及ンテハ則チ財產ニ付直接ニ實際ノ取扱ヲ爲スモノナリ此金錢上實際ノ取扱ヲ爲スニハ時間ト費用ヲ要ス時間ト費用ハ即チ金錢ナリ若シ倒産法ノ目的ハ何ソヤト問フモノアラハ素ヨリ權利ノ存スルヤ否ヤハ觀察セサルニアラサルモ要スル所ハ金錢ノ仕拂ナリト答フレハ可ナリ然ラハ百圓ノ金ヲ受取ルニ千圓ノ費用ヲ要シタリトセハ權利ハ如何程擴張シ得タルモ損益償ハサルヲ以テ如斯ノ法律ハ當チ得タルモノト云フチ得サル可シ此點コソ實ニ執行

規則ヲ規定スルニ付テ特ニ注意ス可キ所ナリ故ニ權利ノ實行ヲ充分ナラシメントセハ必ス細密ノ規定ヲ要ス細密ノ規定ニ從ハント欲セハ繁雜ナル手續ニ依ラサルヲ得ス繁雜ナル手續ニ依ランニハ時間ト費用トヲ要ス日本ノ身代限規則ハ殆ント規則ナキモノ、如シ簡潔ナルカ故ニ論外ナルモ英國ハ數十年間ニ數度ノ改革ヲ經テ各國中ニ評判高キ條例ナレハ其規定モ從テ綿密ナルヲ以テ時間ト費用ヲ要スルコトモ亦大ナリ如斯大ナル費用ト時間トヲ要スル手續ハ之ヲ巨額ノ倒産處分ニ適用セハ充分ニ權利ヲ保護シ好結果ヲ得ルモ小額ノ倒産處分ニ適用セントスルトキハ損得相償ハス費用倒トナルカ故ニ英國倒産法ニ於テハ小額ノ倒産ニハ特別ノ規定ヲ設ケタリ此規定ハ千八百八十三年倒産條例ニ於テ始メテ規定シタルモノニシテ古昔未ク曾テ有ラサル所ノモノナリ又何レノ國ニ於テモ如斯簡便ノ手續アルヲ聽カス其手續ニ二種アリ即チ左ノ如シ

甲、小倒産 (Small bankruptcy) 條例第百二十一條ニ依レハ受理官ノ報告書或ハ請願債主ノ上申ニヨリテ負債者ノ財產ノ價格三百磅ニ超ヘサルコトヲ申シ出テタルトキハ裁判所ハ簡易手續 (Summary proceeding) ニヨリ所分スルコトヲ得ルモノト

セリ簡易手續トハ如何ナル仕組ナルヤト云フニ(一)管財人ヲ撰ハス(二)監督委員ヲ撰舉セス(三)其他條例ニ反セザル以上ハ總テ費用ヲ減スルコトヲ得ヘキ手續ヲ用ユルコトヲ得

此簡易手續ニ於テハ管財人ヲ撰ハサルヲ以テ管財人ノ職務ハ受理官之ヲナスモノトス受理官ハ政府ノ官吏ナルカ故ニ報酬ヲ要ス又監督委員ヲ設ケサルカ故ニ監督委員ノナス可キ職務ハ商務局其任ニ當ルモノトスルカ故ニ時間ト手續トヲ省シコトヲ得ルナリ

然レトモ這ハ是レ債主ノ便利ヲ圖リテ設ケタル手續ナルカ故ニ特ニ通常ノ手續ニ依ラシコトヲ欲スル債主アルトキハ簡易手續ニ依ラスシテ通常手續ニヨルヲ得ルハ勿論ナリトス

乙、州裁判所財産管理處分 此處分ハ負債ノ價額五十磅ニ超ヘサル場合ニ於テハ州裁判所カ便宜仕拂ノ方法ヲ定メ之ヲ命スルコトヲ得或ハ直チニ財産ヲ公賣ニ付シ或ハ月賦拂年賦拂ノ約束ヲナサシメ又或場合ニハ負債主ヲ引致スルコトヲ得此處分ニ付テハ細密ノ規定アルモ餘リ必要ニ非レハ茲ニハ之ヲ約ス可シ

英國ノ倒産法ハ前ニモ述タル通り大ニ費用ヲ要スルカ故ニ無論如斯特別規則ヲ定ムルコトヲ要ス故ニ實驗ニヨリテ僅々數十年間ニ四五度モ改正シ其結果ハ今日ノ如クナリ居レリ日本ニテ費用甚タ少キト云フハ比較上ノ語ニシテ隨分莫大ノ費用ヲ要シ時ニハ五六圓ノ負債ノ身代限處分ノ爲メニ數十圓ヲ費ヤスコトアリ又ハ債權ノ價格ハ五百圓若クハ千圓ニ上ルモ負債主ノ財産ハ鍋ト釜トノ外ニ一點ノ財産ナキコトアリ日本ニテ如斯狀況ハ常ニ有勝ノコトニシテ十中ノ七八ヲ占ム然ラハ即チ今日ニ當テハ小額負債處分ノ特別規則ヲ設クルハ亦極メテ緊要ナルコト、云ハサルヲ得ス

第十八回

第十二章 組合ノ倒産

是マテ説キ來タル所ハ倒産處分ニ關スル一般ノ通則ニシテ其目的ハ一個人ニ適用スルニ在リ然ルニ愛ニ會社ナルモノト組合ナルモノトアリ其會社ノ中ニハ「コーポレーション」ト「コンパニー」ト「ニアリ」コーポレーション「即チ會社ハ法人ナリト雖トモ組合ハ法人ニアラサルナリ而シテ「コンパニー」ハ組合ト會社トノ中間ニ

位スルモノナルコトハ諸君ノ既ニ會社法ニ於テ了得セラレタル所ナラント信ス
 而シテ此組合ニ對シテハ直ニ倒産ヲ申渡スコトヲ得レトモ「コーポレーション」ニ
 ハ勿論「コンパニー」即チ株式會社ニ對シテハ此規則ヲ適用セサルナリ英國ニテハ
 特ニ會社條例アリ之ヲ以テ會社ノ破産ノ場合ヲ規定セリ獨リ組合ニノミ本法ヲ
 適用スルモノナリ何トナレハ別ニ組合ニ關スル規則ナキノミナス組合ハ法人
 ニアラスシテ連帶義務者ナルカ故ニ固ヨリ一個人ニ關スル規則ヲ適用スヘキモ
 ノナレハナリ然レトモ一私人ノ一團體ヲ爲シタルトキハ又直ニ一個人ニ適用ス
 ル規則ヲ以テ之ニ臨ムコトヲ得ス其然ル所以ノモノハ他ニアラス組合ナルモノ
 ハ社會ノ公衆ニ對シテ契約ヲ爲シ又ハ取引スルニ當リテハ實際上自分一個ノ資
 格ヲ離レテ運動スルコトアリ其財產モ亦各自一個ノ所有財產ト組合ノ所有財產
 トハ實際ニ之ヲ區別セリ又組合ト取引スル者ニ於テモ其組合ト取引スルトキト
 其組合中ノ一個人ノ取引スルトキハ其意思ヲ異ニセリ此區別ヨリ或點ニ付キ一
 個人ニ適用スル規則ヲ以テ組合ニ適用スルヲ得サルコトアリ故ニ本章ニハ其特
 別ナル規定ノコトヲ講述セント欲スルナリ

先ツ組合ノ能力ヲ失シテ倒産行爲ヲ爲シタルトキニ倒産請願スルコトニ付キ講
 述セシニ此倒産請願ニ關スル一般ノ規則ハ組合ノ支拂能力ヲ失シタルトキハ組
 合ニ對シ若シハ組合員全体ニ對シテ倒産請願ヲ爲サ、ルヘカラス若シ其中ノ一
 人若シハ數人ノ支拂能力ヲ失シタルトキハ其一人若シハ數人ニ對シテ倒産ヲ請
 願スルヲ以テ通則トス
 然ルニ債主ヨリ組合ニ對シ倒産ヲ請願スル場合ニハ必ス組合全体ヲ相手取ルニ
 及ハス其中ノ一人若シハ數人ニ對シテ倒産ヲ請願スルコトヲ得何トナレハ組合
 員ハ總テ連帶義務者ナレハナリ然レトモ反對ノ場合例ヘハ茲ニ組合員十人アリ
 ト假定セシニ其中甲乙丙ノ三人ニ係ル場合ニ於テ債主ハ組合全体ニ對シテ倒産ヲ
 請願スルコトヲ得ルヤ曰ク否ナ請願スルコトヲ得ス何トナレハ他ノ七人ハ更ニ
 甲乙丙ニ關係ナキモノナレハナリ然リ而シテ倒産請願ヲ爲スニハ倒産行爲ヲ證
 明スルヲ必要トス故ニ組合ニ對スルトキニ於テモ亦倒産行爲ヲ證明セサルヘカ
 ラス即チ組合員全体ノ倒産シタルコトヲ證明スヘシ尤モ組合員ハ互ニ代理權ヲ
 有スルカ故ニ縱令ヒ其中ノ一人ノ倒産行爲ヲ犯スモ其行爲ニシテ組合營業中ノ

目的内ニアルトキハ法律上組合員全体ノ之ヲ犯シタルモノト見做スヘシ又組合ニ對スル受命命令ナルモノハ所謂連帶義務者タル組合ニ對シテ發スルニ依リ其組合共有ノ財産ニ對スル能力ヲ失スルノミナラス其影響ハ組合員各自ノ所有財産ニ及フモノナリ

右ノ如ク組合員全体ヲ相手取り倒産ヲ請願スル場合ヲ連合請願 (Joint petition) ト稱シ之ニ反シテ一人若クハ數人ニ對スル場合ヲ格別請願 (Special petition) ト云フ此二者ニ付キ注意スヘキ點ハ前ニ述ヘタルカ如ク連合請願ノ場合ニハ必ス債主ハ其組合ニ對シテ債權ヲ有スル場合ナラサルヘカラス故ニ其中ノ一人若クハ數人ニ對スル債權ハ連合請願ヲ爲スコトヲ得ス之ニ反シテ格別請願ノ場合ニハ一人若クハ數人ニ付テハ其一人若クハ數人ニ對シテ倒産ヲ請願スルコトヲ得ルハ勿論又組合員全体ニ對スル倒産ト雖モ一人若クハ數人ニ對シテ各別請願ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

抑此格別請願ノ場合ニ於テ唯リ倒産ノ場合ニ限り連帶ノ負債ニ付キ格別請願ヲ許シタル所以ノモノハ別ニ理由ノ存スルモノアリ夫レ倒産處分ナルモノハ通常ノ

裁判トハ異ナリテ一ノ執行處分ヲ兼スルモノナリ故ニ契約法ノ連帶義務者ノ場合ニ於テ訴ヲ起スニハ全体ノ連帶者ヲ訴ヘサルヘカラスト雖モ既ニ確定シタル權利ヲ執行シ即裁判ヲ執行スルニ當リテハ連帶者全体又ハ一人ニ對シテ出訴スルモノ可ナリトノ理ヨリ來リタルモノナリ

是マテハ第三者ヨリ組合員ニ對スル規則ヲ述ヘタルカ組合員相互モ亦右ノ如ク倒産請願ヲ爲スコトヲ得ルナリ茲ニ甲乙丙ノ三人アリト假定センニ甲ハ乙ニ對シ乙ハ丙ニ對シテ倒産請願ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ然レトモ右三人ハ其三人ノ組合ノ一團體ニ對シテハ倒産請願ヲ爲スコトヲ得サルナリ蓋組合員ノ組合員モノニ對シテ倒産請願ヲ爲スハ當サニ同一ノ人カ同一ノ人ニ向ヒテ請願スルモノナレハナリ之ヲ要スルニ組合員ノ一人ハ其組合員ニ對シテ倒産請願スルコトハ之ヲ許スモ組合ノ全体ニシテ一方ニハ權利者トナリ他ノ一方ニハ義務者トナルカ如キ一人ニシテ反對ナル二個ノ資格ヲ以テ倒産ヲ請願スルコトハ之ヲ許サス

次ニ組合ニ對スル倒産請願ノ結果如何ニ付キ講述スヘシ

若シ組合員ノ一員ニ對シテ倒産申渡アレハ其組合ハ之レト同時ニ消滅スルモノトス是レ即チ組合ト會社トノ異ナル所ニシテ組合ハ組合員相互ノ約束ニ成リ而シテ其約束ハ其組合員全体ノ合意ナリ故ニ若シ組合員ノ一員ニシテ倒産スレハ當初ノ契約ヲ更改セサルヘカテサルハ自然ノ結果ナリト云フヘシ夫レ既ニ組合ニシテ倒産スレハ其組合ノ財産及組合員各自ノ所有財産モ共ニ受理官又ハ管財人ニ移ルモノナリ之ニ反シテ若シ組合中ノ一員ニシテ倒産シタル場合ニ於テハ其者ノ所有財産ノ管財人ニ移ルハ論ヲ俟タサレトモ組合中ノ財産ニ至テハ管財人ニ移ルヘキモノニアラス其移ルヘキモノハ唯組合ヨリ受取ルヘキ財産ノミニ限ルナリ

爰ニ又一種ノ請願アリ何ソヤ曰ク連續請願(Successive petition)是ナリ此連續請願ナルモノハ數人相集合シテ一ノ組合ヲ組織スル時ニ當リ其中ノ二人以上ノ者ノ倒産スルトキニ於テ格別ニ請願スルモノヲ云フ此場合ニ付キ一般ノ規則ハ組合ニ對シテ倒産請願スル場合ニ非スシテ各組合員ニ對スル場合ナリ故ニ其各裁判所ニ起訴請願スレハ可ナリト雖モ裁判ノ手續ヲ省キ處分ノ一徹ニ出ツルヲ要スル

カ爲メ數個ノ倒産請願アル場合ニ於テハ其後ノ請願ハ勿論又一旦他ノ裁判所ニ請願シタルモノト雖モ必ス最初ノ請願ヲ受理シタル裁判所ニ之ヲ提出シ又ハ移轉セサルヘカラス此事ハ日本ニ於テモ既ニ行ハル、所ニシテ處分ノ一徹ニ出ツルコトヲ要スルニ甚タ必要ナル規則ナルヘシ然レトモ斯ハ是倒産申渡アル前即チ請願ニ關スル規則ナリ其既ニ倒産申渡ヲ受ケテ處分セラル、トキノ規則ニ至テハ未ダ其規定ナキカ如シ

是ヨリ組合ノ財産ノコトニ付キ講述スヘシ

前述ノ如ク組合ノ財産ト組合員ノ財産トニ區別アリ又組合員ニ對スル債主ト組合ニ對スル債主ニ區別アリ既ニ此二者ノ區別アル上ハ組合若クハ組合員ノ倒産シタル場合ニ於テ如何ナル分配法ニ依ルカ又如何ニ分配スルカハ甚タ必要ナル問題ナリ其問題ヲ論究スル前ニ先ツ如何ナルモノヲ組合ノ共有財産ト云ヒ如何ナルモノヲ組合員ノ分有財産ト云フカヲ説明セサルヘカラス

凡テ組合員カ組合設立ノ當時ニ差出シタルモノハ皆チ組合ノ共有財産ナルハ勿論ニシテ其後ニ増殖シタル利益ト其他組合ノ營業中ニ造リ出シタル動産不動産

モ亦組合ノ共有財産ニ屬スルナリ之ニ反シテ組合員ノ特ニ設ケタルモノハ組合員ノ分有財産ナリ而シテ斯クハ一應ノ推測ニシテ組合營業ノ店頭ニ在ルモノト雖モ反證ヲ以テ組合員ノ分有産ナル旨ヲ證明スルコトヲ得ルナリ右ノ如ク區別スルノ必要アル上ハ換言スレハ此區別ニ依リテ債主ノ權利ニ影響ヲ及ホスコトアレハ其分有財産ヲ共有財産ト爲シ共有財産ヲ分有財産ト爲スニ付テハ之レカ規定ナカルヘカラス即チ組合ノ共有財産ヲ以テ分有財産ト爲スコトヲ得ルヤ又分有財産ヲ以テ共有財産ト爲スコトヲ得ルヤ否ヤ之レヲ制限スルノ方法ナキヲ以テ今日ハ自由ニ爲スコトヲ得ルモノトス且ツ組合員ノ分有財産ニ對スル債主モ組合ノ共有財産ニ對スル債主モ共ニ抵當權ヲ有スルトキハ均シク之レヲ保護スヘキハ論ヲ俟タサレトモ其債主ニ抵當權アルカ爲メ之ヲ保護スルハ特別ノ場合ニシテ抵當權ヲ有セサル債主ハ抵當權ヲ有スル債主ヨリ左右セラル、ハ亦已ムヲ得サルコトニシテ其結果ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ如何トモスルコトヲ得サルナリ

負債ノ證明ニ付テハ通常倒産ノ場合ト組合倒産ノ場合トニ異ナル所ノモノアリ

即チ組合ノ倒産シタル場合ニハ其組合ノ共有財産ニ對シテ分配ヲ受ツルカ爲メ證明スルト組合員カ倒産シタル場合ニハ其組合員ノ分有財産ニ對シテ證明スルトノ二アリ今前述セシ原則ヲ見ルニ組合ニ對スル債主ハ先ツ組合ヨリ支拂ヲ受クルノ權アリ而シテ組合員ノ分有財産ニ對スル債主ハ其分有財産中ヨリ配當ヲ受クルモノトス然レトモ負債ヲ證明スルニ當リテハ同時ニ分有財産ト共有財産トニ向テ證明スルコトヲ得ヘシト雖モ其分配方法ニ至リテハ何レカ一方ヨリ始メサルヘカラス例ヘハ甲乙丙丁ノ四人カ組合營業ヲ爲ス場合ニ於テ組合ニ對スル債主アリ又組合員各自ニモ債主アリトセハ支拂ヲ受クル者ヨリ云ヘハ組合ノ債主ハ先ツ其組合ノ共有財産ヨリ支拂ヲ受クヘシ而シテ尙ホ不足ナルトキニ於テ右四人ノ分有財産ニ係ルヘキナリ之ニ反シテ分有財産ニ對スル債主ハ該組合ノ共有財産ニ對シテ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス甲ノ債主ハ甲ヨリ乙ノ債主ハ乙ヨリ支拂ヲ受クルノミ而シテ尙ホ不足ノ生シタルトキ爰ニ始メテ共有財産ニ對シテ請求スルモノトス支拂ハ既ニ此ノ如シ然リト雖モ支拂ヲ受クルコト、債權ヲ證明スルコト、ハ之ヲ區別セサルヘカラス組合ニ對スル債主ハ双方ニ向テ證明スルコト

トヲ得而シテ此規則ハ分有財産ト共有財産トノ何レニモ債主アル場合ナレトモ若シ一方ニ對シテ債主ナキトキハ他ノ一方ニ對スル債主ハ始ヨリ債權ヲ證明スルコトヲ得ルノミナラス尙ホ支拂ヲ受クルコトヲ得ルハ勿論ナリ此場合ニ深ク注意スヘキコトアリ即チ組合員ハ他ノ組合ノ倒産シタル場合ニ對シテ他ノ債主ト同一ニ債權ヲ證明スルコトヲ得ルカ或ハ組合ノ倒産シタルトキニ他ノ債主ト同地位ニ立チテ證明スルコトヲ得ルヤ否ヤノ點是ナリ

第一組合ノ倒産シタルトキハ假令組合ヨリ其組合員ノ一人ニ貸金アルモ其債主ノ地位ニ立チテ組合員ハ他ノ債主カ總テ支拂ヲ受ケタル後ニアラサレハ債權ヲ證明スルコトヲ得ス何トナレハ一方ノ債主タルノ地位ヨリ云ヘハ同地位ニアレトモ自己ノ資格ヨリ云ヘハ組合ノ財産ヲ負債ニ充テタルニ尙ホ不足チ生スルトキハ自己ノ財産ヲモ差押ヘラル、性質アルヲ以テ一方ニテハ權利者ノ地位ニアルモ一方ニテハ義務者ノ地位ニアレハナリ而シテ其權利者ハ何人ニ對シテ權利者ナリヤト云フニ債主ニ對シテハ權利者ノ地位ニアルモノト云フヲ得ス之レト同シク第二ニ組合員ノ倒産シタルトキモ亦同様ナリ其財産ニシテ支拂ニ不足チ生

スルトキハ組合中ノ一部ノ財産ハ差押ヘラル、ヲ以テ組合ヨリ組合員ニ貸金アリトスルモ其組合ハ他ノ債主ト同地位ニ立チテ證明スルコトヲ得ス必ズ他ノ債主ノ後ニ證明スヘキナリ

第十三章 倒産裁判所

倒産法ノ部分ハ前回ニテ其講議ヲ終レリ此倒産處分ノ管轄權ヲ有スル裁判所并ニ其手續ハ本講義中ニ述フルニ及ハサルナリ大陸諸國ノ法律ヲ見ルモ倒産法中ニ裁判所ノ管轄及其構成法ノ規定アルコトナシ獨リ英國倒産法ニ於テハ條例中ニ規定セルヲ以テ其大略ヲ左ニ講述スヘシ

今倒産裁判所ノ發達及ヒ其沿革ヲ按スルニ英國ニ於テハ千八百三十三年各裁判所ノ外ニ獨立シテ特ニ倒産處分ノ管轄權ヲ有スル裁判所ヲ設立シ之ヲ倒産裁判所 (Bankruptcy court) ト稱セリ而シテ其後倒産條例ハ數回ノ改正アリシニモ拘ハラズ此倒産裁判所ハ依然トシテ存在セリ其改正ハ千八百四十九年千八百六十一年及千八百六十九年ナリ又千八百七十三年ニ於テ夫ノ有名ナル訴訟手續條例 (Litigation act) ノ發布ニ依リ大ニ一般裁判所ノ構成法ヲ變更シテ該裁判所ハ更ニ

何等ノ影響ヲモ受ケサルナリ然ルニ八十三年ノ現行法ヲ以テ之ヲ廢シ遂ニ夫ノ七十三年ノ訴訟手續條例ニ依リ設立セラレタル上等裁判所ノ一部ト爲シタリ故ニ今日ニ於テハ倒産處分ノ管轄權ハ此裁判所ノ有スル所トナレリ而シテ該裁判所ノ長官ハ則チ大法官(Lord Chancellor)ナリトス

右述ヘタル所ノモノハ中央倒産裁判所ノ沿革ナリ其他各地方ニ州裁判所ナルモノアリ此裁判所モ亦倒産處分ニ付キ管轄權ヲ有スルモノトス現行ノ構成法ニ據レハ倒産處分ニ關シテ始審ノ裁判ヲ爲スハ上等裁判所(High court of Justice)ト此州裁判所(County court)トノ二ナリ州裁判所ハ各地方ニ依リ管轄區域ヲ異ニスルカ故ニ其區域内ニ生スル倒産處分ヲ取扱フニ過キサルノミ

上等裁判所ハ日本及佛國ト異ナルヲ以テ參考ノ爲メニ其大畧ヲ述フヘシ元來各地方ノ州裁判所ハ或一定ノ價額ヨリ以上ノ事件ニ付テハ管轄權ヲ有セス其價額以上ノ事件ハ中央倒産裁判所ニ提起セサルヘカラス反之上等裁判所ハ英國全体ノ訴訟ヲ管轄スレトモ獨リ倒産處分ニ至リテハ上等裁判所ト州裁判所トヲ問ハス其價格ニ制限ナク之ヲ管轄スルコトヲ得ルナリ唯州裁判所ハ其見込ニ

依リ金額ノ多キカ又ハ事件ノ重大ナルトキハ中央裁判所ニ移スコトヲ得ヘシ其他倒産裁判所ハ其倒産處分ニ付キ直接間接ニ發生スル訴訟事件ニ付キ上等裁判所ニ於テ便宜ト認ムルトキハ之ヲ管轄スルノ特權ヲ有ス各地方裁判所ニテハ直接ノ發生事件ニアラサレハ管轄權ヲ有セス直接ナリト雖トモ其價格二百磅以上ニ涉ルトキ及其間接ノ事件ハ双方對主ノ合意ナケレハ管轄權ヲ有セサルナリ我訴訟法草按ニアル如ク元來裁判所ノ管轄權ヲ區劃スルニ金額及區劃ニ依リ制限ヲ設クル所以ノモノハ重大ナル事件ニ付テハ上等ノ裁判所ヲシテ充分ニ審理ヲ盡サシムルノ精神ニシテ畢竟ズルニ對主ノ利益ヲ保護スルニ在リ故ニ其對主双方ニ於テ下等ノ裁判所ニ呈出スルモ妨ケナキ旨ノ合意アレハ故ラニ之ヲ上等ノ裁判所ニ移スノ必要ナシ是レ則チ合意アレハ其直接ナルト否トヲ問ハス又訴訟物件ノ價格ノ多少ヲ論セス各地方裁判所ニ管轄權ヲ與ヘタル所以ナリ以上ニ述ヘタル所ノモノハ始審ノ管轄權ナレトモ始審裁判所ノ倒産處分ニ付キ不服ナルトキハ上訴スルコトヲ得上訴ハ則チ上訴裁判所(High court of Appeal)ニ爲スヘシ日本ニハ此裁判所ナキヲ以テ其適用ヲ示スコト能ハス

若シ又上訴裁判所ノ裁判ニ不服ナルトキハ該裁判所ノ許可ヲ得テ「パリーリアメン
ト」ノ上院ニ上訴スルコトヲ得

以上ハ英國一般ノ訴訟手續ナリ日本ノ大審院ノ位置ハ則チ此上院ニ當ルモノナリ
又此上院ハ上訴裁判所ヨリ控訴スルニ付テハ其原裁判所タル上訴裁判所ノ許可
ヲ受ケサルヘカラス何故ニ此特別ナル許可ヲ必要トスルヤ元來裁判所ノ許可ヲ
與フヘキコトニアラストノ疑ヲ生スヘキ者アルヘシト雖トモ日本ノ控訴トハ異
ナリテ上院ニ上訴スルトキハ莫大ナル費用ヲ要スルカ故ニ妄リニ之ヲ許ストキ
ハ敗訴者ニ於テ無資力ノ權利者ヲ困シマシムルノ結果ヲ生スルニ依リ其上訴ノ
理由ナキモノハ之ヲ許サ、ルナリ

右ニテ倒産法ノ講議ヲ終リシルニ付參考ノ爲メトテ左ニ日本ノ身代限ノ處分規
則ニ付一言セン我國ノ身代限處分ニ關スル法律ノ主要ナルモノハ左ノ如シ

明治五年第百八十七號布告 華士族平民身代限規則

同 八年第百二號布告 金穀貸借受人證人辨濟規則

同 五年第百七十號布告 同居者身代限處分ニ關スル規則

同 六年第百五十五號布告 契約期限未滿ノ貸金處分ニ關スル規則

同 八年第五十三號布告 身代限處分ニ加入セサル抵當主ノ債權處分ニ

關スル規則

明治五年ノ身代限規則ハ其名ハ美ナルモ其實ハ身代限規則ト稱スヘカラス其規
則中ニハ如何ナルコトヲ規定シタルヤ一ハ債權主ノ身代限ヲ受ケタルトキハ其
當日ヨリ日用品ノ如キモノヲ與フヘキコト一ハ財産公賣期限ノコト是ナリ然ル
ニ如何ナル方法ニ依リ身代限處分ニ着手シ處分シ又ハ分配スルヤニ至リテハ一
言ノ之ニ及フモノナキハ怪シムヘキナリ

次ニ八年ノ規則ヲ見ルニ主ナル義務者タル債權主ノ辨償ヲ規定セシテ從タル
義務者ノ受人證人ノ義務履行ノコトヲ記載セリ而シテ其大体ヲ區別スルニニア
リ

其一ハ本人即チ主ナル義務者ノ身代限處分ヲ爲シ終リタル後ニ證人ヲ訴フヘキ
コト其二ハ負債支拂ノ義務ハ子々孫々ニ及フコト是ナリ吾輩日本人ノ負債辨償
ノ義務ヲ規定スル最モ肝要ナル規則ナリ然ルニ其第一ニ本人ノ身代限處分ヲ爲

シタル後ニ非カレハ證人ヲ訴フルコトヲ得ストハ可ナリ然レトモ第二ノ子々孫々ノ規則ハ何レノ國ノ法律規則ニモ見サル所ナリ然ラハ何故ニ此規則ヲ設ケタルヤ是レ封建制度ノ餘習ニ過キスシテ其人ノ負債スルニアラスシテ其家ノ負擔スルモノナリト爲スニアリ

次ニ五年ノ二百七十五號ハ其精神甚ク可ナルカ如シ尤モ余カ其善美ナリト云フハ支拂期限ノ未滿ノ云々即チ六年二百五十二號ノ布告ニシテ此規則ハ必ス西洋某國ニ習ヒシモノナラン

次ニ八年ノ五十三號布告ハ法律上ヨリ論スルトキハ穩當ノ規則ト云フヲ得ス今其概畧ヲ述ヘンニ抵當債主カ身代限處分ニ加入セサルトキハ裁判所ニ於テ其者ノ受クヘキ配當ノ金錢ヲ預リ置キ以テ他日ニ出頭スルヲ待ツノ精神ナリ凡ソ民事ハ刑事ト異ナリ權利者自ラ其權利ヲ保護セスシテ裁判所ノ之ヲ保護スルノ理由ナシ權利ハ自ラ保護スル者ノ爲メニ之ヲ保護シ其權利ノ上ニ眠ル者ハ之ヲ保護スルノ必要ナシ然ルニ該規則ハ權利ノ上ニ眠ル者ヲ保護スルノ精神ナルカ故ニ民法ノ原則ニ背クモノナリ

以上ハ我國身代限處分ニ關スル規則ノ概略ナリ其不備モ亦極マレリ我裁判官モ此點ニ付テハ大ニ困惑ヲ感スレトモ良法ナキニ於テハ已ムヲ得ス之ニ據テ其處分ヲ爲サ、ルヲ得サルナリ而シテ此處分法ハ徳川覇府以降ノ慣行ナレトモ不充分ナル所アリテ又各地相同シカラス之ヲ要スルニ其結果ノ大体ハ同シキモ其細則ニ至リテハ其趣ヲ異ニセリ

又伺指令ハ數多アリテ其中ニハ必要ナル手續又ハ債主ノ權利義務ニ關スルモノモ亦少ナシトセス尤モ此等ハ法律ト云フヘカラサルモ實際ニ行ハル、所ノモノナルヲ以テ研究スヘキノ必要アレトモ其數甚ク多キカ故爰ニ之ヲ略ス

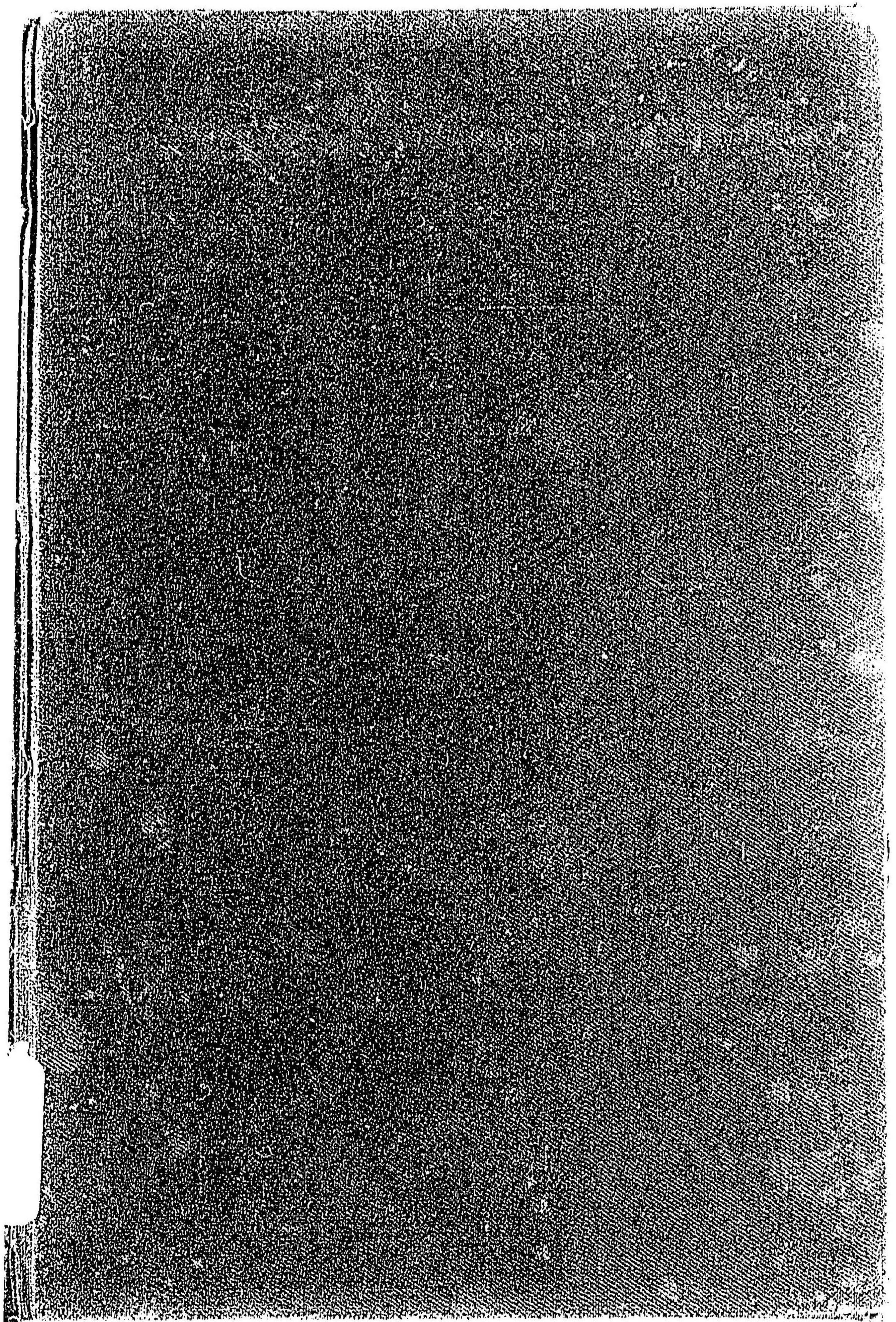
倒産法大尾

明治三十一年十一月十八日合本記入

二

ノ

14
567



14

567

310305-000-0

14-567

倒産法

中橋 徳五郎 講義

